

北陸信越工学教育協会の設立と歩み（序文）

本レポートは、設立 72 周年を迎える「北陸信越工学教育協会」の設立のプロセスとその歩みの概要について数多くの資料を基に整理したものである。

周知のように、昭和 20(1945)年 8 月の終戦を境に我が国は国家百年の大計を成すともいわれる教育制度を抜本的に改革し、昭和 24(1949)年には新制大学が誕生した。このような時代背景のもとに、昭和 26(1951)年 7 月、GHQ(連合国軍総司令部)の招聘によって米国工業教育使節団が来朝し、東京をはじめ全国 6 地区において新たに学制改革を実施した我が国の進むべき工業教育の方向性を明示した。そして、疲弊した我が国の産業界を蘇生させるためにも、1893 年に設立された米国工業教育協会(American Society for Engineering Education :ASEE)に類似した工業教育協会を設立することが決議された。

昭和 26(1951)年 9 月、全国の大学工学部に対して照会状が送付され、其々の工学部が所属を希望する地区としては、「北海道、東北、関東、北陸、東海、関西、中国及び九州」、協会の選択としては「地区ごとに協会を設置し、その連合体として中央に協会を置く」ことになった。

その結果、昭和 27(1952)年 8 月、日本工業教育協会(Japanese Society for Engineering Education :JSEE)の創立総会が丸の内日本工業倶楽部において開催され、同年 6 月、北陸信越工業教育協会では金沢大学工学部講堂において設立総会並びに発会式が挙行され、本協会の設立趣意書と共に目指すべき使命とビジョンが昭和 28(1953)年 3 月発行の北陸信越工業教育協会会報第 1 号に掲載された。

本協会の設立目的は、「大学と産業界の連絡を密にして、大学における工業教育の振興を計り、我が国工業の発展に寄与する」ことにあったことから、5 県から構成されている当該地域では各県ごとに支部規程を策定・活動し、近年では、HP を立ち上げ各支部間の情報交流も容易になっている。

平成 6(1994)年 10 月、従来用いられてきた名称「日本工業教育協会」は、①当該名称では大学教育を連想できない、②本協会の活動は、必ずしも産業界の評価を得ていない、③社会人技術者の再教育を大学等で本格的に行うという時代に相応しく、工学系大学など高等教育機関に関連した業務を行っている団体であることが、自ずと分かる名称に変える必要がある、等の理由によって定款及び細則の一部変更が文部省から認められ、「日本工学教育協会」と名称変更された。

それに伴い、当地区においても協会名は「北陸信越工学教育協会」、協会誌名は「北陸信越工学教育協会会報」と名称変更された。

平成 23(2011)年度に至り、従来会長は1年任期によって5県の工学部長や学長が輪番制のもとに務めてきたが、このような短い任期では充実した協会運営が困難であるとの意見が興り、1期2年任期に変更され会長のリーダーシップの発揮が容易になり、会報の内容も充実したものとなった。

北陸信越工学教育協会は設立以来、72年の歴史を着実に刻み当地区の工業・工学教育の進展に多大なる成果を齎してきた。取分け、草創期における先人各位の進むような熱量は当地区において工業・工学教育に携わる我々にとって見習うべきものがあり、歴史を知り再度「原点回帰」を行う必要があるものと考えられる。そこでこの度、本レポートを金沢工業大学元学長室長 倉田一男氏が1年有半の歳月を費やし纏めた。参考にして戴ければ幸いである。茲に、同氏のご尽力に深甚なる謝意を表する次第である。

令和6年3月吉日
北陸信越工学教育協会
元会長 石川憲一

北陸信越工学教育協会の設立と活動

I. 日本工業教育協会（現：（公益社団法人）日本工学教育協会）の創生

昭和26年7月12日から8月に亘って、文部省と在日連合軍総司令部経済局（GHQ）がヘイゼン博士（MIT）を団長とした14名からなる米国工業教育使節団と国内工学系大学の教員・研究者・産業界の代表団が全国6会場（東京（2回）、京都、名古屋、福岡、仙台、札幌）を6週間に亘って工学技術者の育成に関する研究集会を開催し、多大な成果を得ることが出来た。



写真1 米国工業教育使節団との討議(昭和26年 東京大学) 出典:日本工業教育協会誌 Vol.40.4(1992.7) 公益社団法人
日本工学教育協会所蔵

研究集会参加者からは、米国の工学教育協会(ASEE: American Society for Engineering Education)が、工業教育の振興に大きな役割を果たしていることを受け、新制大学となった日本の大学において工学教育の刷新充実を図るには、「日本工業教育協会の設立」が最優先であると決議された。

設立と準備等に関してはその一切を中央運営委員会(文部省、日本学術会議、大学基準協会、官公私立大学工学部並びに産業界の代表者による組織)に一任された。

中央運営委員会は協会の設立にあたり、全国の大学工学部関係に照会状(アンケート)で回答を求めた。

第1案: 中央に強力な協会を設立して地区毎に支部を置く。

第2案: 地区毎に協会を設立し、その連合体として中央に一つの協会を置く。

昭和27年2月、中央運営委員会では衆意を尊重して第2案を採択し、北海道・仙台・東京・名古屋・京阪・九州の6地区に独立した工学教育協会を置くことになった。

中央運営委員会の協議では、北陸地区については信越地区を加えた5工学部が希望するならば、協会の設置を認めることが内定していた。北陸信越地区としては参画する旨を示したことから、7地区工業教育協会及び全国的組織を有する各種団体を会員とすること等を定

めた日工教規程（案）並びに設置要領の審議を行い、日工教は地区協会の連絡機関的存在とするが、各地区工教の代表となり共通の事項を処理するとの条項を加えた。

本協会の名称は昭和27年3月初めの準備会において、日本工業教育協会（以下日工教と略称）とすることになった。

個人会員及び大学、産業団体等の機関会員で構成する各地区工業教育協会（以下地区工教と略称）が昭和27年5月～7月にかけて発足した後文部省、科学技術庁、工業技術院所管試験所（参考資料参照P5）等の代表、各地区協代表及び産業団体代表で構成した日工教設立発起人会は昭和27年8月7日天野貞祐文部大臣隣席のもとに設立総会が開催された。

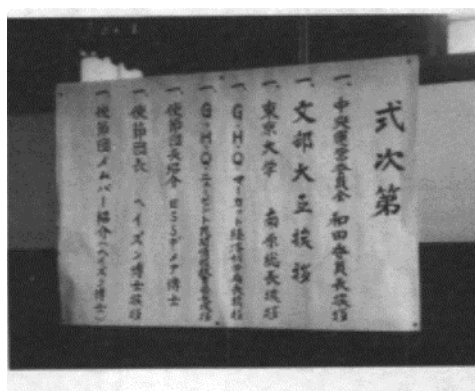


写真2 日本工業教育協会設立総会式次第 出典：日本工業教育協会誌 Vol.40.4(1992.7) 公益社団法人日本工学教育協会所蔵

規程は承認され事務局は文部省大学学術局技術教育課内に置くとされた。

図1 第1案：中央に強力な協会を設立して地区毎に支部を置く

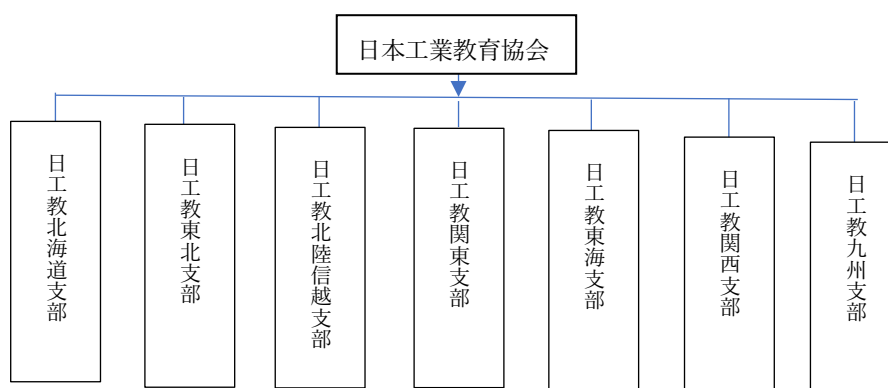
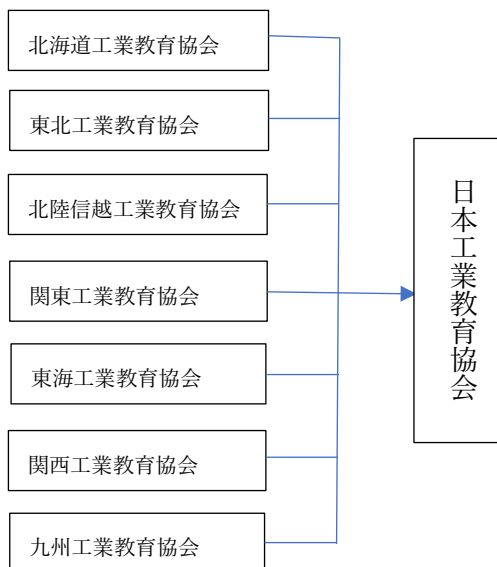


図2 第2案：地区毎に協会を設立し、その連合体として中央に一つの協会を置く



【資料】

設立当時の中国地区工教は京阪（関西）地区工教と合併されていたが、昭和57年6月、関西地区工教から独立し、中国四国地区工教となり、8地区工教構成となった。

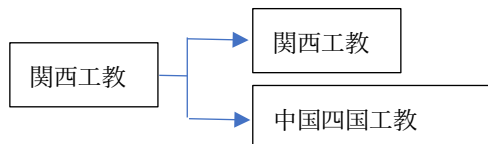


写真3 昭和20年代の会議スナップ

出典：
日本工業教育協会誌 Vol.40.4(1992.7)
公益社団法人日本工学教育協会所蔵

図3 日本工業教育協会誌 1巻1号表紙

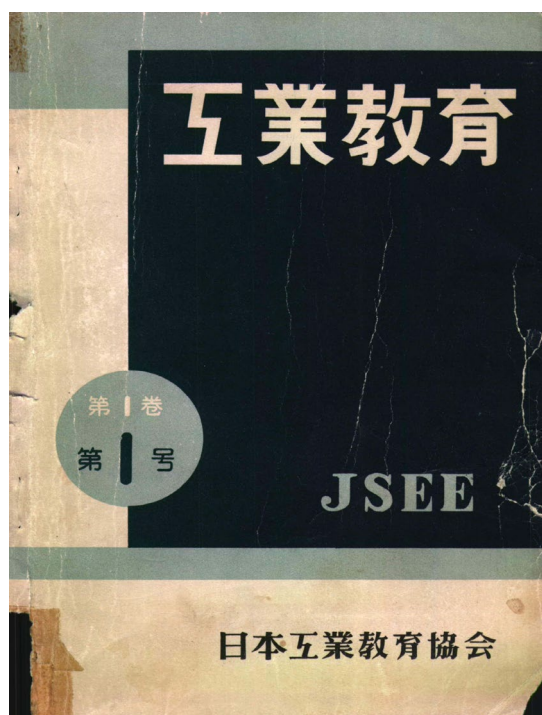
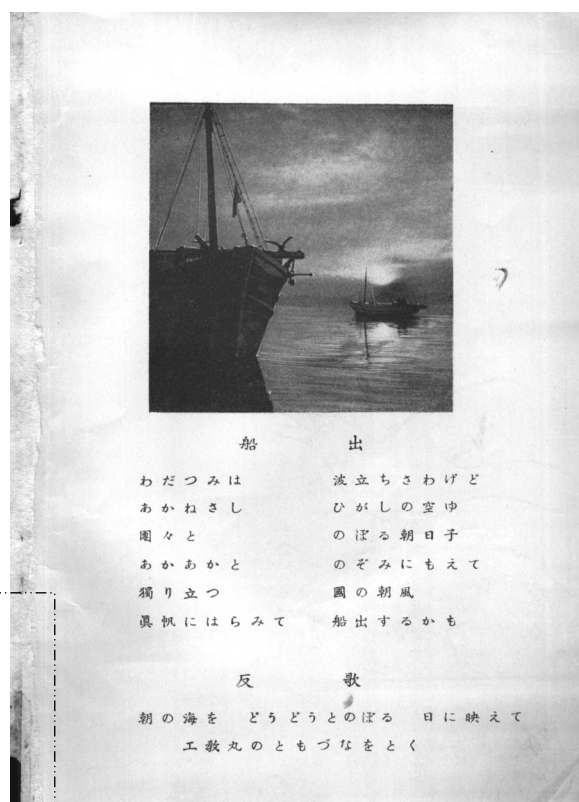


図4 日本工業教育協会誌 1巻1号扉

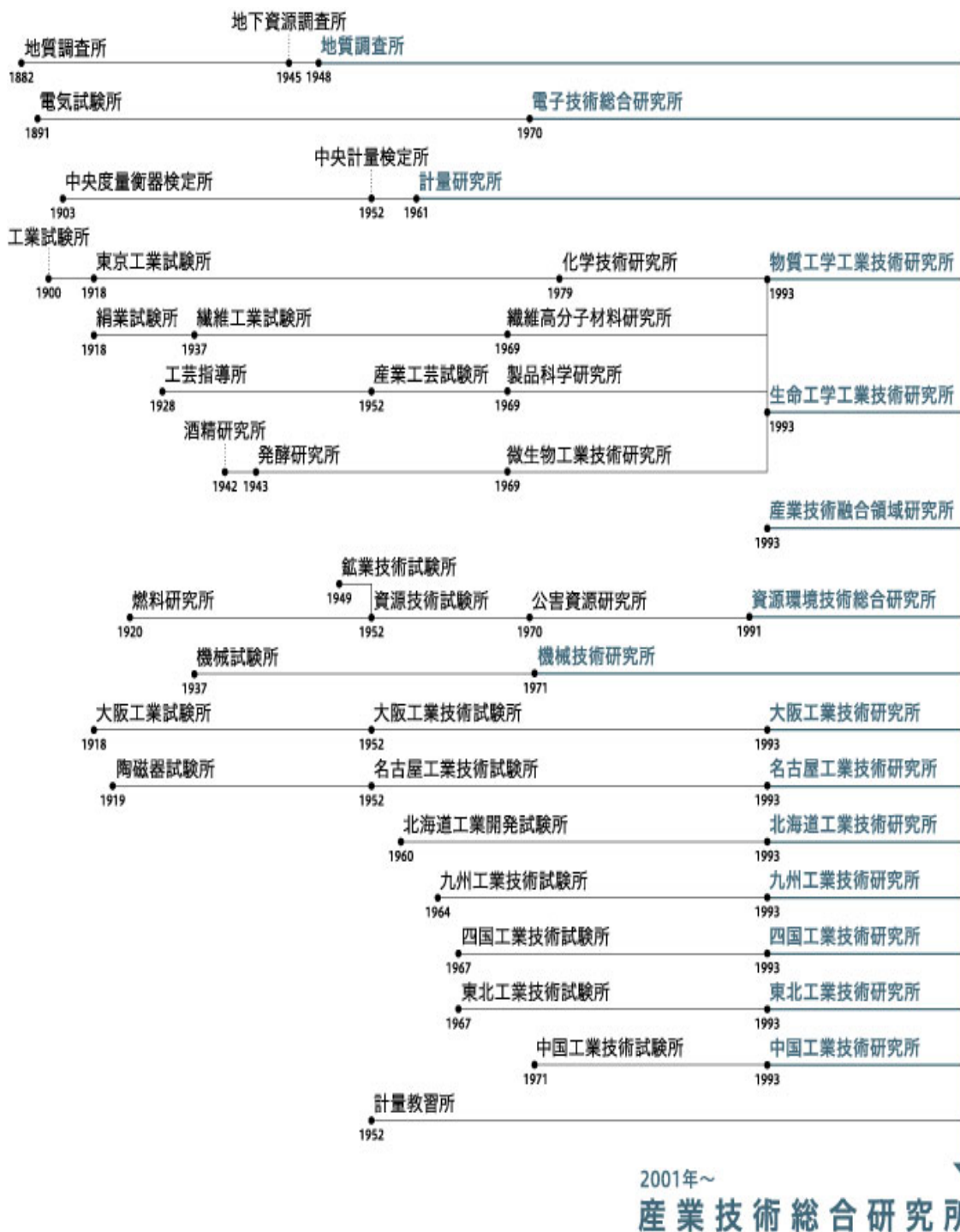


船 出	
わだつみは	波立さわげど
あかねさし	ひがしの空ゆ
團々と	のぼる朝日子
あかあかと	のぞみにもえて
獨り立つ	國の朝風
眞帆にはらみて	船出するかも
反 歌	
朝の海を どうどうとのぼる 日に映えて	
工教丸のともづなをとく	

公益社団法人日本工学教育協会所蔵

【参考資料 産業技術総合研究所】

明治 15 年からの沿革



* 工業試験所は 1900 年（明治 23 年）に設置され 1918 年（大正 7 年）東京工業試験所に改名

II. 「北陸信越工業教育協会（現北陸信越工学教育協会）」のあゆみ

文部省技術教育課長から5工学部長（北陸信越地区5県の大学）に照会があり、昭和27(1952)年3月1日に東京大学に於いて中央に設置する「日本工業教育協会の件について、各地区代表者会議を行うから、北陸信越地区に協会の設置を希望するなら地区代表を出席せしめるように」との通知を受けた。

このことについて5工学部長（長野、新潟、富山、石川、福井）は設置を希望するとの意思を示し、北陸3県に信越を加えた5県の代表として横山盛彰（金沢大学工学部長）を指定して中央の会議に列席させることになった。

北陸信越地区以外の地区では前年（昭和26年）の夏、米国工業教育使節団を交えて産学の代表が研究集会を開催していたので、工業教育協会の基盤が確立していたが、当地区は研究集会を経験していないことから、他の地区と歩調を同じにしてスタート出来るか否かについて多大の疑問が抱かれた。

横山工学部長は4工学部長と綿密な連絡を行い、昭和27年3月20日に北陸信越工業教育協会（仮称）、第1回設立準備会（於：金沢大学工学部会議室）を開催した。

出席者

信州大学工学部長 結城朝恭
新潟大学工学部長 山本純如（代理中野誠二）
富山大学工学部長 石原寅次郎（代理上野亨）
福井大学工学部長 重松倉彦
金沢大学工学部長 横山盛彰

議論の後、金沢大学工学部内に協会設立企画委員会（永井時一、京藤睦重、西岡敬二、岩名義文、鈴木広芳の5教官）を設置し、第1回設立準備会（昭和27年3月20日）、第2回設立準備会（昭和27年5月28日）で、「設立趣意書」「規定案」「経費」「暫定的処置」等を作成した。

III. 北陸信越工業教育協会の設立

～発起人会、設立総会並びに発会式～

期日：昭和27年6月21日（土）

会場：金沢大学工学部講堂

にて開催され、ここでは会長に横山盛彰（金沢大学工学部長）が推挙され、上程された案件が全て承認された。

❖協会の構成

北陸信越工業教育協会は長野、新潟、富山、石川、福井を取りまとめる協会の本部（輪番制）とし、各県に支部を置く。

❖協会の活動

理事会開催（各県支部持ち回り）、研究集会開催（本部と支部の共催）

◆協会申し合わせ事項（規程 8 項目）

- (1)各支部で募集集金した団体及び個人会費は、本年度はその 50%を支部に留め置いてその支部の経費に当てる
 - (2)本部の経費は予算の範囲内で賄い、年度末に歳入超過のあった場合には、これを各県の集金額に応じて分配するか、或いは次年度繰越金にするかを理事会で決定する
 - (3)会費の領収書は支部で直接発行する。但し、用紙は本部で用意したものを各県に分配する
 - (4)理事会はなるべく各県持ち回りとし、その経費は当番支部の負担とする
 - (5)理事会には理事の意向に従い、幹事その他をオブザーバーとして出席させることができる
 - (6)理事会出席者の旅費は所属支部の負担とする
 - (7)支部運営に必要な役職員は各支部で委嘱する
 - (8)支部で研究集会等の行事を行う場合は、当該支部が支部会員に直接通知する外、本部及び各県の理事にも事前に連絡する
連絡を受けた各県の理事は必要があれば、所属県の会員或いは一部にこれを通知する
- (その他)
研究集会の記事は日本工業教育協会会誌に投稿する
以上を遵守し、活動を行う

附 則

- 1 本規程は昭和二十七年六月二十一日から有効とする

IV. 北陸信越工業教育協会(1952(S27)年)設立当初の活動状況

第 1 回理事会

期日：昭和 27 年 7 月 22 日（火）

場所：新潟大学工学部（長岡市）

◇協会活動運営資金等について

個人会費：200 円、団体会費一口 2000 円

当初(1952(S27)年)の申し合わせ事項として、各支部で募集集金した団体及び個人会費は、本年度はその 50%を支部に留め置いてその支部運営の経費に当てる

第 2 回理事会

期日：昭和 28 年 3 月 7 日（土）

場所：福井大学

◇役員を選出方法

理事 2 名、評議員 25 名は各支部にて選挙する（小選挙区：支部毎選出）

幹事は新潟、福井より 1 名を推薦する（大選挙区：支部統一選出）

◇団体会員入会勧誘及び会費の徴収

可能な限り努力する

◇会報編集方針

本部事業とし予算は 9 万円とする。

内容

論説 45 編

本部記事

経過および活動状況

支部記事

各県支部の近況、支部主催の研究集会概要

会員の声

各工学部の実況：所在地、学部長、学科、学生定員、教官と担当科目

◇負担金の問題

日工教への負担金（昭和 27 年度）は当地区工教全収入の 20%（171,920 円）とされたが、昭和 28 年度からは軽減を図りたい。

◇研究集会（第 1 回）

期日：昭和 27 年 10 月 24 日（金）

場所：金沢大学

講演 1：工業教育改善に関する問題点 講師：日工教常任理事 清水勤二

講演 2：新制大学の現状 講師：副会長 山本純如

講演 3：職場教育の実情と大学への要望

講師：日本カーバイト工業(株)研究所長 中尾新六

講師：北陸電力(株)常務取締役 武村重武

講師：不二越鋳業(株)社長 二口孫一

講師：北陸機械工業(株)社長 麻生徳次

討論会の主題

1) 教育面に於ける産業界と大学の連携

2) 研究面に於ける産業界と大学の連携

映画鑑賞：米国工業教育使節団寄贈

「動作研究応用」、「教授法」

見学会：利岡光仙九谷焼製陶所、金属箔製造所

以上の内容で開催された。

図5 北陸信越工業教育協会会報 第1号 表紙

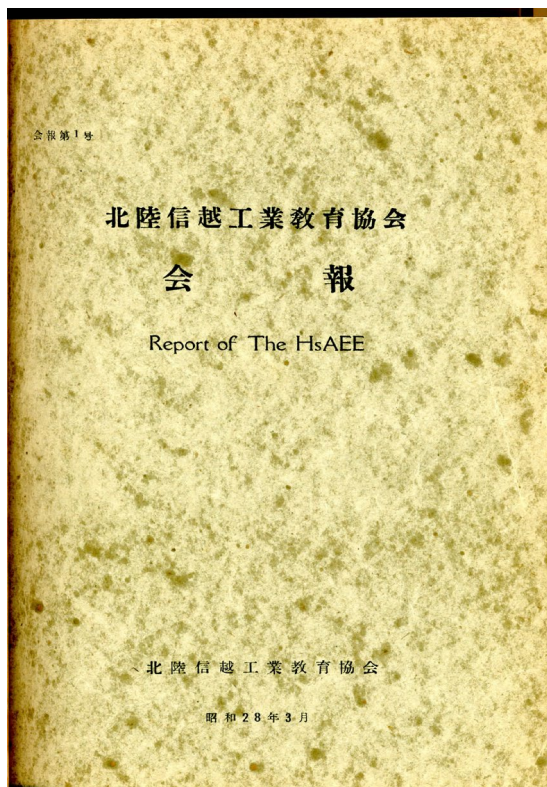
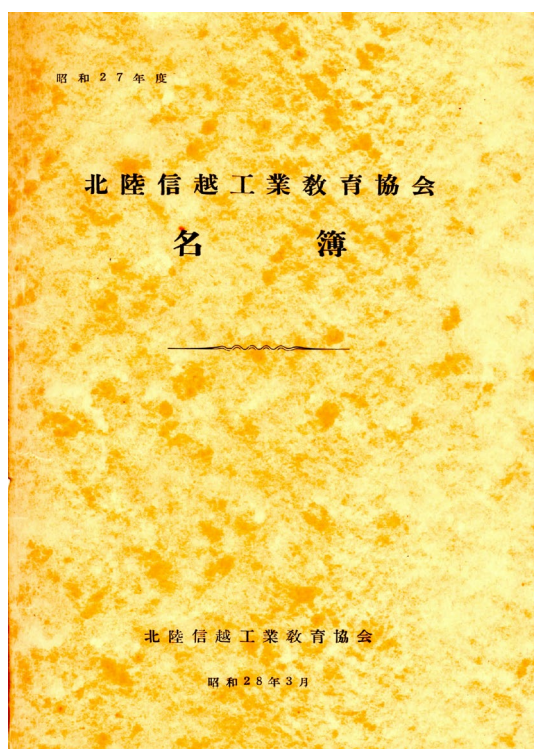


図6 北陸信越工業教育協会名簿 表紙



注) 昭和29年以降名簿は会報と合本

V. 北陸信越工業教育協会（本部、各県支部）創設当初開催事業内容

月	本部開催事業	各県支部開催事業	活動の内容
4	理事会	役員会	1. 教員、学生に対する講演会の開催 ◎企業と大学の関係による講演会、懇談会を開催する ◎工学部学生、教員、工場技術者を対象とした講演や工場見学を開催する ◎学生に教員が同行し工場における実物検査の体験や品質管理に関する講演を企画する ◎企業が望む工業教育手法を研究する。 2. 企業と大学の交流の切っ掛けづくりを働きかける活動 ◎学生と教員の工場見学（技術の使われ方を学ぶ） ◎研究者との技術に関する情報交換を行う ◎就職先としての広報活動を行う
5	理事会	理事会・総会	
6	総会 研究集会	工場見学 夏季講座	
7			
8			
9		総会	
10		研究集会	
11	理事会	講演会	
12		会報原稿提出	
1			
2	理事会		
3	会報発行		

*各県支部において随時、会員勧誘活動を実施する。

VI. 北陸信越工業教育協会（本部）事業例（昭和28年度）

第3回理事会

期日：昭和28年4月21日（火）

場所：信州大学工学部

議案

- 1 昭和27年経費概算の件
- 2 会長、副会長選任の件
- 3 規定変更の件
- 4 代議員選定の件
- 5 評議員並びに総会開催について
- 6 その他

第4回理事会

期日：昭和28年5月8日（金）

場所：富山大学工学部

議案

- 1 昭和27年度決算報告について
- 2 日工教より送付を受けた「工業教育」誌の各支部への配布部数について

- ・長野県支部 1 5 8、新潟県支部 1 1 6、富山県支部 2 1 7、石川県支部 2 5 1、福井県支部 2 5 8
- 3 規定改正について
- 4 昭和 28 年度事業計画について
 - ・連合研究集会の開催
 - ・工業教育に関する調査
 - ・他地区との連絡
 - ・会員名簿の発行
 - ・会報の発行（年 1 回）
- 5 昭和 28 年度収支予算について
 - ・団体会員の口数について
 - ・本部経費の各支部負担率について
 - ・日本工業教育協会負担金、本部経費及び支部費の比率について
- 6 評議員会、総会及び研究集会開催について
 - ・首題三つの会議は同一日に行う（5 月 30 日頃）
 - ・場所 信州大学工学部
 - ・講師の一人に前京都大学総長 鳥養利三郎氏を依頼することとし会長が交渉する。
 - ・総会議題
 - 経過報告、昭和 27 年度決算の承認、昭和 28 年度予算の承認等
 - ・委任状
 - 評議員会、総会が流会にならないよう各支部には少なくとも過半数に達するだけの委任状を取り持参すること
 - ・会の案内状は本部で印刷し必要部数を一括各支部に送り、支部より会員其の他に郵送する。
- 7 その他
 - ・「工学教育」誌第 1 巻第 1 号 115 頁の北陸信越工業教育協会に関する記事において富山大学名、石川県支部名がそれぞれ脱落しているので、会長より日工教に文書を持って注意する。

第 2 回評議員会

期日：昭和 28 年 6 月 1 1 日（木）、9 時～

場所：信州大学工学部

議題

- 1 昭和 27 年度収支決算について
- 2 昭和 28 年度事業計画及び収支予算について
- 3 その他

第2回総会

期日：昭和28年6月11日（木）、10時～

場所：信州大学工学部

経過報告

監事 小泉亮一郎氏より新役員改選及び規程一部改正の経過、理事会の様態等会務一般について詳細説明があり、了解を求め承認された。

- 1 昭和27年度収支決算承認について
- 2 昭和28年度事業計画及び収支予算の承認について

第2回研究集会

期日：昭和28年6月11日（木）、11時～

場所：信州大学工学部

- 1 開会の辞
- 2 大学の現状と業界に対する要望
会長 結城 朝恭
- 3 長野県の産業上より見た工業教育について
長野県知事 林 虎雄
- 4 教育面及び研究面について大学に対する要望
中部電力(株)長野支店長 浅野 兵二
- 5 教育面及び研究面について大学に対する要望
(株)増島製針所社長 増島 良三
- 6 教育面及び研究面について大学に対する要望
日本国有鉄道永野工場長 山田 義雄
- 7 討論
司会 長野日本無線(株)専務取締役 上野 辰一
主題 1)教育面についての要望
2)研究面に対する要望
 - ①人柄の養成について新制と旧制とで差があるか否か
 - ②新制大学の卒業生の会社における思想的方面の問題
 - ③基礎的学科目に重点を置くには、現在の必修、選択の制度の可否
 - ④技術者としての適性の問題
 - ⑤仕事を能率よく遂行しうる技術者を養成する具体的方法
 - ⑥現在行われている卒業生の採用方法の可否
 - ⑦研究問題について向上と連携を保つ具体的方法

第5回理事会

期日：昭和28年11月6日（金）

場所：新潟大学工学部

議案

- 1 本年度の会費徴収の見通しについて
現状では30,000円の減
- 2 本年度事業計画の再検討について
- 3 日工教の各地区工教との研究課題について
 - ・工業関係大学（学士課程）は如何なる技術者又は研究者を育成することを目標とすべきか
 - ・学士課程に於ける一般教育と専門教育との調和ある配分とその方法
 - ・学士課程に於いて現在の単位制に学年制を加味すべきか否か

第6回理事会

期日：昭和29年2月10日（水）

場所：金沢大学工学部

議案

日工教運営委員会報告

- 1 「工業教育」誌第3号への寄稿について
- 2 工業教育に対する世論調査について
- 3 会費納入状況について
- 4 会報編輯方針について
- 5 昭和29年度役員選挙について
- 6 その他

本部予算において通信費563円、事務費1,460円の予算超過については予備費より支出することを承認された。

就職についての推薦時期の問題については各支部ごとに意見を述べ、意見交換を行ったが、更に文書により各支部の意向を提出のうえ本部で取りまとめることになった。

VII. 北陸信越工業教育協会（本部）事業例（昭和29年度）

第7回理事会

期日：昭和29年4月28日（水）

場所：福井大学工学部

日工教代議員会（4月24日）報告

- ・ 28 年度事業報告
- ・ 29 年度の予算について
- ・ 28 年度決算中間報告について
- ・ 運営委員会構成について
- ・ 工業教育制度強化について
- ・ 会報の発行について
- ・ 昭和 29 年 7 月 9 日（金）、10 日（土）の両日大阪での年次大会開催及びこれからの

計画に

- ついて
- ・ 懸賞論文について
- ・ 規程の改正（役員の構成）について
- ・ 役員改選メンバーの発表
- ・ 卒業生就職推薦の時期について

議案

- 1 昭和 28 年度会計清算について
未収金があるため 5 月の総会まで保留
- 2 正副会長の改選について
新潟県支部長は病气静養中、福井支部長は種々の事情により会長候補辞退されたことから、富山県支部長 横山辰雄氏が会長に決定された。
副会長は学校側 福井県支部長 坂部保治氏、
業界側 長野県支部理事 田中重弥氏が選出された。
- 3 代議員選定について
前例により、正副会長が之に当たることに決定した。
- 4 昭和 29 年度予算編成について
新会長のもとに編成されることに決定した。
- 5 評議員会、総会の開催について
 - ・ 開催日程は 6 月 12 日（土）と予定する。
 - ・ 場所は富山大学工学部とする。
 - ・ これに先立つ理事会は 5 月 18 日（火）を予定する。
 - ・ 場所は長野県支部として信州大学工学部において開催することに決定した。
- 6 その他
 - ・ 日工教年次大会代表として地区工教等の報告は新会長が報告する。
 - ・ 同上大会における講師は横山石川県支部長に決定した。
(但しこの講師は初代本協会会長より順次協会長の人に当たられたものが引き受けることに決定)
 - ・ 日工教年次大会における地区工教の状況は会報の記事を整理して報告する。

- ・昭和29年度の会費口数について、長野60、新潟55、富山60、石川100、福井60、計335口の報告があった。
- ・昭和29年度事業計画等については次の理事会までに各支部から持ち寄る。

第8回理事会

期日：昭和29年5月18日（火）

場所：信州大学工学部

議案

- 1 昭和28年度会計決算について
- 2 昭和29年度役員について
- 3 昭和29年度予算及び事業計画について
- 4 評議員会総会、並びに研究集会について
開催場所 6月12日（土）富山大学工学部
評議員会総会 9時～11時
研修会 11時～
- 5 次回理事会について
次回は富山大学工学部（高岡市古定塚）にて11月開催予定。
- 6 その他
会報は年度末に発行する。

第3回評議員会

期日：昭和29年6月12日（土）、9時～

場所：富山大学工学部（高岡市古定塚）

議題

- ① 昭和28年度収支決算について
- ② 昭和29年度事業計画及び収支予算について
- ③ その他

第3回総会

期日：昭和29年6月12日（土）、10時～

場所：富山大学工学部（高岡市古定塚）

次第

開会のあいさつ

祝辞

経過報告

昭和28年度収支決算承認について

昭和 29 年度事業計画及び収支予算の承認について
その他
閉会のあいさつ

第 3 回研究集会

期日：昭和 29 年 6 月 12 日（土）11 時～

場所：富山大学工学部（高岡市古定塚）

11 時～ 研究集会

○工業教育協会の使命について

日工教副会長 東京工科大学長 内田俊一

13 時～ 講演会

①業界の現状と大学に対する要望

日産化学工業富山工場次長 中世 信治

②業界の現状と大学に対する要望

不二越鋳業(株)取締役 栗原 名遠

③大学の現状と業界に対する要望

富山大学工学部長 横山 辰雄

④懇談会 業界と大学との連携について

座長 (株)小松製作所氷見工場長 中村 文夫

第 9 回理事会

期日：昭和 29 年 9 月 30 日（木）

場所：富山大学工学部

報 告

日工教運営委員会報告（横山会長）

5 月 24 日 協会の運営を円滑に行うため会員の増大又は会費の増額に関する協議の後、
会員を増加（勧誘を勧める）が最良となった。その他としては、年次大会に
関する措置・懸賞論文等について議論した。

6 月 12 日 就職推薦次期、年次大会及び懸賞論文についての説明。

8 月 4 日 全国大学工学部現状調査、その他について審議した、第 3 回年次大会は名古
屋市において昭和 30 年 7 月 10 日（日）前後に開催することになった。

その他学外実習の統一的強化、就職推薦時期の問題、機械工学科教官による
部会の設置の問題を審議した。

議 案

1 会報第 3 号の編集について

2 全国大学工学部教育現状調査について

- 3 課題「地方産業の大学工業教育に対する要望とその対策」について
- 4 その他 次回第10回理事会は12月新潟にて行うことになった。

第10回理事会

期日：昭和29年12月20日（月）

場所：新潟大学工学部

報告

日工教運営委員会報告（横山会長）

1 学外実習に関する事

従来各大学が工場側と話し合っ調整しているが、うまくいかない点が多いので統一的に調整を行うため、各専門別に担当者を挙げて学会との協力の下に具体案を検討することになった。

2 全国大学工学部教育現状調査について

以前求めた意見を取り入れて原案の作成に当たる。

3 就職推薦時期及び選考時期について

国鉄から申し入れがあり、来年は少し早めに時期の決定をしたい。日工教としては代議員会で大体決めたい（5月上旬）。

4 懸賞論文の募集に関する件

題目は幾つか提案されたが、決まらなかった、今後運営委員が調整して3案を提示するが、案にない課題で提出することも可とする。（論文の長さは8,000文字程度、1等3万円、2等2万円、3等1万円）

5 工業教育制度調査委員会の設置について

国情が日本に似た国の教育制度の調査研究が必要である

6 工業教育2巻2号の編集について

7 会費納入の件

納入状況の説明があった。

議事

1 アンケート（新制大学を卒業した工業技術者に関する調査）について

現在10通位集まっているが非常に良心的に記入されており、これを整理して工業教育改善の資料にしたい。整理等は本部が行う。

2 北工教会報第3号の編集について

第2号に準じて編集する。

3 会費納入の促進について

Ⅷ. 北陸信越工業教育協会（本部）収支状況（昭和 27 年度から）

収入の部

収入合計 861,114 円

支出の部

日工教負担金 171,920 円（19.96%）

北工教本部経費 125,985 円（14.63%）

各県支部活動助成費 563,209 円（65.41%）

内訳：長野県 88,845 円、新潟県 65,389 円、富山県 122,391 円、
石川県 140,999 円、福井県 145,585 円

* 設立当初(1952(昭和 27)年)の申し合わせでは、各支部で募集集金した団体及び個人
会費の 50%（実際は 65%）は支部の活動経費に充てるとした。

翌(昭和 28 年)年度の財務計画は前年度の会計収支を継承した予算案が承認された。

収入の部

会費（団体・個人）784,600 円

支出の部

日工教負担金 156,420 円（約 20%）

北工教本部経費 111,657 円（約 14%）

各県支部活動助成費 509,990 円（約 65%）

< 参考資料 1 >

昭和 28 年度各県支部別会費納入状況（金額単位円）*（カッコ内数字は予算額）

支部名	団体会費		個人会費		会費合計	支部費 (65%)
	口数	金額	人	金額		
長野	66	132,000	42	8,400	140,400	91,260
	(70)	(140,000)	(38)	(7,600)	(147,600)	(95,940)
新潟	55	110,000	37	7,400	117,400	76,310
	(80)	(160,000)	(29)	(5,800)	(165,800)	(107,770)
富山	82	164,000	24	4,800	168,800	109,720
	(100)	(200,000)	(24)	(4,800)	(204,800)	(133,120)
石川	110	220,000	58	11,600	231,600	150,540
	(110)	(220,000)	(56)	(11,200)	(231,200)	(150,280)
福井	60	120,000	32	6,400	126,400	82,160
	(108)	(216,000)	(31)	(6,200)	(222,200)	(144,430)
総計	373	745,000	193	38,600	784,600	509,990
	(468)	(936,000)	(178)	(35,600)	(971,600)	(631,540)

<参考資料 2>

【各県支部から北工教本部及び日工教納付状況等】

各県支部から北工教本部への納付金の推移

1952(S27)年 : 富山 122,391 円、石川 140,999 円、長野 88,845 円、福井 145,585 円、新潟 65,389 円

1953(S28)年 : 富山 133,120 円、石川 150,280 円、長野 95,940 円、福井 144,430 円、新潟 107,770 円

1954(S29)年 : 富山 46,620 円、石川 15,400 円、長野 18,830 円、福井 44,240 円、新潟 41,300 円

1955(S30)年～ : 52,000 円 (富山、石川)、42,000 円 (長野、福井、新潟)

1967(S42)年～ : 60,000 円 (富山、石川)、50,000 円 (長野、福井、新潟)

1973(S48)年～ : 60,000 円 (一律)

1974(S49)年～ : 75,000 円 (一律)

1975(S50)年～ : 95,000 円 (一律)

とし、日工教 25 周年の基金募集と年次大会開催 1977 (S52) 年に備えた。

◎昭和 29 年以降の北工教理事会・総会について

上記のように、各県支部から北工教本部への納付金等の改正について協議されたほかは特筆すべき議論はされていない。

◎日工教への納付金

第 65 回 北工教理事会 1974 年 (昭和 49 年 11 月 26 日、於：ながのホテル信濃路)

1975 年 (昭和 50) 年度から実施予定の日工教分担金の増額 (207,900 円) について北工教理事会で諮り、北工教としては各支部負担金、75,000 円に 2 万円の増額あるいは 10 万円以上は拠出できないとすることを確認した。

北工教の理事会 (春、秋) の開催は春のみとして予算を縮小する。春の理事会で年間の事業計画に関する協議と承認を行い、特に協議すべき問題があれば、秋の学部長会議の際に協議する。

◎日工教理事会からの報告

日工教における理事会 (昭和 50) では、地区工教の分担金の増額が決定したが、今年度の北工教と東北工教の分担金は増額分の半額を負担することになった。

昭和 51 年度からは全額を負担することが承認された。

また、国立大学、工業高専が地区工教に団体会員として加入する場合 (会費国費支弁) について日工教が文部省と折衝し、博士課程を持つ大学には年額 10 万円、その他の大学には 5 万円、工業高専には 3 万円が支弁される報告があった。

昭和 49 年 6 月 11 日

日本工業教育協会
会長 菅野 猛 殿

北陸信越工業教育協会
会長 大門 信利

要 望 書

過般福井大学において開催されました第 24 回国立大学工学部長会議総会において、別紙 12 項目 28 細目の要望事項につき協議の結果、重要 5 項目を採って文部省に要望書を提出し、各方面の協力を要請することになりました。

私共も衷心よりその実現を熱望しておりますので何分のお力添えをお願いいたします。

而るところ北陸信越地区としては、別紙地区順位にも見られる通り、次点にランクされた教官・助手・事務長等教職員の待遇改善、大学院の設置促進等にも強い関心を有しております。就中事務長はじめ事務職員の問題は、近時定員削減に基づく過重労働と教官の事務的雑務の増大を防ぐためにも重要であると考えられますので、ご検討の上、工学部長会議の要望事項に準じ、折に触れ機に依りて拡充改善にご協力くださいますようお願いいたします。

昭和 50 年及び 55 年北陸信越工教会会則の改正（会計の抜粋）

学校会費・個人会費の改定

	旧	新・改正
昭和 50 年	北陸信越工教 個人会費 200 円 団体会費 1 口 2,000 円	北陸信越工教 個人会費 500 円 団体会費 1 口 2,000 円
昭和 55 年	北陸信越工教 個人会費 500 円 団体会費 1 口 2,000 円 協会 ⇐ 国費（昭和 52 年～） 学校会員 A 年額 50,000 円（大学） 学校会員 B 年額 30,000 円（高専）	北陸信越工教 個人会費 700 円 団体会費 1 口 2,000 円 日工教 個人会費 600 円 協会 ⇐ 国費 学校会員 A 年額 50,000 円（大学） 学校会員 B 年額 30,000 円（高専）

◎1975(昭和 50)年

支部研究活動（県支部 ⇐ 本部）支援開始

各県支部への支援金

長野支部（232,500 円）、新潟支部（125,500 円）、富山支部（147,500 円）

石川支部（184,000 円）、福井支部（86,000 円）

◎1977（昭和 52 年～平成元年）1989 年

国立大学、高専を対象に日工教から（北陸信越工教）活動支援の開始

支援金額は学部大学：5 万円、高専：3 万円

北陸信越工教は各県支部の国立大学（5 大学）が対象となり支援を受けた。また、昭和 55 年には長岡技術科学大学の入会が承認され、計六つの大学が支援を受けていた。

IX. 北陸信越工業教育協会（本部）その他の活動

◎1979(昭和54)年

日本工業教育協会第27回年次大会開催

8月2～3日、於：長野県社会福祉総合センター

◎1990（平成2）年度

日工教が主体となり、私立大学等への勧誘活動を強化推進した。

◎1991(平成3)年

北陸信越工教第94回理事会（H.3.6）において、豊嶋敏雄会長（福井大）が日工教から、金沢工業大学の柳下和夫教授（非会員）を日工教の「国際委員会」委員に推薦して欲しいとの依頼を受けたとの報告があり、協議の後、同教授が就任を承諾するに当たっては「北陸信越工業教育協会」と「(社)日本工業教育協会」への入会が必要であることの説明をすることとなった。

北陸信越工業教育協会事務局から連絡を受けた柳下教授は、就任を承諾し、「北陸信越工業教育協会」、「(社)日本工業教育協会」への入会手続きを行った。

北陸信越工学（工業）教育協会の活動

X. 北陸信越工業教育協会各県支部長と会員構成（昭和41年度から）

北陸信越工業教育協会が他の地区工教と異なる点は、各県支部の連合体であることすなわち長野・新潟・富山・石川・福井に県単位の支部があり、絶えず密接に連絡を取って本会を運営しているところである。

1966 (S.41)年度

会 長	柴田雄三郎	新潟大学
新潟県支部長	柴田雄三郎	新潟大学
富山県支部長	上野 亨	富山大学
石川県支部長	岩名義文	金沢大学
福井県支部長	大島好文	福井大学
長野県支部長	森本弥三八	信州大学（工）

支部名	機 関 名 (会員数)	
新潟県	新潟大学工学部 (61)	企業 (29)・一般
富山県	富山大学工学部 (38)	企業 (35)・一般
石川県	金沢大学工学部 (97)	企業 (47)・一般 金沢工業大学 (1)
福井県	福井大学工学部 (57)	企業 (37)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (42)	企業 (59)・一般 (9)

◆()内の数値は会員数を表す。

◆「工業教育協会のあり方」について富山県支部では中小企業も積極的に勧誘し、大学教官の研究テーマリストを示し、産学協同の一助にしている。石川県支部では、積極的に工場に出かけ、技術者と話し合い、巡回診断等を行っている。

◆金沢工業大学教員入会第1号 広谷政人(個人会員:化学)学生部長

1967 (S.42)年度

会 長	若島久男	金沢大学
石川県支部長	若島久男	金沢大学
福井県支部長	大島好文	福井大学
長野県支部長	森本弥三八	信州大学（工）
新潟県支部長	遠藤壽一	新潟大学
富山県支部長	上野 亨	富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (97) 企業 (47)・一般金沢工業大学 (1)
福井県	福井大学工学部 (57) 企業 (37)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (42) 信州大学繊維学部 (9) 企業 (59)・一般 (9)
新潟県	新潟大学工学部 (61) 企業 (29)・一般
富山県	富山大学工学部 (38) 企業 (35)・一般

❖北工教規程第9条3協会の趣旨に賛意を表する団体会員として、金沢工業大学(青山兵吉初代学長が代表)は入会し、団体会費は1口2,000円(第33条)、1口につき1人の会員を納入した。

1968 (S.43)年度

会 長 森本弥三八 信州大学 (工)
 長野県支部長 森本弥三八 信州大学 (工)
 新潟県支部長 遠藤壽一 新潟大学
 富山県支部長 村中利吉 富山大学
 石川県支部長 若島久男 金沢大学
 福井県支部長 大島好文 福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (45) 信州大学繊維学部 (19) 長野工業高等専門学校 (2) 企業 (78)・一般 (9)
新潟県	新潟大学工学部 (74) 企業 (28)・一般
富山県	富山大学工学部 (45) 企業 (44)・一般
石川県	金沢大学工学部 (95) 金沢工業大学 (3) 石川工業高等専門学校 (6) 企業 (44)・一般
福井県	福井大学工学部 (57) 福井工業高等専門学校 (1) 企業 (37)・一般 (1)

❖総会の後、新光電気工業(株)栗田工場を見学。

長野県支部で講演会1回、新潟県支部で講演会8回、富山県支部で講演会、懇談会を2回、石川県支部で講演会3回、研究会を2回、福井県支部で見学会1回、講演会6回開催し、盛況裡に推移している。

1969 (S.44)年度

会 長 室町繁雄 富山大学
 富山県支部長 室町繁雄 富山大学
 石川県支部長 若島久男 金沢大学
 福井県支部長 木村里雄 福井大学
 長野県支部長 土屋英寿 信州大学 (工)
 新潟県支部長 脇屋正一 新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (47) 企業 (43)・一般
石川県	金沢大学工学部 (106) 金沢工業大学 (7) 石川工業高等専門学校 (6) 企業 (44)・一般
福井県	福井大学工学部 (60) 福井工業高等専門学校 (2) 企業 (37)・一般
長野県	信州大学工学部 (41) 信州大学繊維学部 (21) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (68)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (79) 企業 (31)・一般

◆各県支部において会員対象の講演会等の開催。

◆総会の後、万葉の二上山見学に続き、三協アルミニウム工業(株)の見学と竹平社長の講演。

1970 (S.45)年度

会 長 佐々木靖文 福井大学
 福井県支部長 佐々木靖文 福井大学
 長野県支部長 土屋英寿 信州大学 (工)
 新潟県支部長 脇屋正一 新潟大学
 富山県支部長 室町繁雄 富山大学
 石川県支部長 若島久男 金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (82) 企業 (43)・一般
石川県	金沢大学工学部 (107) 金沢工業大学 (10) 石川工業高等専門学校 (6) 企業 (44)・一般
福井県	福井大学工学部 (61) 福井工業高等専門学校 (2) 企業 (27)・一般
長野県	信州大学工学部 (37) 信州大学繊維学部 (20) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (76)・一般 (8)

新潟県	新潟大学工学部（８２）	企業（３４）・一般
-----	-------------	-----------

◆総会後に、バスにて九頭竜峡、白馬洞ロックフィルダム、長野発電所を見学

1971 (S.46)年度

会 長	近藤誠治	新潟大学
新潟県支部長	近藤誠治	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学
石川県支部長	金子曾政	金沢大学
福井県支部長	佐々木靖文	福井大学
長野県支部長	土屋英寿	信州大学（工）

支部名	機 関 名 (会員数)		
新潟県	新潟大学工学部（８２）	企業（３４）・一般	
富山県	富山大学工学部（８４）	企業（４０）・一般	
石川県	金沢大学工学部（１１２）	金沢工業大学（９）	石川工業高等専門学校（６） 企業（４３）・一般
福井県	福井大学工学部（６１）	福井工業高等専門学校（２） 企業（３５）・一般	
長野県	信州大学工学部（３６）	信州大学繊維学部（１９）	長野工業高等専門学校（４） 企業（７３）・一般（８）

◆第20回年次大会開催担当の新潟支部から特別講演は「海洋掘削」「佐渡金山の盛衰」の提案があった。

1972 (S.47)年度

会 長	近藤誠治	新潟大学
新潟県支部長	近藤誠治	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学
石川県支部長	金子曾政	金沢大学
福井県支部長	佐々木靖文	福井大学
長野県支部長	土屋英寿	信州大学（工）

支部名	機 関 名 (会員数)		
新潟県	新潟大学工学部（８４）	長岡工業高等専門学校（３０） 企業（３３）・一般	
富山県	富山大学工学部（９０）	企業（４５）・一般	
石川県	金沢大学工学部（１１１）	金沢工業大学（９）	石川工業高等専門学校（６） 企業（４４）・一般（１）

福井県	福井大学工学部（５７） 福井工業高等専門学校（１） 企業（３３）・一般（１）
長野県	信州大学工学部（３７） 信州大学繊維学部（１８）長野工業高等専門学校（６） 企業（７２）・一般（９）

◆アメリカ工業教育協会年次大会に日本工業教育協会から年次大会担当地区（新潟）から派遣されることになり、新潟県支部長近藤誠治（大学側）、新保芳太郎（業界側）の２名の派遣が決定した。

1973（S.48）年度

会 長	金子曾政	金沢大学
石川県支部長	金子曾政	金沢大学
福井県支部長	大島好文	福井大学
長野県支部長	大門信利	信州大学（工）
新潟県支部長	小林宇五郎	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学

支部名	機 関 名（会員数）
石川県	金沢大学工学部（１１９） 金沢工業大学（８） 石川工業高等専門学校（６） 企業（４３）・一般
福井県	福井大学工学部（５９） 福井工業高等専門学校（１） 企業（３３）・一般（１）
長野県	信州大学工学部（３７） 信州大学繊維学部（１８）長野工業高等専門学校（４） 企業（７２）・一般（８）
新潟県	新潟大学工学部（８３） 長岡工業高等専門学校（３０） 企業（３３）・一般
富山県	富山大学工学部（９５） 企業（４６）・一般

◆理事会終了後、竹内プレス工業(株)（富山）の金属押し出しチューブ製造工程等を見学した。

◆会報の編集について 論説、講演又は報告、各支部２頁程度（４００字原稿用紙１０枚）分担する、他に支部情報、団体・貴人会員名簿を１月３１日までに会長宛提出する。

1974 (S.49)年度

会 長	大門信利	信州大学 (工)
福井県支部長	五十嵐直雄	福井大学
長野県支部長	大門信利	信州大学 (工)
新潟県支部長	小林宇五郎	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学
石川県支部長	金子曾政	金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (62) 福井工業高等専門学校 (1) 企業 (32)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (36) 信州大学繊維学部 (17) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (72)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (88) 長岡工業高等専門学校 (28) 企業 (30)・一般
富山県	富山大学工学部 (97) 企業 (46)・一般
石川県	金沢大学工学部 (118) 金沢工業大学 (7) 石川工業高等専門学校 (4) 企業 (54)・一般

◆地区における理事会、年2回を春の1回とする。

<要望書>

昭和 49 年 6 月 11 日

日本工業教育協会
会長 菅野 猛 殿

北陸信越工業教育協会
会長 大門 信利

要 望 書

過般福井大学において開催されました第 24 回国立大学工学部長会議
総会において、別紙 12 項目 28 細目の要望事項につき協議の結果、重要
5 項目を採って文部省に要望書を提出し、各方面の協力を要請すること
になりました。

私共も衷心よりその実現を熱望しておりますので何分のお力添えをお
願いたします。

而るところ北陸信越地区としては、別紙地区順位にも見られる通り、次
点にランクされた教官・助手・事務長等教職員の待遇改善、大学院の設
置促進等にも強い関心を有しております。就中事務長はじめ事務職員の
問題は、近時定員削減に基づく過重労働と教官の事務的雑務の増大を
防ぐためにも重要であると考えられますので、ご検討の上、工学部長会議
の要望事項に準じ、折に触れ機に応じて拡充改善にご協力くださいます
ようお願いいたします。

◆個人会費の増額 年額 200 円 ⇒ 500 円

◆日工教追加負担金 207,900 円については 10 万円に交渉した。各支部負担金を 2 万円増額しこれに当
てる。

1975 (S.50)年度

会 長	室町繁雄	富山大学
長野県支部長	小山恒夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	遠藤壽一	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学
石川県支部長	喜内敏	金沢大学
福井県支部長	五十嵐直雄	福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (34) 信州大学繊維学部 (16) 長野工業高等専門学校 (5) 企業 (71)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (86) 長岡工業高等専門学校 (27) 企業 (29)・一般
富山県	富山大学工学部 (96) 企業 (43)・一般
石川県	金沢大学工学部 (125) 金沢工業大学 (8) 石川工業高等専門学校 (3) 企業 (53)・一般
福井県	福井大学工学部 (62) 企業 (31)・一般 (1)

◆ 北陸信越地区会費の一部を国費により負担する手続きについて、次期会長支部（福井県）が文部省との具体的な手続きを行うことになった。

◆ 国立大学、工業高専が地区協会に団体会員として加入する場合（会費国費支弁）
博士課程を持つ大学 年額10万円、その他の大学 年額5万円、工業高専 年額3万円

1976 (S.51)年度

会 長	五十嵐直雄	福井大学
福井県支部長	五十嵐直雄	福井大学
長野県支部長	小山恒夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	遠藤壽一	新潟大学
富山県支部長	室町繁雄	富山大学
石川県支部長	喜内敏	金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (65) 企業 (31)・一般
長野県	信州大学工学部 (34) 信州大学繊維学部 (16) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (64)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (89) 長岡工業高等専門学校 (26) 企業 (29)・一般
富山県	富山大学工学部 (97) 企業 (41)・一般
石川県	金沢大学工学部 (125) 金沢工業大学 (7) 石川工業高等専門学校 (3) 企業 (53)・一般

◆ 日工教の理事会で 25 周年記念事業の基金募集は、基金規程並びに基金寄付募集計画（第1次 1,000 万円）が承認され関東、関西、東海地区の正会員並びに東京地区のみ、会社関係を対象とすることとし、52 年度の様子を観て目標額を修正する。

1977 (S.52)年度

会 長 遠藤壽一 新潟大学
 新潟県支部長 遠藤壽一 新潟大学
 福井県支部長 八木寿郎 福井大学
 長野県支部長 小山恒夫 信州大学 (工)
 富山県支部長 室町繁雄 富山大学
 石川県支部長 喜内敏 金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (88) 長岡工業高等専門学校 (24) 企業 (25)・一般
福井県	福井大学工学部 (73) 企業 (36)・一般
長野県	信州大学工学部 (47) 信州大学繊維学部 (14) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (63)・一般 (7)
富山県	富山大学工学部 (97) 企業 (39)・一般
石川県	金沢大学工学部 (132) 金沢工業大学 (6) 石川工業高等専門学校 (4) 企業 (49)・一般

◆ 小山長野県支部長から技術科学大学が理事校として加入されるべきではとの提案があり、新潟の運営委員が技科大に入会の打診を行ったところ、参加の快諾をいただいた。

1978 (S.53)年度

会 長 喜内敏 金沢大学
 石川県支部長 喜内敏 金沢大学
 長野県支部長 小山恒夫 信州大学 (工)
 新潟県支部長 遠藤壽一 新潟大学
 富山県支部長 室町繁雄 富山大学
 福井県支部長 八木寿郎 福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (130) 金沢工業大学 (6) 石川工業高等専門学校 (7) 企業 (46)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (48) 信州大学繊維学部 (13) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (61)・一般 (7)
新潟県	新潟大学工学部 (87) 長岡工業高等専門学校 (22) 企業 (24)・一般
富山県	富山大学工学部 (97) 富山工業高等専門学校 (33) 企業 (37)・一般
福井県	福井大学工学部 (75) 企業 (32)・一般

◆地区個人会費の増額改訂 年額 500 円 ⇒ 700 円

1979 (S.54)年度

会 長 大門信利 信州大学 (工)
 長野県支部長 大門信利 信州大学 (工)
 新潟県支部長 斉藤昇 新潟大学
 富山県支部長 大井信一 富山大学
 石川県支部長 吉村元一 金沢大学
 福井県支部長 八木寿郎 福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (62) 信州大学繊維学部 (13) 長野工業高等専門学校 (6) 企業 (59)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (91) 長岡工業高等専門学校 (21) 企業 (24)・一般
富山県	富山大学工学部 (93) 富山工業高等専門学校 (32) 企業 (34)・一般
石川県	金沢大学工学部 (134) 金沢工業大学 (6) 石川工業高等専門学校 (7) 企業 (49)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (72) 企業 (29)・一般

◆日本工業教育協会第 27 回年次大会

期 日 昭和 54 年 8 月 2 日 (木)・3 日 (金)

場 所 長野県社会福祉総合センター (長野市若里桑の木島 1 5 7 0 - 1)

第 1 日 (8 月 2 日 木曜日)

8:40 受付開始

9:10 開 会 司会 日本工業教育教委会

専務理事 福山 勉

開会の辞 北陸信越工業教育協会会長
(大会実行委員長) 大門信利

15 会長挨拶 日本工業教育協会会長

井深 大

25 祝 辞 信州大学学長 加藤 静一

” 長野県知事 西沢権一郎

祝 電 文部大臣 内藤誉三郎

” 通商産業大臣 江崎 真澄

” 科学技術庁長官 金子 岩三

◆第27回年次大会プログラム

10:00 特別講演

「善光寺とその周辺の文化について」

講師 長野工業高等専門学校教授

小林計一郎

11:00 「時計の技術史」

講師 (株)諏訪精工舎常務取締役 小口昭

12:00 昼 食 (休 憩)

13:00 パネル討議

議題「企業内教育と大学公開講座について」

司会 信州大学繊維学部教授 一志淑夫

講師 金沢大学大学教育会報センター

主任教授 古野有隣

北野設計(株)取締役副社長

北野幾造

信州大学工学部教授 土屋英俊

新光電気工業(株)取締役社長

光延丈喜夫

(五十音順)

16:00 各地区工業教育協会会長の概況報告

16:30 明年度年次大会開催地の決定

開催地区会長受託挨拶

17:30 懇親会

会 場 長野県社会福祉総合センター

(大会々場) 6階食堂

歓迎挨拶 北陸信越工業教育協会会長

大門信利

第 2 日 (8月3日 金曜日)

9:00 受付開始

30 パネル討議

議題「連合大学院について」

司会 名古屋大学名誉教授・名古屋工業

大学名誉教授 佐野幸吉

講師 (株)カワカミ取締役社長 川上睦水

信州大学工学部教授 小山恒夫

富士通(株)ハイブリッド事業部長

(兼)須坂工場長参事 吉沢雄二

信州大学繊維学部長 北条舒正

(五十音順)

11:50 閉会の辞 北陸信越工業教育協会石川県

支部長 吉村元一

昼 食・休 憩

13:00 見学会

行先 松代地震観測所 (旧大本営跡)

13:00 見学会

行先 松代地震観測所 (旧大本営跡)

行程 信州大学工学部 → 川中島古戦場 →

(13:00) (13:10~13:30)

海津城跡 → 松代藩文武学校 →

(13:50~14:10) (14:20~14:40)

旧真田邸 → 地震観測所 (旧大本営跡)

(14:45~15:10) (15:20~16:20)

→ 長野駅・・・(解散)

(17:00)

◆第27回年次大会製品展示会

下記の各社より出品展示がありました。ご協力感谢您謝します。

(株) 神林製作所 須坂市東横町

(株) 栗林製作所 長野県埴科郡坂城町南条

(株) 桜井甘精堂 長野県上高井郡小布施町

山洋電気(株)上田事業所 上田氏緑が丘一丁目

新光電気工業(株) 長野市栗田

須坂帝通(株) 須坂市大字小河原

(株) 竹村製作所 長野市小島
 中部クリエート工業(株) 長野市三輪一丁目
 (株) 千代田製作所 更科氏大字鋳物師屋
 中島オールプリシジョン(株) 長野県埴科郡坂城
 長野愛知電気(株) 長野市川中島町原
 日精樹脂工業(株) 長野県埴科郡坂城町南条
 (株) 八光電機製作所 長野県埴科郡戸倉町磯部
 日置電機(株) 長野県埴科郡坂城町坂城
 不二越機械工業(株) 長野市松代町清野
 富士通(株) 東京都千代田区丸の内(本社)
 (株) 前田鉄工所 長野市吉田4丁目
 松賀機械販売(株) 東京都港区新橋6丁目

以 上

1979 (S.55)年度

会 長	大井信一	富山大学
富山県支部長	大井信一	富山大学
石川県支部長	吉村元一	金沢大学
福井県支部長	八木寿郎	福井大学
長野県支部長	大門信利	信州大学(工)
新潟県支部長	斉藤昇	新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (93) 富山工業高等専門学校 (31) 企業 (33)・一般 (1)
石川県	金沢大学工学部 (132) 金沢工業大学 (5) 石川工業高等専門学校 (5) 企業 (45)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (77) 企業 (29)・一般
長野県	信州大学工学部 (62) 信州大学繊維学部 (12) 長野工業高等専門学校 (9) 企業 (60)・一般 (6)
新潟県	新潟大学工学部 (92) 長岡技術科学大学 (38) 長岡工業高等専門学校 (21) 企業 (23)・一般

◆ 協会運営費が窮迫していることが議論された、

収入の部 1,651,998円

支出の部 1,629,600円

差引残高 22,399円・・・翌年度へ繰越

- 会長は、日本工業教育協会総会にあたっては旅費がない旨を書き添えて欠席する。
- 地区の会報は年1回の発行を継続するものとし、会員名簿は削除しない。
- 長岡技術科学大学では、文部省に対して会費（国費）5万円支出方の申請中である。
- 日本工業教育協会負担金（52万6550円）の一時滞納もあり得る。
- 「工学教育」配布部数（1支部当たり80～90部）は減らし、北海道地区、東北地区のように負担金を35万円程度にしたい。

1981（S.56）年度

会 長	加納源太郎	福井大学
福井県支部長	加納源太郎	福井大学
長野県支部長	両角宗晴	信州大学（工）
新潟県支部長	酒井信之	新潟大学
富山県支部長	大井信一	富山大学
石川県支部長	吉村元一	金沢大学

支部名	機 関 名（会員数）
福井県	福井大学工学部（86） 企業（29）・一般
長野県	信州大学工学部（60） 信州大学繊維学部（12）長野工業高等専門学校（5） 企業（61）・一般（11）
新潟県	新潟大学工学部（87） 長岡技術科学大学（39） 長岡工業高等専門学校（21） 企業（21）・一般
富山県	富山大学工学部（89） 富山工業高等専門学校（30） 企業（35）・一般（1）
石川県	金沢大学工学部（136） 金沢工業大学（6） 石川工業高等専門学校（5） 企業（49）・一般（1）

- 日本工業教育協会負担金（52万6550円⇒34万1000円）。
- 日本工業教育協会編集員（任期2年）の委員は当番大学の輪番制で選出が承認された（富山、福井、新潟、石川、信州）。

1982 (S.57)年度

会 長 酒井信之 新潟大学
 新潟県支部長 酒井信之 新潟大学
 富山県支部長 大井信一 富山大学
 石川県支部長 榑場重正 金沢大学
 福井県支部長 加納源太郎 福井大学
 長野県支部長 田中重弥 信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (92) 長岡技術科学大学 (40) 長岡工業高等専門学校 (21) 企業 (40)・一般
富山県	富山大学工学部 (93) 富山工業高等専門学校 (29) 企業 (38)・一般 (1)
石川県	金沢大学工学部 (144) 金沢工業大学 (5) 石川工業高等専門学校 (6) 企業 (48)・一般
福井県	福井大学工学部 (106) 企業 (27)・一般
長野県	信州大学工学部 (70) 信州大学繊維学部 (12) 長野工業高等専門学校 (9) 企業 (64)・一般 (10)

◆団体会費の値上げは避け、口数を増やす、新規会員を募る等各県支部において努力をすることを申し合わせた。

1983 (S.58)年度

会 長 榑場重正 金沢大学
 石川県支部長 榑場重正 金沢大学
 福井県支部長 加納源太郎 福井大学
 長野県支部長 荒木正夫 信州大学 (工)
 新潟県支部長 酒井信之 新潟大学
 富山県支部長 位崎敏男 富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (141) 金沢工業大学 (5) 石川工業高等専門学校 (5) 企業 (46)・一般
福井県	福井大学工学部 (107) 企業 (35)・一般
長野県	信州大学工学部 (77) 信州大学繊維学部 (12) 長野工業高等専門学校 (9) 企業 (65)・一般 (10)
新潟県	新潟大学工学部 (93) 長岡技術科学大学 (36) 長岡工業高等専門学校 (21) 企業 (38)・一般

富山県	富山大学工学部（92） 富山工業高等専門学校（28） 企業（37）・一般（1）
-----	--

◆会誌「工業教育」を月間にする件については北陸信越工業教育協会としてはその趣旨には添いかねるとの回答をすることになった。

1984 (S.59)年度

会 長	荒木正夫	信州大学（工）
長野県支部長	荒木正夫	信州大学（工）
新潟県支部長	酒井信之	新潟大学
富山県支部長	位崎敏男	富山大学
石川県支部長	榎場重正	金沢大学
福井県支部長	加納源太郎	福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部（79） 信州大学繊維学部（13）長野工業高等専門学校（9） 企業（69）・一般（10）
新潟県	新潟大学工学部（95） 長岡技術科学大学（36） 長岡工業高等専門学校（18） 企業（37）・一般
富山県	富山大学工学部（88） 富山工業高等専門学校（25） 企業（35）・一般（1）
石川県	金沢大学工学部（145） 金沢工業大学（5） 石川工業高等専門学校（4） 企業（47）・一般
福井県	福井大学工学部（107） 企業（35）・一般

1985 (S.60)年度

会 長	位崎敏男	富山大学
富山県支部長	位崎敏男	富山大学
石川県支部長	榎場重正	金沢大学
福井県支部長	鳥海勲	福井大学
長野県支部長	吉田俊彌	信州大学（工）
新潟県支部長	下田茂	新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部（90） 富山工業高等専門学校（23） 企業（40）・一般（1）
石川県	金沢大学工学部（148） 金沢工業大学（4） 石川工業高等専門学校（3） 企業（45）・一般

福井県	福井大学工学部（１１３） 福井工業高等専門学校（３） 企業（３４）・一般
長野県	信州大学工学部（７４） 信州大学繊維学部（１０）長野工業高等専門学校（９） 企業（７２）・一般（１０）
新潟県	新潟大学工学部（９９） 長岡技術科学大学（３３） 長岡工業高等専門学校（１５） 企業（３５）・一般

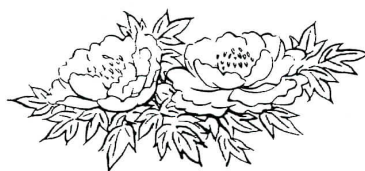
◆北陸信越工業教育協会第 82 回理事会及び

第 34 回評議員会・通常総会（昭和 60 年 6 月 20 日（木））

日本工業教育協会第 34 回年次大会担当支部について諮り、長野県支部丹野監事から「日本工業教育協会年次大会」に至る経過の説明があり、協議の結果、鳥海福井県支部長から、経費面の予算処置について各支部の全面的な協力が得られるならば担当を引き受けてもよいとの意思表示がなされ、第 34 回年次大会を福井県支部が担当することとなった。

◆ 北陸信越工業教育協会第 83 回理事会（昭和 60 年 10 月 24 日（木））

日本工業教育協会第 34 回年次大会（案）について福井県支部長（鳥海理事）及び田川幹事（福井県支部）から、協賛金は福井県支部がその半分を負担し残りの半額を他県支部でそれぞれ均等割に負担することについては長野県支部は持ち帰り相談することになったが、そのほかは原案通り了承された。



1986 (S.61)年度

会 長	鳥海勲	福井大学
福井県支部長	鳥海勲	福井大学
長野県支部長	工藤道夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	下田茂	新潟大学
富山県支部長	位崎敏男	富山大学
石川県支部長	柴原正雄	金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (1 1 0) 福井工業高等専門学校 (3) 企業 (3 3)・一般
長野県	信州大学工学部 (7 5) 信州大学繊維学部 (9) 長野工業高等専門学校 (8) 企業 (7 4)・一般 (1 0)
新潟県	新潟大学工学部 (1 0 0) 長岡技術科学大学 (3 2) 長岡工業高等専門学校 (1 5) 企業 (3 4)・一般
富山県	富山大学工学部 (8 9) 富山工業高等専門学校 (2 1) 企業 (4 0)・一般
石川県	金沢大学工学部 (1 4 9) 金沢工業大学 (4) 石川工業高等専門学校 (3) 企業 (4 4)・一般

〔 随 想 〕

日本工業教育協会 第34回年次大会を終えて

福井大学工学部

鳥海 勲

「とに角、こんなものはウダウダいわずに引きうけてしまえ」

昭和60年6月20日のことであった。

6～7年に1度、北信越に当番がまわってくる日本工業教育協会の年次大会のことである。

時の金沢大加場工学部長の一言でできたようなものである。

内々の連絡はうけていたので覚悟はして雷鳥に乗った私であるが、当方は工学部長1ヶ月目の新米である。

会場は高岡からの第2陣の引越しがはじまった富山大工学部五福の会議室。

心配はたゞひとつ。この不況下で募金が集まるか。メモをみると富山へ行く前に学内で打合せをしている。募金の半分を福井以外の支部で分担してもらえば何とかなる。

この虫のよい提案は多少の驚きをふくめて当日了解された。あつかましいと思われたかもしれない。それまでは担当支部だけの負担で行われていたから。

7月末、第33回の大会(北大)に出席。工学部の事務長・庶務係長同道。考えてみると部長も新米、事務長も係長も皆新米。北海道のビヤ・パーティで来年を約束。あと1年。

直ちに日程決定作業。

パネル討議2つ行うことはピントがボケる。主題はひとつ。今迄の日程を縮める。

9月2日、東京、日工幹部会に上記の提案。基本的了解。

10月16日、東京、日工幹部会で

- 特別講演 2)—第1日
- 日工のあり方討議
- パネル 1 —第2日

パネル主題は「産学協同の問題点」

その後、特別講演、パネラーの人選に時間がかかる。

12月6日、学内募金委員会発足。

12月12日、日工理事会(東京)で原案了承。翌昭和61年1～3月、募金難航。大学の先生が顔をみせると寄付ですなと会社でいわれる。

5月、福井支部募金、目標に達せず。

5月13日、募金委員会を実行委員会に切換える。

7月15日、実行委員会最終打合せ。実行委員教官13人、事務分担職員6人、補助職員12人、学生アルバイト7人。分担決定。

7月23～24日、大会は予定通り実行され、予定通り終わった。ノントラブル。アルバイト学生が手もちぶさたであったのが目立つ。

職員もこの手勢で、これ位の大会は出来るとの自信がついたと思う。恐らく今迄の日工の大会の中で最小編成ではなかったか。

福井の街の呑み屋が3日間何処も会員で埋まってしまった建築学会全国大会より規模は $\frac{1}{10}$ 位であったが、参加者の顔ぶれが違うので勝手がちがった。

8月末、録音テープ7巻からの原稿編集作業終了。

10月、日工会誌第34巻第4号発行。特集は第34回大会。

10月21日、信州大学繊維学部で決算報告。多少の黒字。他支部の募金分担協力がなければ完全に赤字。確かに不況です。

以上が日工全国大会を引きうけた1年間の経過報告ですが、その間、感じたことを少々。

募金：他支部は知らず、福井支部で感じたこと。日本工業教育協会の大会であり、主題が産

学協同の問題点であるのに、福井大学の教官だけが会社を回り、募金を要請して回ったのはどこか可怪しいのではないか。これが学会の大会なら判るのであるが。この辺にひとつ地方における工業教育協会の問題点があるのではないか。募金でなく寄付でした。

日工協のあり方：第33回大会の時、吉本氏（明治大）より日工のあり方そのものをも少し考えてはどうかとの提案があった。それを受けての今回第1日目の討議「日本工業教育協会に望む」となったのだが議論は未だその序の口に達しただけの感が深い。日工そのものの設計、構想。各地区とのかゝり合いなど、暗中模索的なところがある。

こゝでひとつ不審な点が出てくる。以上の様なことは何も前回・今回にはじまった問題ではないのである。本大会が第34回であることは34年経過していることを意味する。

その間、何をしていたのだらうというのが偽らざる感想である。工業教育に関心を持つものの親睦団体ですか。

いずれあと6～7年もすれば亦、北信越にこの日工の大会が回ってくる。日工がある限り、それは引きうけざるを得ないでしょう。しかし、その時、今の問題、今の議題が現在と同じに近いのであれば、その時には基本的にその存在理由を考え直す必要があると思われる。

地方の工業教育協会：もひとつ大会の準備をしていて感じたことは、関東地区は私立の大学も多数参加されており賑やかだが、それ以外の地区では余りその傾向がみられないことである。これはその成立当初にどんな勧誘をして回ったのかにも関連するのであろうが地区の協会を発展させるのなら一度原点にもどって考えた方がよいように思われる。

県に大会の援助を要請に行ったときも、県内に他に大学がないわけじゃなし、福井大学だけが参加して協会の大会に県として援助はできません、せいぜい祝電ですなという返答が返ってきたのと無関係じゃないでしょう。

何が、そして誰が、この日工を必要としているのか。全体としても一度、考え直すべきだと思った大会でした。

1987 (S.62)年度

会 長	阿部武雄	新潟大学
新潟県支部長	阿部武雄	新潟大学
富山県支部長	作道榮一	富山大学
石川県支部長	柴原正雄	金沢大学
福井県支部長	鳥海勲	福井大学
長野県支部長	工藤道夫	信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (100) 長岡技術科学大学 (30) 長岡工業高等専門学校 (12) 企業 (34)・一般
富山県	富山大学工学部 (86) 富山工業高等専門学校 (20) 企業 (37)・一般
石川県	金沢大学工学部 (152) 金沢工業大学 (10) 石川工業高等専門学校 (2) 企業 (45)・一般
福井県	福井大学工学部 (109) 福井工業高等専門学校 (3) 企業 (33)・一般
長野県	信州大学工学部 (74) 信州大学繊維学部 (14) 長野工業高等専門学校 (5) 企業 (73)・一般 (11)

◆会誌「工業教育」第36巻第1号

特集記事への原稿について日工教編集委員長から依頼があり、日程の都合から

○産業構造の変化に対して、企業は大学に何を要望するか

(株)新潟鉄工所取締役人事部 長岡英二 氏

○企業とくに中小企業は工業教育に何を期待するか

シナノケンシ(株)精密電気事業部管理部次長 山崎直純 氏

にそれぞれ執筆の依頼をした旨の説明があった。

1988 (S.63)年度

会 長	柴原正雄	金沢大学
石川県支部長	柴原正雄	金沢大学
福井県支部長	鳥海勲	福井大学
長野県支部長	工藤道夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	阿部武雄	新潟大学
富山県支部長	作道榮一	富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (158) 金沢工業大学 (11) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (9) 企業 (46)・一般
福井県	福井大学工学部 (116) 福井工業大学 (1) 福井工業高等専門学校 (24) 企業 (33)・一般
長野県	信州大学工学部 (75) 信州大学繊維学部 (13) 長野工業高等専門学校 (5) 企業 (74)・一般 (9)
新潟県	新潟大学工学部 (100) 長岡技術科学大学 (30) 長岡工業高等専門学校 (12) 企業 (24)・一般
富山県	富山大学工学部 (87) 富山工業高等専門学校 (19) 企業 (47)・一般

❖ 金沢工業高等専門学校が団体会員に入会。

1989 (H.元)年度

会 長 丹野頼元 信州大学 (工)
 長野県支部長 丹野頼元 信州大学 (工)
 新潟県支部長 阿部武雄 新潟大学
 富山県支部長 作道榮一 富山大学
 石川県支部長 小堀為雄 金沢大学
 福井県支部長 岩澤宏 福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (57) 信州大学繊維学部 (11) 長野工業高等専門学校 (15) 企業 (72)・一般 (9)
新潟県	新潟大学工学部 (95) 長岡技術科学大学 (28) 長岡工業高等専門学校 (9) 企業 (33)・一般
富山県	富山大学工学部 (85) 富山工業高等専門学校 (18) 企業 (37)・一般
石川県	金沢大学工学部 (160) 金沢工業大学 (10) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (10) 企業 (46)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (126) 福井工業大学 (1) 福井工業高等専門学校 (24) 企業 (34)・一般

1990 (H.2)年度

会 長 作道榮一 富山大学
 富山県支部長 作道榮一 富山大学
 石川県支部長 小堀為雄 金沢大学
 福井県支部長 岩澤宏 福井大学
 長野県支部長 丹野頼元 信州大学 (工)
 新潟県支部長 阿部武雄 新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (88) 富山工業高等専門学校 (16) 企業 (36)・一般
石川県	金沢大学工学部 (152) 金沢工業大学 (10) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (10) 企業 (46)・一般 (2)
福井県	福井大学工学部 (118) 福井工業大学 (1) 福井工業高等専門学校 (24) 企業 (40)・一般
長野県	信州大学工学部 (67) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (15) 企業 (70)・一般 (9)
新潟県	新潟大学工学部 (97) 長岡技術科学大学 (23) 長岡工業高等専門学校 (8) 企業 (33)・一般

1991 (H.3)年度

会 長 豊嶋敏雄 福井大学
 福井県支部長 豊嶋敏雄 福井大学
 長野県支部長 丹野頼元 信州大学 (工)
 新潟県支部長 一宮亮一 新潟大学
 富山県支部長 多々静雄 富山大学
 石川県支部長 小堀為雄 金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (110) 福井工業大学 (3) 福井工業高等専門学校 (24) 企業 (40)・一般
長野県	信州大学工学部 (64) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (7) 企業 (70)・一般 (10)

新潟県	新潟大学工学部（101） 長岡技術科学大学（20） 長岡工業高等専門学校（8） 企業（33）・一般
富山県	富山大学工学部（82） 富山県立大学（14） 富山工業高等専門学校（15） 企業（35）・一般
石川県	金沢大学工学部（153） 金沢工業大学（83） 石川工業高等専門学校（2） 金沢工業高等専門学校（16） 企業（45）・一般（2）

❖北陸信越工教第94回理事会（H.3.6）

豊嶋敏雄会長（福井大）が日工教から、金沢工業大学の柳下和夫教授（非会員）を日工教の「国際委員会」委員に推薦して欲しいとの依頼を受けたとの報告があり、協議の後、同教授が就任を承諾するに当たっては「北陸信越工業教育協会」と「社日本工業教育協会」への入会が必要であることの説明をすることとなった。北陸信越工業教育協会事務局から連絡を受けた柳下教授は、就任を承諾し、「北陸信越工業教育協会」、「社日本工業教育協会」への入会手続きを行った。

その後、金沢工業大学は工業教育に意欲的な取り組みをしていることもあり、教員83名、金沢高専16名が「北陸信越工業教育協会」と「社日本工業教育協会」への入会手続きを行った。

❖地区工教第95回理事会（H.3.10）

小堀為雄支部長（金沢大学）は金沢工業大学教員の入会者数について報告を行い、団体会員となっている会員の会費はどのように扱うかについて協議された。

席上、佐藤豪（金沢工大学長）石川県支部評議員から学校会員の取り扱いについて意見があり、審議の結果、今回は規程の改正を行わず運用で現行個人会費（学校会員扱い）に日工教個人会費を上積みし、国立大学は会費の都合がつく大学から加入することとし、その他の学校についても随時加入の道を開いておくことで了承された。

また、付帯事項として、個人会費700円が妥当かどうか、来年の総会までに検討しておくことが申し合わされた。

❖大学設置基準の改正（平成3年）に伴い各大学の自由裁量が大幅に増えたこと、設置基準は史上画期的な改正となったこと等から、各大学が教育課程の改革や自己点検・評価の実施に意欲的、精力的に取り組むことが要求され、大学を取り巻く国内外の状況も大きく変化した。

1992 (H.4)年度

会 長	一宮亮一	新潟大学
新潟県支部長	一宮亮一	新潟大学
富山県支部長	多々静雄	富山大学
石川県支部長	小堀為雄	金沢大学
福井県支部長	豊嶋敏雄	福井大学
長野県支部長	丹野頼元	信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (93) 長岡技術科学大学 (18) 長岡工業高等専門学校 (7) 企業 (33)・一般
富山県	富山大学工学部 (81) 富山県立大学 (15) 富山工業高等専門学校 (14) 企業 (35)・一般
石川県	金沢大学工学部 (157) 金沢工業大学 (91) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (17) 企業 (44)・一般 (2)
福井県	福井大学工学部 (123) 福井工業大学 (3) 福井工業高等専門学校 (21) 企業 (40)・一般
長野県	信州大学工学部 (63) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (67)・一般 (10)

❖第96回理事会、第41回評議員会・通常総会(平成4年6月18日)において、石川県支部の金沢工業大学、石川工業高等専門学校は平成5年度から学校会員としての入会が承認された。

北工教に入会する私立大学からは50,000円、高専からは30,000円で日工教に加入する学校会費は30,000円を徴収する。また、個人会費については700円を据え置きとすることが承認された。

❖第43回年次大会当番支部について

一宮会長から、平成7年に開催される第43回年次大会の担当支部を富山大学にお願いすることが意義なく承認された。

❖日本工業教育協会委員について

平成5年3月で任期の切れる編集出版委員会委員は輪番で福井県支部から、事業企画委員会委員は富山県支部から、国際委員会委員は長野県支部から、また平成5年5月31日で任期の切れる理工系大学院を中心とした教育の向上に関する調査研究委員会委員は

長野県支部から夫々選出することになった。

また、本年度から新たに「リフレッシュ教育についての大学等と産業界との連携・協力の在り方に関する調査研究」委員会委員の選出依頼があり、北工教会長である一宮新潟大学工学部長が委員を引き受けた旨の報告があり、了承された。

リフレッシュ教育についての大学等と産業界との連携・協力の在り方に関する調査研究は文部省から日工教が委託を受け、各地区工教においてリフレッシュ教育について産業界のニーズを調査し報告の取りまとめを依頼されており、今年度は新潟県支部で新潟県の産業界について調査することになった旨の報告があった。

また、今年度以降も調査の依頼があれば来年度は富山県支部、明後年度は石川県支部で引き続き調査することを依頼することになった。

1993 (H.5)年度

会 長	江見準	金沢大学
石川県支部長	江見準	金沢大学
福井県支部長	庄野義之	福井大学
長野県支部長	川上浩	信州大学 (工)
新潟県支部長	一宮亮一	新潟大学
富山県支部長	時澤貢	富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (154) 金沢工業大学 (85) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (17) 企業 (44)・一般 (3)
福井県	福井大学工学部 (123) 福井工業大学 (3) 福井工業高等専門学校 (20) 企業 (38)・一般
長野県	信州大学工学部 (63) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (4) 企業 (65)・一般 (10)
新潟県	新潟大学工学部 (91) 長岡技術科学大学 (17) 長岡工業高等専門学校 (7) 企業 (32)・一般
富山県	富山大学工学部 (78) 富山県立大学 (15) 富山工業高等専門学校 (14) 企業 (35)・一般

❖北陸信越工業教育協会第 99 回理事会(H5.11.25)では、大学、高専に対して学校会員加入要請および個人会員の勧誘は各県支部ごとに実施し、平成 6 年度の理事会にて結果を報告することが申し合わされた。

☆勧誘活動における申し合わせ

- ・北陸信越工教への入会の条件として、(社)日本工業教育協会にも入会するとの説明と了解を得る必要がある。
- ・北陸信越地区以外では高等専門学校の加入率が高いことも説明に加える。

❖日本工業教育協会からの会長任期 2 年とする要請について

北工教の会長任期を 2 年とすることについては学部長の任期との関係や負担増のこともあり、当分の間、従来のとおり任期を 1 年とする。ただし、協会長交代の際、引継ぎをより一層十分に行い、日工教に迷惑を掛けないよう配慮することを申し合わせた。

❖地区工教会員を日本工業教育協会会員とすることについて

会費を値上げして日工教会費を負担することについては、現在、会費 700 円は全て地区工教の活動費である。現段階では値上げの必要がないとの意見が大勢を占めたため、これまでの趣旨を逸脱するような方法は見送ることとした。

地区工教会員が日工教に加入するためには、新たに 2,500 円が必要であるので、全員を直ちに加入させることは無理であるとされた。但し、できるだけ多くの地区工教会員が日工教の個人会員に加入するよう各県支部で努力することが確認された。

❖日本工業教育協会会員と地区工教との関係強化について

地区工教個々の活動は従来通り各県支部活動を主体に行うが、地区工教としてのまとまった活動は日工教が企画した行事を出来る限り共済して実施するなど、これまでより連携を密にする方向で活動を進める。

以上の諸問題については、来年度も引き続き協議する。

❖平成 5 年 7 月 27 日（火）(社)日工教第 41 回年次大会)

第 2 回 日本工学教育協会賞 功績賞

京藤 睦重 金沢工業大学 顧問

☆永年にわたる特色ある工学・工業教育への貢献

日本工学教育協会賞 著作賞

平林 義彰 金沢工業大学 助教授、他 3 名

☆理工系留学生のための科学技術 日本語教科書の著作

会報第42号

北陸信越工業教育協会

会 報

Report of The HASEE

北陸信越工業教育協会

平成6年3月

学 校 会 員

学 校 名	所 在 地	代 表 者 名
新潟大学工学部	〒950-21 新潟市五十嵐二の町8050番地 ☎025-262-6088	学部長 一宮亮一
長岡技術科学大学	〒940-21 長岡市上富岡町1603番地1 ☎0258-46-6000	学 長 内 田 安 三
富山大学工学部	〒930 富山市五福9190番地 ☎0764-41-1271	学部長 時澤 貢
金沢大学工学部	〒920 金沢市小立野2丁目40番20号 ☎0762-34-4553	学部長 江見 準
金沢工業大学	〒921 石川県石川郡野々市町福が丘1番1号 ☎0762-46-1100	学 長 石 川 憲 一
石川工業高等専門学校	〒929-03 石川県河北郡津幡町北中条91番地 ☎0762-88-8000	校 長 横 山 恭 男
福井大学工学部	〒910 福井市文京3丁目9番1号 ☎0776-23-0500	学部長 庄野義之
福井工業高等専門学校	〒916 鯖江市下町 ☎0778-62-1111	校 長 田 中 茂 利
信州大学工学部	〒380 長野市若里500番地 ☎0262-26-4101	学部長 川上 浩
長野工業高等専門学校	〒381 長野市徳間716番地 ☎0262-96-1515	校 長 森 康

(10校)

1994 (H.6)年度

会 長 川上浩 信州大学 (工)

長野県支部長 川上浩 信州大学 (工)

新潟県支部長 一宮亮一 新潟大学

富山県支部長 時澤貢 富山大学

石川県支部長 江見準 金沢大学

福井県支部長 庄野義之 福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (62) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (10) 企業 (64)・一般 (12)
新潟県	新潟大学工学部 (109) 長岡技術科学大学 (15) 長岡工業高等専門学校 (8) 企業 (32)・一般
富山県	富山大学工学部 (78) 富山県立大学 (15) 富山工業高等専門学校 (8) 企業 (35)・一般

石川県	金沢大学工学部（159） 金沢工業大学（89） 石川工業高等専門学校（2） 金沢工業高等専門学校（17） 企業（44）・一般（3）
福井県	福井大学工学部（126） 福井工業大学（3） 福井工業高等専門学校（19） 企業（37）・一般

❖北工教会報の版が改訂された B5⇒A4

学校会員 10 校 石川工業高等専門学校、福井工業高等専門学校、長野工業高等専門学校

❖(社)日本工学教育協会の名称変更の提案

日工教第 42 回年次大会・理事会・定時総会（札幌市）において「日本工業教育協会」という名称では、工学教育に携わっている団体であるとの理解が得られにくいとの指摘が多くあり、名称を変更したいとの提案について、日工教の理事会（9 月）に於いて審議され、変更名称「日本工学教育協会」が承認された。

名称変更の手続きには文部大臣の承認を得る必要もあり、平成 6 年 12 月からの施行になった。また、会誌の表示「工業教育」は平成 7 年 1 月号から「工学教育」となる。

各地区工教における名称変更に関する対応は、設立が日本工業教育協会よりも先に発足していることに加え、それぞれの地区工教では独自の産学連携活動を展開しており、日工教と同時に名称を変更することは困難であるが、変更に向けての議論は継続審議事項とした。

北陸信越工教では平成 6 年 10 月の第 101 回理事会（於：信州大学）において協議し、平成 7 年の第 44 回評議員会・総会に諮り、変更の承認を得る方向で対応することとした。

❖経費（会員会費：年額）

	会員区分	北陸信越工業教育協会	(社)日本工学教育協会
平成 3 年	個人会員	700 円	2,500 円
	学校会員	50,000 円（大学）	
		30,000 円（短大、高専）	
	団体会員	2,000 円（一口）	15,000 円
平成 6 年	個人会員	700 円	2,500 円
	学校会員	50,000 円（大学）	30,000 円
		30,000 円（短大、高専）	
	団体会員	2,000 円（一口）	15,000 円

1995 (H.7)年度

会 長	時澤貢	富山大学
富山県支部長	島崎長一郎	富山大学
石川県支部長	江見準	金沢大学
福井県支部長	庄野義之	福井大学
長野県支部長	柳沢武三郎	信州大学 (工)
新潟県支部長	斉藤義明	新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (69) 富山県立大学 (15) 富山工業高等専門学校 (15) 企業 (35)・一般
石川県	金沢大学工学部 (162) 金沢工業大学 (82) 石川工業高等専門学校 (2) 金沢工業高等専門学校 (17) 企業 (42)・一般 (3)
福井県	福井大学工学部 (124) 福井工業大学 (2) 福井工業高等専門学校 (24) 企業 (36)・一般
長野県	信州大学工学部 (63) 信州大学繊維学部 (10) 長野工業高等専門学校 (10) 企業 (61)・一般 (12)
新潟県	新潟大学工学部 (113) 長岡技術科学大学 (16) 長岡工業高等専門学校 (12) 新潟工業短期大学 (1) 新潟工科大学 (35) 企業 (32)・一般

学校会員 12校 新潟工業短期大学 新潟工科大学

◆1995(H7)年 北陸信越工業教育協会の理事会、総会

報告事項

協会名称変更、会費の改定、学校推薦理事 (石川支部) 就任に伴う規程の一部改正

1) 日工教年次大会 (富山県民会館) 開催

(社)日工教第43回定時総会(富山大会 H7.7.25)において、日工教役員選出 (推薦方式: 輪番制)、個人会員会費 (2,500円⇒3,000円) の値上げが諮られ、承認された。関連して日工教定款・細則の改正が承認された。

◆平成7年7月25日 (日) (社)日工教第43回年次大会)

第4回 日本工学教育協会賞 功績賞

示村悦二郎 北陸先端科学技術大学院大学 教授

☆大学理工学教育の充実、制御工学の啓蒙・普及

(社)日工教第 43 回年次大会プログラム

開催期	開催場所	総受付	要 要 [] 内は、実施場所を示す。
社団法人 日本工学教育協会 第 43 回 年次大会プログラム — 知的創造力を触発する工学教育 —			
開催期	平成 7 年 7 月 25 日 (火) ～ 7 月 28 日 (金)		
開催場所	富山県民会館【〒930 富山市総曲輪 4 番 1 8 号 ☎ 0764-32-3111】		
総受付	富山県民会館 1 階 ホール		
第 1 日目 (7 月 25 日 (火))			
開催期	9:00～9:30	受付【定時総会】【304号室前】	
	9:30～11:30	定時総会【304号室】	
	11:40～12:00	理事会【705号室】	
	12:30～13:30	受付【研究講演会参加を含む】	
	13:30～14:50	第43回年次大会開会式【304号室】	
		開会司会：(社)日本工学教育協会 専務理事 原田 耕作	
		開会の辞：北陸信越工学教育協会 会長 時澤 貢	
		会長挨拶：(社)日本工学教育協会 会長 三田 勝茂	
		祝 辞：文部大臣 与謝野 馨	
		富山大学学長 小黒 千足	
		富山県知事 中 沖 豊	
		富山市市長 正橋 正一	
		祝電披露：司会者	
		工学・工業教育功績者表彰	
		選考委員会委員長経過報告	
		表彰式	
		受賞者代表挨拶	
	14:50～15:00	休 憩	
	15:00～17:00	特別講演	
		(1) 演題；	
		講師：文部省高等教育局専門教育課課長	
		(2) 演題；	
		講師：工学院大学学長 大橋 秀雄	
		懇親会【県民会館8階キャッスル】	
		司会：(北陸信越工学教育協会幹事 吉川 和男)	
		実行委員長挨拶 北陸信越工学教育協会会長 時澤 貢	
		歓迎の辞 富山大学学長 小黒 千足	
		会長挨拶 (社)日本工学教育協会会長 三田 勝茂	
第 2 日目 (7 月 26 日 (水))			
開催期	8:50～9:20	受付【3階304号室前】	
	9:20～9:30	開会挨拶	
	9:30～12:00	工学・工業に関する講演会 I (午前の部)	
	13:00～17:00	工学・工業に関する講演会 II (午後の部)	
		A 会場 【7階701号室】	
		B 会場 【7階702号室】	
		C 会場 【7階703号室】	
		D 会場 【7階704号室】	
	17:30～19:30	(社)日本工学教育協会役員・北陸信越工学教育協会会長懇談会	
		【名鉄トヤマホテル】	
第 3 日目 (7 月 27 日 (木))			
開催期	9:00～9:30	受付【3階304号室前】	
	9:30～11:00	文部省委託調査研究委員会報告【3階304号室】	
		(1) 題 目：情報技術者の育成に対する産業界の	
		需要動向に関する調査研究	
		報告者：同志社大学工学部教授 三森 定道	
		(2) 題 目：IT/IT教育に関する産業界と大学等との交流について	
		(事務系職員)	
		発表者：千葉工業大学副学長 岡田 厚正	
		(3) 題 目：産学技術交流と技術教育 — その現状と2,3の提言 —	
		発表者：玉川大学工学部教授 町田 輝史	
	11:00～11:10	休 憩	
	11:10～12:10	特別講演【3階304号室】	
		演 題：和漢薬と健康維持	
		講 師：荻田村(村)研究所所長	
		富山医科大学名譽教授 荻田 善一	
	12:10～13:00	昼 食・休 憩	
	13:00～15:30	パネル討議【3階304号室】	
		議 題：創造性教育の在り方を考える	
		司 会：富山大学工学部長 時澤 貢	
		パネリスト：船 久晴 (コセック社 取締役副社長)	
		久保 猛志 (鉄工建設 専務)	
		島田 彌 (三菱電機株式会社 技術開発部長)	
		鈴木 邁 (日工教 専務・富山大学工学部長)	

2) 北陸信越工教 (富山地区) 開催

第 102 回理事会第 44 回評議員会・通常総会(H7.6 於富山大学)

- ・地区工教の名称の変更に伴い協会規程の一部が改正された。

3) 北陸信越工教 (新潟地区) 開催

第 103 回理事会(H7.11.16 於長岡技科大学)

- ・議長 時澤貢会長 (富山大)
- ・石川県支部長 江見準 (金沢大学) から石川憲一 (金沢工業大学学長)、横山恭男 (石川工業高等専門学校長) を理事に推薦したい旨の申し出があった。

4) 北陸信越工業教育協会規程の一部を改訂する提案

北陸信越工学教育協会第 102 回理事会並びに第 44 回評議員会・通常総会、平成 7 年 6 月 8 日 (水)、富山大学工学部会議室において標記改正等が審議された。

事務局（富山大）からの提案

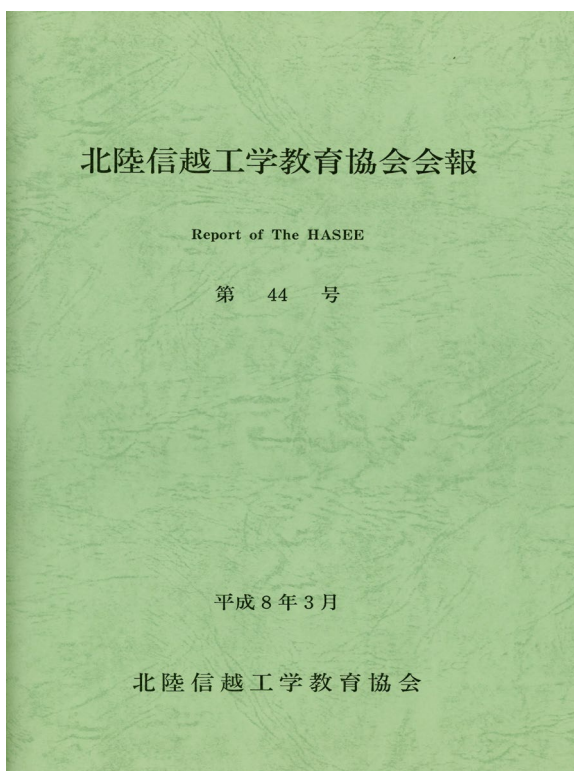
先に行った本協会の規定の改正の趣旨が各支部の高等専門学校の校長等を理事に加え、協会の体質を強化するためのものであったこと、その就任の時期は、可能な限り統一したいとされていたことなどから、この際、これらの理事就任について提案するものであること、及び本協会には選挙規定があるが、石川県支部の事情及び規程改正の趣旨を斟酌し、これに関わらず、第44回評議員会・通常総会において承認されたものとして取り扱う旨の説明があった。

承認の取り扱いについて諮り、審議の結果、原案の通り承認された。

日本工業教育協会が日本工学教育協会に名称を変更したことに伴うもので、前回の理事会（第101回理事会、平成6年10月13日長野県支部開催）の承認を得ることに伴い、本協会の規定及び内規の題名について平仄（ひょうそく）を合わせる必要があることについて承認された。

改正規定は、平成7年6月8日から施行し、平成7年4月から適用することが合わせて承認された。

会報の名称変更 ⇒



「北陸信越工業教育協会会報」 ⇒ 「北陸信越工学教育協会会報」

❖ 「いしかわ情報システムフェア95」の後援

開催日 平成7年10月26日～28日 於：石川県産業展示館

1996 (H.8)年度

会 長	庄野義之	福井大学
福井県支部長	江守幹夫	日華化学(株)
長野県支部長	柳沢武三郎	信州大学(工)
新潟県支部長	齋藤義明	新潟大学
富山県支部長	時澤貢	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部(121) 福井工業大学(2) 福井工業高等専門学校(20) 企業(34)・一般
長野県	信州大学工学部(64) 信州大学繊維学部(9) 長野工業高等専門学校(10) 企業(59)・一般(10)
新潟県	新潟大学工学部(122) 長岡技術科学大学(15) 長岡工業高等専門学校(12) 新潟工業短期大学(1) 新潟工科大学(43) 企業(32)・一般
富山県	富山大学工学部(68) 富山県立大学(11) 富山工業高等専門学校(13) 企業(35)・一般(3)
石川県	金沢大学工学部(169) 金沢工業大学(78) 石川工業高等専門学校(15) 金沢工業高等専門学校(16) 企業(41)・一般(4)

学校会員 14校 富山県立大学 富山工業高等専門学校

❖ 日本工学教育協会年次大会 当番について

回数	年度	当番校	備 考
11	昭和38年	金沢大学	
20	昭和47年	新潟大学	
27	昭和54年	信州大学	
34	昭和61年	福井大学	富山大学移転のため交代
43	平成 7年	富山大学	
52	平成16年		開催予定地石川県

*北工教 105 回理事会(H8. 10.31)において日工教年次大会(H16)の開催担当は石川県支部としている。(福井県支部は富山県支部の次に当たる)

【参考資料：石川県支部講演会も開催】

平成8年度石川県支部講演会（Ⅰ）

開催 平成8年11月29日（金） 於 金沢大学工学部秀峯会館

講演1 企業研究から見た高分子工業の変遷

講師 室谷 定一 氏

出光石油化学株式会社樹脂研究所所長

講演2 エコマテリアルの現状と将来動向

講師 木村 良晴 氏

今日と工芸繊維大学繊維学部高分子学科教授

参加者 物質化学工学科他 100名

◆平成8年度石川県支部講演会（Ⅱ）

開催 平成8年11月29日（金） 於 石川厚生年金会館（芙蓉の間）

演題 情報ネットワークにおける産官学の相互交流について

講師 細野 昭雄 氏

石川県情報システム工業会会長

参加者 企業関係 33名（32社）

会員他 38名

1997（H.9）年度

会長 齊藤義明 新潟大学
 新潟県支部長 鳥居邦夫 長岡技術科学大学
 富山県支部長 宮下尚 富山大学
 石川県支部長 石川憲一 金沢工業大学
 福井県支部長 玉置伸倍 福井大学
 長野県支部長 柳沢武三郎 信州大学（工）

支部名	機 関 名（会員数）
新潟県	新潟大学工学部（118） 長岡技術科学大学（14） 長岡工業高等専門学校（12）新潟工業短期大学（1） 新潟工科大学（43） 企業（32）・一般
富山県	富山大学工学部（67） 富山県立大学（10） 富山工業高等専門学校（13） 企業（34）・一般（2）

石川県	金沢大学工学部（168） 金沢工業大学（101） 石川工業高等専門学校（15） 金沢工業高等専門学校（16） 企業（41）・一般（2）
福井県	福井大学工学部（116） 福井工業大学（2） 福井工業高等専門学校（20） 企業（31）・一般（1）
長野県	信州大学工学部（62） 信州大学繊維学部（24） 長野工業高等専門学校（12） 企業（58）・一般（10）

❖北陸信越工教石川県支部総会

開催日：平成9年5月22日（木）

場 所：金沢工業大学1号館101室

出席者 金沢大学 理 事 林勇 二郎

評議員 北浦 勝

幹 事 前川 幸次、土屋 正明、石田 眞一郎、高島 武、

尾田 十八

石川高専 理 事 横山 恭男

幹 事 細川 一夫

金沢工大 理 事 石川 憲一(石川県支部長)

評議員 前田 正雄

幹 事 島田 洋一、河端 裕、山口 尚、金丸 保典、垂水 弘夫

諏訪部 仁、宮崎 久三

会 員 中川多津夫

金沢高専 評議員 堀岡 雅清

会員数 340 名 (41 法人含む)、委任状 180 名

石川 憲一支部長が議長となり開会

協議事項

1. 事業報告等、通常の審議事項については全て原案通り承認された。
2. 平成9年度北陸信越工学教育協会理事会、評議員会・総会について
議長より、6月5日（木）・6日（金）の両日、新潟大学工学部において、平成9年度北陸信越工学教育協会理事会、評議員会・総会の開催と出席者について諮り、石川憲一支部長、宮崎久三幹事、倉田一男事務担当（以上金沢工大）が承認された。
3. 平成10年度からの石川県支部長について
議長から平成7年度に金沢工大と石川高専の理事就任が承認された経過説明があり、支部長の輪番制について協議した、支部長の任期は原則として2年とし、再任された

場合は任期を1年間延長することとし、再々任は行わない。

本件は平成10年5月の総会において、石川県支部規程改定の承認を得た後施行する。

4.次期(社)日本工学教育協会役員および北陸信越工学教育協会役員の選出について

支部長から次期(社)日本工学教育協会役員および北陸信越工学教育協会役員の選出について諮り、審議の結果次のとおり承認を得る。

(1) 次期日本工学教育協会役員

理事 石川憲一支部長(任期1年)

編集出版委員 尾田十八(金沢大)任期2年

(2) 次期北陸信越工学教育協会役員

副会長 石川憲一支部長(任期1年)

監事 山口尚(金沢工大)任期1年

5.その他

①(社)日本工学教育協会第45回年次大会・定時総会について

期日 平成9年7月31日(木)～8月2日(土)

場所 工学院大学(東京都新宿区)

②会報原稿の依頼について

金沢大学、金沢工業大学が各1編(400字詰原稿用紙10枚程度)寄稿する。(論説、講演、報告、資料、随筆等)

◎参考 北工教石川県支部・(社)日工教会員数(人)

	北工教		日工教	
	平成8年度	平成9年度	平成8年度	平成9年度
金沢大学工学部	169	169	22	21
石川高専	15	15	0	0
金沢工業大学	78	101	78	101
金沢高専	16	16	16	16
一般	3	4	4	4
企業等	42	41	0	0

❖平成9年7月31日(社)日工教第45回年次大会)

第1回 工学教育賞 工学教育賞

長野工業高等専門学校 教授 堀内 征治

☆全国高専プログラミングコンテストの創設運営と独創性育成教育の実践

【参考資料 石川県支部規程（改正）】

北陸信越工学教育協会石川県支部規程

1. 本支部は、北陸信越工学教育協会石川県支部と称する。
2. 支部の事務所は、支部長の所属する機関に置く。
3. 石川県に在住する北陸信越工学教育協会（以下「協会」と称する）会員は、すべて当支部に属するものとする。
4. 支部に次の役員を置く。
 - (1) 支部長 1 名
協会理事を充てる。
 - (2) 理事 若干名
会員選挙による
 - (3) 幹事 若干名
会員中より支部長がこれを委嘱する。
 - (4) 評議員 若干名
協会の評議員を充てる。
 - (5) 監事 1 名
会員中より支部長がこれを委嘱する。
5. 役員の仕事は、次の通りとする。
 - (1) 支部長は、支部を代表して会務を統理し、役員会及び総会を招集して、その議長となる。
 - (2) 理事は、支部長を補佐して会の運営に貢献する。
 - (3) 幹事は、会務を掌理する。
 - (4) 評議員は、支部の収支決算、経費、予算を審査し、その他重要な事項を審議する。
 - (5) 監事は、会計を監査する。
6. 支部長の任期は2年とし、再任は任期を1年延長するが、再々任は行わない。
7. 支部の事務を処理するため、事務職員を置くことができる。
8. 支部長の諮問に応ずるため、顧問を委嘱することができる。
9. 総会を分けて、通常総会と臨時総会とする。
 - (1) 通常総会は、毎年1回これを開く。
 - (2) 予算及び決算、その他重要な事項は、総会に報告して、その承認を得ねばならない。
 - (3) 臨時総会は、必要に応じてこれを開く。
10. 総会の成立及び議決については、協会の規定に準ずる。
11. 支部の経費は、協会からの交付金その他を当てる。
12. 会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。
13. 支部規程の変更及び支部の解散は、協会の規程に準ずる。

附 則

この規程の改正は、平成7年6月8日から適用する。

この規程の改正は、平成8年6月8日から適用する。

この規程の改正は、平成10年5月26日から適用する。

1998 (H.10)年度

会 長 石川憲一 金沢工業大学
石川県支部長 林勇二郎 金沢大学
福井県支部長 玉置伸悟 福井大学
長野県支部長 柳沢武三郎 信州大学 (工)
新潟県支部長 斉藤義明 新潟大学
富山県支部長 宮下尚 富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (170) 金沢工業大学 (206) 石川工業高等専門学校 (12) 金沢工業高等専門学校 (16) 企業 (40)・一般 (5)
福井県	福井大学工学部 (113) 福井工業高等専門学校 (20) 企業 (30)・一般 (2)
長野県	信州大学工学部 (61) 信州大学繊維学部 (23) 長野工業高等専門学校 (12) 企業 (54)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (117) 長岡技術科学大学 (35) 長岡工業高等専門学校 (11) 新潟工業短期大学 (1) 新潟工科大学 (43) 企業 (31)・一般
富山県	富山大学工学部 (82) 富山県立大学 (10) 富山工業高等専門学校 (13) 企業 (32)・一般 (2)

❖北陸信越工学教育協会 第108回理事会、第47回評議員会、通常総会の開催

開催日：平成10年6月4日

場所：金沢大学秀峯会館 1F 会議室

北陸信越工教会長：石川 憲一 (金沢工業大学学長) 就任

1) 開 会

2) 会長挨拶 石川憲一 (金沢工業大学学長)

3) 議長選出 北陸信越工学教育協会規程第14条の規定により、石川会長を選出した。

4) 協議事項

平成10年度予算(案)について

①北陸信越工学教育協会交付金の改革

昭和50年以降、各支部に対して本協会は研究活動費(教員の活動費)の助成金を交付しているが、交付金の利用価値を高める方策として、平成9年度は予備費の用途としてベンチャー社長による講演会を学部学生(低学年)に専門意識を持ってもらう企画に使用してほしいとして、各県支部交付金の比率で50万円を配分したところ、工学を学ぶ切掛けとなる講演は有益であると認識されたことから、本助成は平成10年度だけでなく継続して、工学を学ぶ学部学生を対象に講演会を開催してもらうことを提案し、審議され、交付金制度が承認された。

平成10年支部負担金交付金等経費配分額算出内訳(新潟・石川県支部案)10月1日現在

区分	団体会員費④		個人会員費⑤		③ 学校会費		①+②+③		⑥-		講演会等経費配分額の算定		
	会員数	口数	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	平成10年の助成	500,000	500,000
支部	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
雷山	31 / 86	※	172,000	144	100,800	3	150,000	422,800	270,000	152,800	70,000	0.1116	0.142
	※	3	60,000	32	96,000	2	100,000	256,000	256,000	526,000	55,799	70.866	
			232,000				250,000						
福井	28 / 146	※	292,000	157	109,900	2	100,000	501,900	220,000	281,900	85,000	0.2059	0.155
	※	9	180,000	53	159,000	2	100,000	439,000	439,000	659,000	102,943	77.264	
			472,000				200,000						
新潟	30 / 143	※	286,000	199	139,300	4	200,000	625,300	320,000	305,300	106,000	0.2230	0.196
	※	※	286,000	57	171,000	4	200,000	371,000	371,000	691,000	111,488	97.933	
							400,000						
石川	36 / 101	※	202,000	413	289,100	3	150,000	641,100	270,000	371,100	170,000	0.2710	0.406
	※	※	202,000	258	774,000	2	100,000	874,000	874,000	1,144,000	135,517	203.248	
							250,000						
長野	54 / 153	※	306,000	103	72,100	2	100,000	478,100	220,000	258,100	69,000	0.1885	0.101
	※	※	306,000	73	219,000	2	100,000	319,000	319,000	539,000	94,252	50.889	
							200,000						
合計	179 / 629	※	1,258,000	1016	711,200	14	700,000	2,669,200	1,300,000	1,369,200	1,000	1,000	
	※	12	240,000	473	1,419,000	12	600,000	2,259,000	2,259,000				
											500,000	500,000	500,000

注) 1. 上段は北工教会費を示す。
2. 中段の※は、日工教会費を示す。
3. 下段は、上段と中段の合計である。
4. 支部負担金額(⑥)の上段は、学校会費欄に一律負担金120,000円を加えた合計額であり、中段は(A)と同額とする。
5. 本表は(H10)現在の会員数で算定したものである。
6. (公社)日本工学教育協会会費は9月1日を基準に算定したものである。

○50万円の支援金配分は支部の会員数等で按分し、支部からの会費納入時に相殺することが承認された。

◎北陸信越各県支部別講演会等開催状況（回数）

	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13
長野県支部	2	1	2	2	2	3
新潟県支部	1 0	1 4	1 4	1 4	1 5	1 4
富山県支部	1	1	1 + 見学会	1	1	3
石川県支部	4	4	3	4	4	1 1
福井県支部	1 0	9	8	7	1 1	1 1
計	27	29	28 + 見学会	28	32	42

❖日本技術者教育認定機構（JABEE）発足説明会の開催

内 容：日本技術者教育認定機構（JABEE）発足説明会

開催日：平成 11 年 3 月 15 日（月）

場 所：金沢大学工学部秀峯会館

注）参加した大学からは現在教育改革活動の途上でもあり、JABEE への挑戦には時間が必要との意見があった。

1999（H.11）年度

会 長	小林光征	信州大学（工）
長野県支部長	安川英明	セイコーエプソン(株)
新潟県支部長	長谷川富市	新潟大学
富山県支部長	宮下尚	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	玉置伸倍	福井大学

支部名	機 関 名（会員数）
長野県	信州大学工学部（59） 信州大学繊維学部（23） 長野工業高等専門学校（12） 企業（54）・一般（8）
新潟県	新潟大学工学部（118） 長岡技術科学大学（35） 長岡工業高等専門学校（8） 新潟工業短期大学（1） 新潟工科大学（39） 企業（30）・一般
富山県	富山大学工学部（122） 富山県立大学（10） 富山工業高等専門学校（12） 企業（31）・一般（2）

石川県	金沢大学工学部（176） 金沢工業大学（205） 石川工業高等専門学校（12） 金沢工業高等専門学校（18） 企業（36）・一般（1）
福井県	福井大学工学部（128） 福井工業高等専門学校（17） 企業（28）・一般（2）

学校会員 14 校

【参考資料】

日工教年次大会における「発表件数（北陸信越工教関係抜粋）」（1994-1999(H6-H11)年）

大会開催会場	北海道大 学	富山県民 会館	広島国際 会議場	工学院 大学	福岡リーセ ントホテル	神戸オリエン タルホテル	計
開催年度	H6	H7	H8	H9	H10	H11	
全掲載件数	72	70	86	103	139	79	
新潟大学	0	0	0	2	0	0	2
長岡技術科学	0	0	1	0	0	0	1
富山大学	0	1	0	0	0	0	1
金沢大学	0	2	0	0	1	3	6
福井大学	0	2	0	0	0	0	2
信州大学	0	6	0	0	0	1	7
富山県立大学	0	2	0	0	0	0	2
金沢工業大学	6	4	3	6	12	9	40
富山高専	0	1	0	0	0	0	1
福井高専	0	2	0	1	0	0	3
長野高専	0	1	2	5	3	2	13

❖ 社団法人日本工学教育協会（第 48 回定時総会）

開催日 平成 12 年 7 月 18 日（火） 於 名古屋通信会館 4 階ユニオンホール

審議事項

第 6 号議案 理事の改選について

理事の改選は 2 年に 1 回行われており、理事候補者の推薦は各地区協会から 3 名宛の候補者の推薦を行うこととされているが、「(社)日本工学教育協会細則第 3 条 2 の 1」によると、日工教会員が 400 名を超えた場合は、1 名を増とする。・・・今回、北陸信越地区はこの条項に該当している説明の後、日工教事務局からは(社)日本工学教育協会の恒常的理事として

石川憲一金沢工業大学学長（日工教事業企画委員長：石川県支部）の推薦があり、審議し、承認された。

2000（H.12）年度

会 長 宮下尚 富山大学
 富山県支部長 宮下尚 富山大学
 石川県支部長 石川憲一 金沢工業大学
 福井県支部長 玉置伸悟 福井大学
 長野県支部長 小林光征 信州大学（工）
 新潟県支部長 長谷川富市 新潟大学

支部名	機 関 名（会員数）
長野県	信州大学工学部（79） 信州大学繊維学部（22） 長野工業高等専門学校（12） 企業（51）・一般（9）
新潟県	新潟大学工学部（115） 長岡技術科学大学（34） 長岡工業高等専門学校（8）新潟工業短期大学（2） 新潟工科大学（38） 企業（28）・一般
富山県	富山大学工学部（114） 富山県立大学（10） 富山工業高等専門学校（13） 企業（30）・一般（2）
石川県	金沢大学工学部（176） 金沢工業大学（220） 石川工業高等専門学校（11） 金沢工業高等専門学校（19） 企業（38）・一般（2）
福井県	福井大学工学部（118） 福井工業高等専門学校（16） 企業（27）・一般（1）

学校会員 14 校

❖平成12年7月18日（火）（社）日工教第48回年次大会）

第9回 日本工学教育協会賞 業績賞

元信州大学 教授 武井たつ子

☆工学・工業教育の振興と普及に貢献

❖技術者教育認定制度についてのシンポジウム

日時 平成12年9月25日（月） 於 富山大学工学部
 プログラム

（1）北陸信越工学教育協会の最近の動き

北陸信越工学教育協会会長

富山大学工学部 工学部長 宮下 尚氏

(2) 工学教育に関する施策について

文部省高等教育局専門教育課

課長 西坂 昇氏

(3) 産業技術競争力強化施策と技術者教育に期待するもの

通商産業省産業政策局大学等連携推進室

係長 鈴木 正美氏

(4) 技術者制度の認定について (JABEE との関連を含む)

科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課

企画官 日時 政彦氏

(5) 技術者教育認定制度の概要と今後の進め方

JABEE 専務理事 原田 耕作氏

(6) 審査基準、審査方法の進め方、自己点検書及び試行について

JABEE 審査委員会委員長

大阪大学大学院工学研究科

教授 大中 逸雄氏

(7) その他

① 「工学一般」調査研究報告

日本工学教育協会工学一般調査研究委員会委員長

東京大学大学院工学系研究科

教授 中島 尚正氏

② 日工教の JABEE 関連の取り組み

日本工学教育協会専務理事 椿原 治氏

❖北陸信越工学教育協会第 113 回理事会

日時 平成 12 年 10 月 26 日 (木) 於 東京ガーデンパレス

議長 宮下 尚協会会長 (富山県支部長・富山大学工学部長)

協議事項

(社)日本工学教育協会関係

①平成 13 年度役員を選出依頼について

議長から、平成 13 年度の役員及び各種委員会委員について次のとおり選出し、平成 13 年 4 月 6 日までに報告願いたい旨の提案があった。

また、(社)日本工学教育協会から、平成 12 年度地区工教会長 (富山県支部長) 宛に報告願いたい旨の提案があり、審議の結果原案通り承認された。

○理 事 (4 人選出)

- ・ 13 年度地区教会長（福井県支部長）
- ・ 14 年度地区教会長（新潟県支部長）
- ・ 金沢工業大学石川憲一学長（恒常的）
- ・ 12 年度地区教会長（富山県支部長）

○評議員（2 人選出）

- ・ 13 年度総会担当支部（福井県支部）の理事を選出

* 理事及び評議員の任期は 1 年間とする。

2001 (H. 1 3)年度

会 長	山本富士夫	福井大学
福井県支部長	山本富士夫	福井大学
長野県支部長	大下眞二郎	信州大学（工）
新潟県支部長	長谷川富市	新潟大学
富山県支部長	龍山智榮	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (1 1 4) 富山県立大学 (8) 富山工業高等専門学校 (2 8) 企業 (2 8)・一般 (1)
石川県	金沢大学工学部 (1 8 3) 金沢工業大学 (2 2 8) 石川工業高等専門学校 (1 0) 金沢工業高等専門学校 (1 7) 企業 (3 8)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (1 3 0) 福井工業高等専門学校 (1 9) 企業 (2 6)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (7 8) 信州大学繊維学部 (2 3) 長野工業高等専門学校 (1 0) 企業 (4 9)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (1 1 2) 長岡技術科学大学 (3 2) 長岡工業高等専門学校 (8) 新潟工業短期大学 (2) 新潟工科大学 (3 5) 企業 (2 7)・一般

学校会員 15 校・・・新潟 1 追加 長岡工業高等専門学校

❖北陸信越工学教育協会第 114 回理事会・第 50 回評議員会・通常総会

日時：平成 13 年 6 月 7 日（金）

場所：ユアーズホテルフクイ

議長 山本富士夫会長（福井県支部長、福井大学工学部長）

協議事項

○北陸信越工学教育協会第 115 回理事会の開催について

10 月 25 日（木）東京ガーデンパレスにての開催を予定している。

○平成 12 年度日本工学教育協会第 3 回理事会について

・議長から、JABEE に関して文部科学省から 800 万円程度、経済産業省から 2,400 万円程度の支援が、日本工学教育協会にあったことを報告。

・平成 14 年度の日本工学教育協会 50 周年記念事業について、関東工学教育協会の主管により準備されている。

・技術者継続教育国際会議（IACCÉE）が 2004 年に東京で実施される。

◆技術者教育認定制度についてのシンポジウム

日時 平成 13 年 9 月 26 日（水） 於：福井大学工学部

プログラム

(1) 北陸信越工学教育協会の最近の動き

北陸信越工学教育協会会長

福井大学工学部 工学部長 山本富士夫

(2) 技術者教育認定制度と最近の工学教育を取り巻く動向について

（技術士制度の改善を含む）

文部科学省科学技術・学術政策局基盤整備課

企画官 長瀬 洋英

(3) 技術者教育認定制度と最近の産業界を取り巻く動向について

経済産業省産業技術環境局大学連携推進課

課長補佐 岡田 武

(4) 技術者教育認定制度について

JABEE 委員会委員 谷垣 昌敬

(5) 試行結果について（審査側、受信側からの報告）

審査側 化学工学会 ケミカルエンジニアリング人材教育センター

副センター長 谷垣 昌敬

受信側 東京農工大学工学部

教授 國眼 孝雄

(6-1) 技術者教育認定制度に対する産業界の意識調査結果

(6-2) 最近の動き

(社)日本工学教育協会

専務理事 椿原 治

2002 (H.14)年度

会 長	長谷川富市	新潟大学
新潟県支部長	飯田誠之	長岡技術科学大学
富山県支部長	龍山智榮	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	山本富士夫	福井大学
長野県支部長	野村彰夫	信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (133) 福井工業高等専門学校 (21) 企業 (24)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (77) 信州大学繊維学部 (23) 長野工業高等専門学校 (9) 企業 (46)・一般 (8)
新潟県	新潟大学工学部 (113) 長岡技術科学大学 (32) 新潟工科大学 (33) 新潟工業短期大学 (2) 長岡工業高等専門学校 (8) 企業 (25)・一般 (1)
富山県	富山大学工学部 (108) 富山県立大学 (8) 富山工業高等専門学校 (27) 企業 (26)・一般 (1)
石川県	金沢大学工学部 (183) 金沢工業大学 (223) 石川工業高等専門学校 (10) 金沢工業高等専門学校 (17) 企業 (38)・一般 (1)

学校会員 15 校

❖第 50 回年次大会

開催日 平成 14 年 7 月 19 日 (金) ~21 日 (日) 於 京王プラザホテル・工学院大学
講演件数 181 件

内 訳 ①教育システム 58 件、②創生教育 27 件、③企業内技術者教育 18 件、
④コンピュータ援用教育 16 件、⑤教育評価 13 件、⑥工学教育の個性化・
活性化 12 件となり、工学教育への関心の高さが窺われる。

❖(社)日工教第 50 回年次大会)

第 6 回工学教育賞 文部科学大臣賞

金沢工業大学 教授 服部 陽一

金沢工業大学 教授 久保 猛志

☆学生が常に集うキャンパス 夢考房キャンパスを実現するための工学設計教育と
夢考房活動－「行動する技術者」の育成を目指して－

❖北陸信越工学教育協会第 117 回理事会議事概要

日時：平成 14 年 10 月 24 日（木）

場所：東京ガーデンパレス

議長 長谷川富市協会会長（新潟県支部長、新潟大学工学部長）

報告事項

○北陸信越工学教育協会関係

- ・第 52 回（平成 16 年度）年次大会の担当支部について

議長から、第 116 回理事会議事概要について確認いただいたこと、並びに日工教の第 52 回（平成 16 年度）年次大会の担当県支部については、過去の経緯を調査し、調整の結果、石川県支部（金沢工業大学）が担当することになったこと、及び石川県支部から「日工教の第 52 回年次大会に限っては、種々の事情を勘案しこの年度（年次大会開催の平成 16 年度）に北工教の会長を引き受けたい。」旨の要望があり、長野県支部長（信州大学工学部長）と折衝した結果、長野県支部と石川県支部の順番を交代し、平成 15 年度の北工教会長を長野県支部が担当することとなった旨の報告があった。

❖北陸信越地区工教の動き

北陸信越地区の JABEE 認定取得年度と機関（大学と学科等）

2002（H14）年度

- ①金沢工業大学工学部 機械系 機械工学科 2002
- ②金沢大学理工学域 環境デザイン学類 2002
- ③信州大学繊維学部 化学・材料系 材料化学工学課程 2002

2003（H.15）年度

会 長	野村彰夫	新潟大学（工）
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	中川英之	福井大学
長野県支部長	野村彰夫	信州大学（工）
新潟県支部長	仙石正和	新潟大学
富山県支部長	龍山智榮	富山大学

支部名	機 関 名（会員数）
新潟県	新潟大学工学部（110） 長岡技術科学大学（31） 新潟工科大学（32）
	新潟工業短期大学（1） 長岡工業高等専門学校（7）
	企業（23）・一般（1）
富山県	富山大学工学部（108） 富山県立大学（6） 富山工業高等専門学校（27）
	企業（24）・一般（1）

石川県	金沢大学工学部（179） 金沢工業大学（227） 石川工業高等専門学校（12） 金沢工業高等専門学校（10） 企業（34）・一般（1）
福井県	福井大学工学部（129） 福井工業高等専門学校（21） 企業（23）・一般（1）
長野県	信州大学工学部（76） 信州大学繊維学部（22） 長野工業高等専門学校（9） 企業（43）・一般（6）

学校会員 16校 金沢工業高等専門学校

❖平成15年9月3日（木）(社)日工教第51回年次大会)

第12回 日本工学教育協会賞 論文・論説賞

金沢大学 教授 山崎 光悦

金沢大学 教授 山田 実

金沢大学 学部長 畑 朋延

☆卒業生による教育目標のアウトカムズ評価法（工学教育 50 巻 2 号、39-47）

第12回 日本工学教育協会賞 著作賞

金沢工業大学 教授 飯野 弘之

☆技術者になるということ～これからの社会と技術者～

❖北陸信越地区における JABEE 認定取得年度と機関（大学と学科等）2003（H15）年度

①金沢工業大学環境・建築学部 環境土木工学科 2003

環境・建築学部 建築系（建築デザイン学科、建築学科）2003

②富山大学工学部 材料機能工学科 2003

③長岡技術科学大学工学部 建設工学課程 2003

④新潟大学工学部 機械システム工学科 2003

工学部 情報工学科 2003

工学部 電気電子工学科 2003

2004 (H.16)年度

会 長	石川憲一	金沢工業大学
長野県支部長	野村彰夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)
富山県支部長	龍山智榮	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	中川英之	福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学工学部 (182) 金沢工業大学 (230) 石川工業高等専門学校 (13) 金沢工業高等専門学校 (10) 企業 (31)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (133) 福井工業高等専門学校 (21) 企業 (22)・一般 (2)
長野県	信州大学工学部 (75) 信州大学繊維学部 (22) 長野工業高等専門学校 (10) 企業 (41)・一般 (6)
新潟県	新潟大学工学部 (104) 長岡技術科学大学 (29) 新潟工科大学 (30) 新潟工業短期大学 (0) 長岡工業高等専門学校 (7) 企業 (22)・一般 (1)
富山県	富山大学工学部 (109) 富山県立大学 (7) 富山工業高等専門学校 (27) 富山商船高等専門学校 企業 (20)・一般 (1)

学校会員 17校 富山商船高等専門学校

❖北陸信越地区における JABEE 認定取得年度と機関 (大学と学科等) 2004 (H16)

- ①富山高等専門学校専攻科 エコデザイン工学専攻 エコデザイン工学科 2004
- ②新潟大学農学部 生産環境科学科 森林環境学コース 2004
農学部 生産環境科学科 農業工学コース 2004
- ③福井工業高等専門学校専攻科 環境生産システム工学コース 2004

❖平成16年7月30日 (金) (社)日工教第52回年次大会)

第8回 工学教育賞 文部科学大臣賞

長岡技術科学大学 丸山 久一
長岡技術科学大学 矢鍋 重夫
長岡技術科学大学 中川 匡弘
長岡技術科学大学 小松 高行



長岡技術科学大学 渡邊 和忠
☆実務訓練（長期実践型実習）と教育効果

❖日工教年次大会

第52回日本工学教育協会年次大会の開催

テーマ：今、技術者教育は、新たなる段階へ

開催日：平成16年7月30日（金）～8月1日（日） 於 金沢工業大学

<p>平成16年度 工学・工業教育研究講演会 講演論文集</p> <hr/> <p>今、技術者教育は、新たなる段階へ</p> <hr/>  <p>開催期日：平成16年7月30日（金） 31日（土） 8月1日（日）</p> <p>開催場所：金沢工業大学 8号館</p> <p> 主催 （社）日本工学教育協会</p>	<p>（社）日本工学教育協会第52回年次大会 展示ブース公開企業名</p> <p>エーアンドエー㈱ カシオ計算機㈱ ㈱NTTドコモ北陸 ㈱キャドセンター ㈱ジャストシステム ㈱電陽社 ㈱フォトロン コンセプト・テクノロジー㈱ サイバネットシステム㈱ 住商エレクトロニクス㈱ 西日本電信電話㈱ 富士通㈱ ㈱ 内田洋行 ㈱計算力学研究センター</p> <p>（社）日本工学教育協会第52回年次大会 カタログ展示企業名</p> <p>国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 共立出版㈱ 日本ナショナルインスツルメンツ㈱ 三菱電機㈱北陸支社 森北出版㈱</p>
---	--

社団法人日本工学教育協会
第52回年次大会プログラム

— 今、技術者教育は、新たなる段階へ —

日 時：平成16年7月30日(金)～8月1日(日)
会 場：金沢工業大学(〒921-0801 石川県石川郡野々
市町扇が丘7-1 Tel:076-248-1100)

担 当：北陸信越工学教育協会
第1日目(7月30日(金))

【工学・工業教育研究講演会I】

会場：金沢工業大学8号館 各教室(9室)

講演会：(9:00～12:00)(各教室)

昼食・休憩(12:00～13:00)

年次大会開会式(13:00～13:50)

会場：金沢工業大学・酒井メモリアルホール

開会司会 年次大会実行委員長 棚谷 吉郎

開会の辞 北陸信越工学教育協会会長 石川 憲一

会長挨拶 (株)日本工学教育協会会長 佐々木 元

祝 辞 文部科学大臣 河村 建夫

石川県知事 谷本 正憲

金沢市長 山出 保

祝電披露 (株)日本工学教育協会専務理事 椿原 治

表彰式(13:50～14:20)

会場：金沢工業大学・酒井メモリアルホール

工学教育賞 選考委員長経過報告 田中 郁三

工学教育協会賞 同上 大垣眞一郎

表彰及び受賞者代表挨拶

休憩(14:20～14:30)

特別講演(14:30～15:30)

会場：金沢工業大学・酒井メモリアルホール

「工学教育に望む」

講師：藤田幸男(芝浦工業大学理事長)

【工学・工業教育研究講演会II】

会場：金沢工業大学8号館 各教室(9室)

講演会：(15:40～17:50)(各教室)

日工教役員・地区教会長・実行委員懇談会(18:00～20:00)

会場：金沢工業大学内 セレス

第2日目(7月31日(土))

受付(8:30～17:00)

【工学・工業教育研究講演会III・IV】

会場：金沢工業大学8号館 各教室(9室)

講演会：(8:40～12:00 13:00～17:20)(各教室)

昼食・休憩(12:00～13:00)

懇親会(18:30～20:30)

会場：ホテル日航金沢(JR金沢駅前)

開会挨拶 北陸信越工学教育協会会長 石川 憲一

挨拶 (株)日本工学教育協会会長 佐々木 元

乾 杯 金沢工業大学副学長 堀 幸夫

閉会挨拶 北陸信越工学教育協会副会長 龍山 智榮

第3日目(8月1日(日))

受付(8:30～17:00)

【工学・工業教育研究講演会V】

会場：金沢工業大学8号館 各教室(9室)

講演会：(8:40～12:00)(各教室)

昼食・休憩(12:00～13:00)

調査研究報告(13:00～16:00)

会場：金沢工業大学・酒井メモリアルホール

司会：石川 憲一(事業企画委員会委員長(金沢工科大学長))

(1) 工学分野審査委員会報告(13:00～13:30)

武田 邦彦委員長(名古屋大学教授)

(2) コミュニケーション教育調査研究委員会報告

(13:30～14:00)

大輪 武司委員長(金沢工大客員教授)

(3) 技術者倫理調査研究委員会報告(14:00～14:30)

札野 順副委員長(金沢工大教授)

(4) 事業企画委員会報告(14:30～16:00)

・会員増強WG 主査大輪 武司(金沢工大客員教授)

・国際競争力ある人材育成WG 主査太田口 和久(東工

大教授)

・教員の教育貢献に関するメジャーの確立WG

主査英 崇夫(徳島大学教授)

閉会式(16:00～16:15)

会場：金沢工業大学・多目的ホール

来年度年次大会開催地の決定(中国・四国工学教育協会)

開催地区協会会長受託挨拶

閉会の辞 北陸信越工学教育協会会長 石川 憲一

*参加費用

◎事前払込

大会参加費・資料代 5,000円

懇親会費 5,000円

○当日

大会参加費・資料代 6,000円

懇親会費 7,000円

※ 資料代：研究講演論文集 以上

第 52 回 (社) 日本工学教育協会年次大会・実行委員会

(1) 顧問

顧問	山田 圭蔵	(北陸経済連合会会長)	
顧問	岡島 厚	(金沢大学工学部長)	[会員：41名]
同上	龍山 智榮	(富山大学工学部長)	[会員：19名]
同上	中川 英之	(福井大学工学部長)	[会員：56名]
同上	仙石 正和	(新潟大学工学部長)	[会員：21名]
同上	野村 彰夫	(信州大学工学部長)	[会員：64名]
同上	松村 文夫	(石川高専校長)	[会員：6名]
同上	堀岡 雅清	(金沢高専校長)	[会員：10名]

(2) 大会会長 石川 憲一 (金沢工業大学学長) [会員：222名]

同副会長 堀 幸夫 (金沢工業大学副学長)

(3) 実行委員会

実行委員長 棚谷 吉郎 (金沢工業大学教務部長)

委員 山崎 光悦 (金沢大学工学部・人間機械)

山田 実 (同上・電気電子)

近田 康夫 (同上・土木建設)

高橋 光信 (同上・物質化学)

藤解 和也 (同上・情報システム)

中嶋 芳雄 (富山大学工学部・知能情報)

見浪 護 (福井大学工学部・知能システム)

丸山 武男 (新潟大学工学部・電気電子)

富所 五郎 (信州大学工学部・社会開発)

深見 哲男 (石川高専・電気)

堀 隆一 (金沢高専・機械)

大深 伸尚 (アルスコンサルタント)

浅香 憲一 (別川製作所)

佐藤 恵一 (金沢工業大学・機械系)

新坂 恭士 (同上・材料系)

金丸 保典 (同上・電気系)

水野 舜 (同上・情報系)

河原 哲夫 (同上・人間系)

本田 秀行 (同上・環境系)

森 俊偉 (同上・建築系)

藤島 秀隆 (同 上・修学基礎)
杉本 浩 (同 上・工学基礎)
松石 正克 (同 上・工学実技)
福田 謙之 (同 上・事務局長)
岩下 信正 (同 上・研究支援機構局長)
東 春雄 (同 上・施設部長)
椿原 治 (日工教・専務理事)
柴田 中夫 (日工教・事務局長)
日工教・事務局全員

(4) プログラム編成委員会 (含：オーガナイザー・セッションの検討)

編成委員長 棚谷 吉郎 (金沢工業大学)
委員 上田 隆司 (金沢大学)
近田 康夫 (同 上)
藤解 和也 (同 上)
深見 哲男 (石川高専)
堀 隆一 (金沢高専)
金丸 保典 (金沢工業大学)
松石 正克 (同 上)

(5) 特別講演・シンポジウム委員会

講演会委員長 山崎 光悦 (金沢大学)
委員 高橋 光信 (同 上)
新坂 恭士 (金沢工業大学)
本田 秀行 (同 上)
藤島 秀隆 (同 上)
杉本 浩 (同 上)

(6) 広告獲得委員会

広告委員長 山田 実 (金沢大学)
委員 中嶋 芳雄 (富山大学)
見浪 護 (福井大学)
丸山 武男 (新潟大学)
富所 五郎 (信州大学)
大深 伸尚 (アルスコンサルタント)
浅香 憲一 (別川製作所)

佐藤 恵一 (金沢工業大学)
水野 舜 (同 上)
森 俊偉 (同 上)

(7) 学内運営委員会 (含: 懇親会)

委員長 山部 昌 (運営全般)

副委員長 諏訪部 仁 (運営補佐 講演論文等の印刷

アルバイト管理 カタログ展示 当日運営)

委員 中島 円 (機械系 当日受付 会計 当日運営)

大澤 敏 (材料系 講演論文等の印刷 当日運営)

野口 啓介 (電気系 当日受付 会計 当日運営)

阿部 倫之 (情報系 ホームページの作成 当日運営)

阿部 武彦 (人間系 懇親会企画 当日運営)

宮里 心一 (環境系 ホームページの作成 当日運営)

下川 雄一 (建築系 カタログ展示 当日運営)

藤本 元啓 (修学基礎 当日受付 会計 当日運営)

小山 陽一 (工学基礎 懇親会企画 当日運営)

西 誠 (工学実技 夢考房ツアー 当日運営)

(注: 各講演室に1名の責任教員を配置)

事務局 総括 福田 謙之

藤木 信彰 (学内業務ほか)

畝田 道雄 (同 上)

斉藤 康弘 (同 上)

野川 孝春 (事務全般)

倉田 一男 (同 上)

四宮 啓雄 (同 上)

東 春雄 (施設全般)

鈴木 博和 (施設手配)

以上

(社)日本工学教育協会第52回年次大会を終えて

実行委員長 棚谷 吉郎
(金沢工業大学 教授)

1. はじめに

平成16年7月30日(金)～8月1日(日)の期間、金沢工業大学8号館を主会場として、(社)日本工学教育協会(以下、日工教、JSEE)の第52回年次大会が開催され、「今、技術者教育は、新たなる段階へ」のメインテーマのもと、工学・工業教育に携わる会員間の有意義な情報交換が行われた。近年、各方面から高等教育に対する注目が一段と高まりつつあり、工学・工業教育もその例外ではない。そのためもあってか、実質講演件数は361件となった。時はまさに盛夏、しかも近年にない猛暑の中での開催であったにもかかわらず、登録参加者数は第50回の記念大会における430名を超える586名を数え、講演会史上初めて行った教育機器等の展示ブースにご協力いただいた企業の方々を含めると優に600名を超える多数の方々が集集された。この講演件数、参加者数は、ともに大会史上最多となった。ここに、盛大かつ成功裡に終えることができた年次大会の概要について報告する。

2. 開催の準備と方針

北陸信越工学教育協会が担当する年次大会は、近年では平成7年7月25日～27日に富山県民会館で行われた第43回大会以来であり、9年ぶりとなる。北陸信越工学教育協会におけるこれまでの年次大会開催の経緯から、第52回大会の開催については協会内で事前調整が行われ、金沢工業大学で開催することで了承されていた。

このような事情があり、正式決定の前ではあったが、遺漏なきを期して平成15年6月初旬には開催準備がスタートした。最初に、金沢工業大学石川憲一学長を大

会会長として、実行委員、運営委員の依頼等を行った。組織としては、顧問、大会会長、同副会長、その下に実行委員会が組織された。実行委員は、北陸信越工学教育協会の各県支部から1名、また石川県支部からは金沢大学、石川工業高等専門学校、金沢工業高等専門学校の方々に加えて県内企業の方々にもお願いし、本学の会員が加わった。プログラム委員会をはじめとする三つの委員会が設けられ、委員長、委員は石川県支部の実行委員をお願いした。それぞれの委員会の担当内容は、親委員会である日工教の工学・工業教育研究講演会委員会に提案する内容(後述のオーガナイズドセッション、以後OS)の作成、協賛企業等の募集、および特別講演・シンポジウムであった。委員会における検討の結果、今大会ではシンポジウムは行わず、特別講演のみとすることになった。また、以上の委員会とは別に、学内運営委員会を組織して、懇親会、展示ブースなど種々の準備に当たった。四つの委員会間の横のつながりを密にするために、大会会長、各委員会委員長などによる幹事会を設け、連絡を取り合って準備に当たった。

本大会の基本方針を策定する段階では、いくつかの新しい試みを企画していた。一つは、講演会場数ではできる限り少なくして幅広く聴講可能とすることである。近年、講演数が増加傾向であるにもかかわらず、その増加が講演会場数の増加により吸収される傾向があり、結果として会員が聴講できる講演数は増えていないという皮肉な状況を改善したいと考えたからである。一方、「兆しが見え始めた分野や、今後さらに押し進めていくべき分野」からテーマを選んでOSを開催することにより、時宜を得た重要なテーマについて、

より活発な討論、情報交換の場を提供したいという考えもあった。また、教育に関わる機器等の進歩、発展には目覚ましいものがあるが、教育の担当者がそれらに触れる機会は意外に少ないというのが現状である。全国から今大会に参加する会員にこのような機会を提供する場として展示ブースを設けることも意味があると考えていた。

このような考え方で準備を始めたが、会員各位の強力なサポートにより、講演申込件数は、大会会長の公言目標250件をはるかに超える上記の数になった。この結果、上記企画の第一は脆くも崩れ、講演会場数は減らすどころか逆に増やさざるを得なくなり、ついには従来使っていなかった第一日目の午前中や、特別講演終了後にも講演会を開催することになった。

この講演申込数から推して参加者の増加が見込まれ、開催当日の受付の混雑が予想された。その緩和を目的として、学内運営委員会から新たな参加申込方法が提案され、採用することにした。その結果、事前参加申込はweb上で行っていただき、実行委員会から申込番号を記載して電子メールを返信し、それをプリントアウトして持参いただくという受付方式になった。

OSのオーガナイザーの依頼は、研究講演会委員会の了解のもとに、実行委員が中心となって行った。しかし、この依頼は当初の予想を超える困難なものであった。方針の一つとした「兆しが見え始めた分野」とは、言い換えるとその分野の専門家が極めて少ないことを意味している。実行委員をはじめ他の会員からの情報、ここ数年の工学・工業教育研究講演会講演論文集等や、webを利用した種々の検索など、考えつくいろいろな方法を試みた。この困難さは、時代を先取りした内容を含めたいとの気持ちから、テーマを最優先としたことによる。時間的に余裕がある準備初期の段階でオーガナイザーを決めてから進めるなど何らかの工夫が必要であるとあらためて強く感じられた。しかし、その甲斐はあったようで、後述のようにOSの評判は全体的に予想以上に聞いている。

協賛企業、展示ブース参加企業の募集も容易ではなかった。前者については、委員長はもちろん、大会会長も加わって関係者一丸となって臨んだ結果、目標を上回る協賛が得られた。一方、展示ブースについては

学内運営委員会委員長を先頭に、情報収集力と行動力で参加をお願いし、関係企業のご協力を得て準備が進んだ。

3. 開会式等

上述の理由から、第1日目の午前中は講演会が行われ、午後一番に開会式という変則的な運営になった。開会式は、7月30日午後1時から金沢工業大学酒井メモリアルホールにおいて行われた。実行委員長による開式宣言の後、最初に北陸信越工学教育協会会長の石川憲一、金沢工業大学学長による挨拶、日本工学教育協会会長の佐々木元日本電気代表取締役会長による挨拶と続き、ご来賓の川村建夫文部科学大臣代理（泉伸一郎大臣官房審議官）、谷本正憲石川県知事、山出保金沢市長のご祝辞をいただいた。ユーモア溢れるご祝辞に会場からは笑いも聞こえる大変和やかな雰囲気でもって開会式を終了した。

引き続き表彰式が行われた。慣例に従って、はじめに各賞の選考委員長から選考経過の報告があり、第8回工学教育賞については田中郁三武蔵学園理事長より、第13回日本工学教育協会賞については大垣眞一郎東京大学大学院工学系研究科長より報告が行われた。今年度の工学教育賞の対象は3件であり、その中から長岡技術科学大学の丸山久一、矢鍋重夫、中川匡弘、小松高行、渡邊和忠各氏による「実務訓練（長期実践型実習）と教育効果」に対して文部科学大臣賞が授与された。また、日本工学教育協会賞については業績賞が4件、論文・論説賞が3件、著作賞が1件それぞれ授与された。

4. 工学・工業教育研究講演会

研究講演会の会場数を減らすという初期の目標は達成できず、初日および二日目は9室、三日目は8室になった。各会場では熱心な発表、討論が繰り広げられた。OSについては、テーマ等による参加者数のばらつきはあったものの、集中的に討論できることから参加者には大変好評で、各会場では活発な討論が行われた。予想通り、オーガナイザーのお力により発表件数が増加し、それがまた参加者数の増加の原動力になる



という正の循環が生まれることが期待できると感じられた。一方で、初めてのOSであり、委員会側が不慣れなこともあって、オーガナイザーの役割の明確化など今後課題を残すことになった。

発表に使用できる視聴覚機器はパワーポイントとOHPとした。データのメディアはCDのみとし、休憩時間に会場のパソコン内にコピーしていただくことにした。近年、USBメモリなど便利なメディアが出現しているが、これらを快適に利用していただける環境を各会場に準備できるか否か、準備の初期段階でははっきりせず、採用に踏み切れなかった。また、他の学会で、旧規格のパソコンの動作が遅く、トラブルの原因になったことがあるとお話を聞いたこともその一因である。視聴覚機器に起因するトラブルは皆無とはいえなかったものの、講演者の皆様のご協力により、全体としては大変スムーズに運営することができた。

5. 調査研究報告

最終日の8月1日午後1時から、酒井メモリアルホールにおいて、日工教事業企画委員会委員長である石川憲一金沢工業大学学長の司会で調査研究報告が行われ、JABEEの工学分野審査委員会委員長の武田邦彦名古屋大学大学院教授、コミュニケーション教育調査研究委員会委員長の大輪武司金沢工業大学客員教授、技術者倫理調査研究委員会副委員長の札野順金沢工業大学教授が各々報告された。

小休憩の後、事業企画委員会報告が行われた。会員増強WG主査の大輪武司金沢工業大学客員教授、国際競争力ある人材育成WG主査の大田口和久東京工業大学大学院教授、教員の教育貢献に関するメジャーの確立WG主査の英崇夫徳島大学教授により各報告が行わ

れ、活発な意見交換が行われた。

6. 特別講演、役員等懇談会と懇親会

7月30日の開会式、表彰式の後、多目的ホールにおいて芝浦工業大学理事長藤田幸男先生を講師に招いて、「工学教育に望む」と題する特別講演が行われた。参加者は200名を超えるという盛況であり、一時座席が足りなくなるのではと心配する一幕もあった。

同日午後6時から、日工教役員、地区教会長、実行委員等の懇談会が金沢工業大学内のカフェテリア「セレス」において催され、和やかに歓談された。

恒例の懇親会は、7月31日の午後6時30分から、ホテル日航金沢において開催され、210名を超える参加者があった。懇親会では、次回大会の開催地区の挨拶が慣例になっており、広島大学からご挨拶があった。その後も終始和やかな雰囲気の中で懇親が深められた。

7. 展示ブース

教育機器等とカタログの展示ブースは、エスカレーターで下りてくると目に留まる場所に設けた。企業の中には、十分な手ごたえを感じられた所もあったようで、もう少し準備をしてよかったですとの声が聞かれたとのことであった。

8. おわりに

北陸信越工学教育協会の皆様には、実行委員として、大会運営に加えて協賛企業の募集等に多大のご助力を賜りました。紙上をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます。



特別講演

藤田 幸男

1968 年米国イリノイ大学大学院修了〔Ph.D.〕

1972 年早稲田大学教授

現 在早稲田大学名誉教授，学校法人芝浦

工業大学理事長，日本私立大学連盟

監事会議 運営委員長，大学基準協

会 大学財政評価分科会委員



講演会

【参考資料】

①年次大会講演発表件数(機関別) (1991;H3~2003;H15)

機関名	1991~2000	2001	2002	2003	計
金沢工業大学	55	14	18	16	103
北海道大学		0	4	21	25
北海道工業大学		0	1	16	17
金沢大学		4	5	6	15
八戸工業大学		7	3	5	15
(株)日立製作所	28	4	6	2	40
東京大学		4	5	3	12
一関高専		5	5	2	12
三菱電機(株)	34	1	6	4	45
室蘭工業大学		0	1	10	11
東京高専	16	1	4	5	26
広島工業大学		1	4	5	10
熊本大学		1	2	7	10
鈴鹿高専		0	6	3	9
東北文化学園大学		6	3	0	9
日本大学	20	1	5	2	28
日本工業大学		1	3	4	8
信州大学		1	6	1	8
福岡工業大学		2	2	4	8
大阪大学	16	2	3	2	23
東北大学		7	0	0	7
東京工業大学		0	6	1	7
千葉大学		0	2	5	7
武蔵工業大学	15	2	2	2	21
徳島大学		0	2	4	6
米子高専		1	1	4	6
新潟大学		2	1	3	6
東京電機大学		2	1	3	6
横浜国立大学		1	0	4	5
福島高専		3	2	0	5
鳥取環境大学		0	5	0	5
広島大学	17	1	1	2	21
鹿児島高専		0	0	4	4
北見工業大学		0	0	4	4
釧路高専		0	0	4	4
神奈川大学		0	1	3	4
宮城高専		2	1	1	4
福井大学		0	3	1	4
東北工業大学	14	1	1	1	17
八戸高専		3	0	0	3
千歳科学技術大学		0	0	3	3
秋田高専		2	0	0	2
仙台電波高専		2	0	0	2
秋田県立大学		2	0	0	2
長野高専	15	0	1	0	16

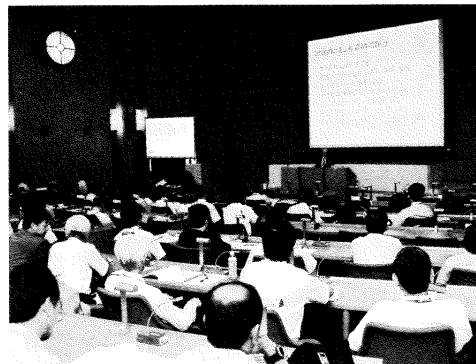


展示ブース

未使用ページ



展示ブース



調査研究報告



交流会

2005 (H. 17)年度

会 長	米田政明	富山大学
富山県支部長	中島恭一	富山県立大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	中川英之	福井大学
長野県支部長	野村彰夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (70) 信州大学繊維学部 (20) 長野工業高等専門学校 (13) 企業 (39)・一般 (5)
新潟県	新潟大学工学部 (103) 長岡技術科学大学 (26) 新潟工科大学 (28) 新潟工業短期大学 (0) 長岡工業高等専門学校 (7) 企業 (22)・一般 (1)
富山県	富山大学工学部 (107) 富山県立大学 (8) 富山工業高等専門学校 (24) 富山商船高等専門学校 (3) 企業 (20)・一般 (1)
石川県	金沢大学工学部 (178) 金沢工業大学 (227) 石川工業高等専門学校 (12) 金沢工業高等専門学校 (9) 企業 (29)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (131) 福井工業高等専門学校 (22) 企業 (21)・一般 (2)

学校会員 17校

❖平成 17 年 4 月 1 日 (金)

(社)日本工学教育協会会員会費の改正

大学・高等専門学校教員及び職員の個人会費 4,000 円 ⇔ 3,000 円

大学・高等専門学校の団体会員会費 70,000 円 ⇔ 50,000 円

事業会社及び官公庁の団体会員会費 20,000 円 (変更なし)

【参考資料】

平成17年度支部別交付金等算出内訳

区分 支部	団体会費 @ 2,000 ※日工教会費@ 20,000		個人会費 @ 700 ※日工教会費@ 4,000		③ 学校会費 (@50,000) ※ (@70,000)	①+②+③ 計 (A) 円	③+ 120,000 支 部 負 担 金 (B) 円	支 部 交 付 金 (A-B) 円	講演会等 経費配分 17.5.1現在
	会員 / 口数 日工教会員数	① 金 額 円	会員数 / 口数 日工教会員数	② 金 額 円					
長野	39 / 120	240,000	115	80500	2 100,000	420,500	220,000	200,500	0.192 96,000
	※	※	※ 91	※ 364,000	2 ※ 140,000	※ 504,000	※ 504,000		
		240,000		444,500	240,000	924,500	724,000		
富山	20 / 60	120,000	143	100,100	4 200,000	420,100	320,000	100,100	0.112 56,000
	※	※ 0	※ 52	※ 208,000	4 ※ 280,000	※ 488,000	※ 488,000		
		120,000		308,100	480,000	908,100	808,000		
福井	22 / 109	218,000	158	110,600	2 100,000	428,600	220,000	208,600	0.198 99,000
	※ 4	※ 80,000	※ 67	※ 268,000	2 ※ 140,000	※ 488,000	※ 488,000		
		298,000		378,600	240,000	916,600	708,000		
新潟	22 / 111	222,000	165	115,500	5 250,000	587,500	370,000	217,500	0.208 104,000
	※	※	※ 60	※ 240,000	5 ※ 350,000	※ 590,000	※ 590,000		
		222,000		355,500	600,000	1,177,500	960,000		
石川	29 / 75	150,000	422	295,400	4 200,000	645,400	320,000	325,400	0.290 145,000
	※	※	※ 283	※ 1,132,000	4 ※ 280,000	※ 1,412,000	※ 1,412,000		
		150,000		1,427,400	480,000	2,057,400	1,732,000		
合計	132 / 475	950,000	1,003	702,100	17 850,000	2,502,100	1,450,000	1,052,100	1.000 500,000
	※ 4	※ 80,000	※ 553	※ 2,212,000	17 ※ 1,190,000	※ 3,482,000	※ 3,482,000		
		1,030,000		2,914,100	2,040,000	5,984,100	4,932,000		

注)

1. 上段は北工教会費を示す。
2. 中段の※は、日工教会費を示す。
3. 下段は、上段と中段の合計である。
4. 支部負担金欄 (B) の上段は、学校会費欄に一律負担金 120,000 円を加えた合計額であり、中断は (A) と同額とする。
5. 本表は (H17.5.1) 現在の会員数で算定したものである。

参考資料 支部負担金経過

区分	富山県	福井県	新潟県	石川県	長野県	計 a)	日工教 分担金 b)	北工教 算 a)-b)	備 考
5	170,000	170,000	220,000	220,000	170,000	950,000	日工教会費	950,000	日工教会費
	170,000	335,000	85,000	367,500	182,500	1,140,000			個人会員 288人×2,500円
	340,000	505,000	285,000	587,500	352,500	2,090,000	1,140,000	950,000	学校会員 7校×30,000円 団体会員 14社×15,000円
6	170,000	170,000	220,000	220,000	220,000	1,000,000	日工教会費	1,000,000	日工教会費
	172,500	315,000	85,000	367,500	237,500	1,177,500			個人会員 297人×2,500円
	342,500	485,000	285,000	587,500	457,500	2,177,500	1,177,500	1,000,000	学校会員 8校×30,000円 団体会員 13社×15,000円
7	170,000	220,000	220,000	270,000	220,000	1,100,000	日工教会費	1,100,000	日工教会費
	190,000	352,500	100,000	395,000	237,500	1,275,000			個人会員 312人×2,500円
	360,000	572,500	320,000	665,000	457,500	2,375,000	1,275,000	1,100,000	学校会員 10校×30,000円 団体会員 13社×15,000円
8	270,000	220,000	270,000	270,000	220,000	1,250,000	日工教会費	1,250,000	日工教会費
	288,000	457,000	237,000	466,000	313,000	1,761,000			個人会員 317人×3,000円
	558,000	677,000	507,000	736,000	533,000	3,011,000	1,761,000	1,250,000	学校会員 11校×50,000円 団体会員 13社×20,000円
9	270,000	220,000	320,000	270,000	220,000	1,300,000	日工教会費	1,300,000	日工教会費
	279,000	439,000	332,000	508,000	325,000	1,883,000			個人会員 341人×3,000円
	549,000	659,000	652,000	778,000	545,000	3,183,000	1,883,000	1,300,000	学校会員 12校×50,000円 団体会員 13社×20,000円
10	270,000	220,000	320,000	270,000	220,000	1,300,000	日工教会費	1,300,000	日工教会費
	265,000	436,000	362,000	922,000	325,000	2,310,000			個人会員 490人×3,000円
	535,000	656,000	682,000	1,192,000	545,000	3,610,000	2,310,000	1,300,000	学校会員 12校×50,000円 団体会員 12社×20,000円
11	270,000	220,000	320,000	270,000	220,000	1,300,000	日工教会費	1,300,000	日工教会費
	259,000	390,000	371,000	820,000	325,000	2,165,000			個人会員 455人×3,000円
	529,000	610,000	691,000	1,090,000	545,000	3,465,000	2,165,000	1,300,000	学校会員 12校×50,000円 団体会員 10社×20,000円
12	270,000	220,000	320,000	270,000	220,000	1,300,000	日工教会費	1,300,000	日工教会費
	253,000	405,000	374,000	886,000	313,000	2,231,000			個人会員 477人×3,000円
	523,000	625,000	694,000	1,156,000	533,000	3,531,000	2,231,000	1,300,000	学校会員 14校×50,000円 団体会員 10社×20,000円
13	270,000	220,000	370,000	270,000	220,000	1,350,000	日工教会費	1,350,000	日工教会費
	247,000	376,000	421,000	987,000	355,000	2,386,000			個人会員 502人×3,000円
	517,000	596,000	791,000	1,257,000	575,000	3,736,000	2,386,000	1,350,000	学校会員 14校×50,000円 団体会員 9社×20,000円
14	270,000	220,000	370,000	270,000	220,000	1,350,000	日工教会費	1,350,000	日工教会費
	280,000	368,000	418,000	1,011,000	367,000	2,444,000			個人会員 518人×3,000円
	550,000	588,000	788,000	1,281,000	587,000	3,794,000	2,444,000	1,350,000	学校会員 15校×50,000円 団体会員 7社×20,000円
15	270,000	220,000	370,000	320,000	220,000	1,400,000	日工教会費	1,400,000	日工教会費
	281,000	378,000	445,000	1,058,000	370,000	2,532,000			個人会員 544人×3,000円
	551,000	598,000	815,000	1,378,000	590,000	3,932,000	2,532,000	1,400,000	学校会員 16校×50,000円 団体会員 5社×20,000円
16	320,000	220,000	370,000	320,000	220,000	1,450,000	日工教会費	1,450,000	日工教会費
	314,000	390,000	439,000	1,079,000	373,000	2,595,000			個人会員 555人×3,000円
	634,000	610,000	809,000	1,399,000	593,000	4,045,000	2,595,000	1,450,000	学校会員 17校×50,000円 団体会員 4社×20,000円
17	320,000	220,000	370,000	320,000	220,000	1,450,000	日工教会費	1,450,000	日工教会費
	488,000	488,000	590,000	1,412,000	504,000	3,482,000			個人会員 553人×4,000円
	808,000	708,000	960,000	1,732,000	724,000	4,932,000	3,482,000	1,450,000	学校会員 17校×70,000円 団体会員 4社×20,000円

<各支部負担金計算式>

- 5～7年 北工教負担金 120,000円 + 50,000円×学校会員数(上段)
日工教会費 2,500円×個人会員数+30,000円×学校会員数 + 15,000円×団体会員数(中段)
合計 上段と中段の計 (下段)
- 8年度～ 北工教負担金 120,000円 + 50,000円×学校会員数(上段)
日工教会費 3,000円×個人会員数+50,000円×学校会員数 + 20,000円×団体会員数(中段)
合計 上段と中段の計 (下段)
- 17年度～ 北工教負担金 120,000円 + 50,000円×学校会員数(上段)
日工教会費 4,000円×個人会員数+70,000円×学校会員数 + 20,000円×団体会員数(中段)
合計 上段と中段の計 (下段)

◆16年度 H17.9.9 (社)日工教第53回年次大会)

第9回工学教育賞 文部科学大臣賞

信州大学工学部 教授 北澤 君義

☆工学的環境教育の実践

第9回工学教育賞 工学教育賞

長野工業高等専門学校 教授 長坂 明彦

☆3次元 CAD/CAM を利用したレーザ加工の体験実習等の取組と工作実習法の確立

第14回日本工学教育協会賞

業績賞

富山商船高等専門学校 助教授 水本 巖

富山商船高等専門学校 助教授 阿蘇 司

富山商船高等専門学校 教授 宮林 穎夫

☆情報工学における「ものづくり」教育の推進

業績賞

長野工業高等専門学校 教授 戸谷 順信

☆問題発見・解決能力と発想力を育成するための教育システムの提案と実践

著作賞

福井工業高等専門学校 教授 藤原 正敏 ほか2名

☆工学・工業教育研究講演会の活性化に対する多大の貢献

2006 (H.18)年度

会 長	鈴木敏男	福井大学
富山県支部長	森克徳	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	西川嗣雄	福井大学
長野県支部長	野村彰夫	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)

支部名	機 関 名 (会員数)
富山県	富山大学工学部 (99) 富山県立大学 (6) 富山工業高等専門学校 (23) 富山商船高等専門学校 (4) 企業 (19)・一般 (2)
石川県	金沢大学工学部 (172) 金沢工業大学 (276) 石川工業高等専門学校 (11) 金沢工業高等専門学校 (12) 企業 (29)・一般 (2)

福井県	福井大学工学部（116） 福井工業高等専門学校（24） 企業（20）・一般（3）
長野県	信州大学工学部（68） 信州大学繊維学部（18） 長野工業高等専門学校（13） 企業（34）・一般（6）
新潟県	新潟大学工学部（103） 長岡技術科学大学（28） 新潟工科大学（39） 新潟工業短期大学（7） 長岡工業高等専門学校（6） 企業（22）・一般（1）

学校会員 17 校

❖H17 年度 H18.7.28 (公社日工教第 54 回年次大会)

第 15 回日本工学教育協会賞

業績賞

長岡技術科学大学 教授 柳 和久

☆科学技術創造立国を支えるモノづくり人材の育成活動に対する貢献

著作賞

金沢大学 助教授 由比 政年

金沢大学 助教授 斎藤 武久 他 1 名

☆教科書「工学基礎技術としての物理数学」刊行による工学基礎教育への貢献

❖JABEE 関係

JABEE 主催「大学院修士課程に関する地域別シンポジウム」の開催

開催日 平成 18 年 12 月 7 日 (木) 於：パレブラン高志会館 (富山市)

(案内の通知は JABEE から直接各支部の構成員である大学等に送付される)

2007 (H.19)年度

会 長	大川秀雄	新潟大学
福井県支部長	西川嗣雄	福井大学
長野県支部長	山沢清人	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)
富山県支部長	森克徳	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部（113） 福井工業高等専門学校（27） 企業（18）・一般（2）

長野県	信州大学工学部（６６） 信州大学繊維学部（１５） 長野工業高等専門学校（１３） 企業（３４）・一般（６）
新潟県	新潟大学工学部（９５） 長岡技術科学大学（２９） 新潟工科大学（３８） 新潟工業短期大学（６） 長岡工業高等専門学校（６） 企業（２２）・一般（１）
富山県	富山大学工学部（９４） 富山県立大学（６） 富山工業高等専門学校（２３） 富山商船高等専門学校（４） 企業（２０）・一般（４）
石川県	金沢大学工学部（１６８） 金沢工業大学（２６１） 石川工業高等専門学校（１１） 金沢工業高等専門学校（１２） 企業（２９）・一般（２）

学校会員 17 校

❖H18 年度 H19.8.3(社)日工教第 55 回年次大会)

第 11 回工学教育賞

工学教育賞

新潟大学 教授 西村 伸也

新潟大学 助教授 岩佐 明彦

☆長岡市表町での教育実践・「素手によるまちづくり」～住民と大学が協働する
雁木づくり教育プログラム～

工学教育賞

長岡技術科学大学 技術専門職員 宮 正光

☆小・中・高・大における魅力ある工学教育教材の開発とその 10 年間に渡る活
動

第 16 回日本工学教育協会賞

業績賞

長岡技術科学大学 助教授 城所 俊一

長岡技術科学大学 教授 金子 寛

長岡技術科学大学 助教授 石黒 孝

長岡技術科学大学 助教授 豊田 浩史

☆高大連携による科学技術に対する知的好奇心の涵養

業績賞

福井大学 助教授 本田 知己

☆工学における学際的実験・実習の実践

2008 (H.20)年度

会 長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	鈴木敏男	福井大学
長野県支部長	安川英昭	セイコーエプソン(株)
新潟県支部長	大川秀雄	新潟大学
富山県支部長	廣瀬貞樹	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (107) 福井工業高等専門学校 (23) 福井工業大学 (9) 企業 (17)・一般 (1)
長野県	信州大学工学部 (61) 信州大学繊維学部 (13) 長野工業高等専門学校 (18) 企業 (31)・一般 (5)
新潟県	新潟大学工学部 (88) 長岡技術科学大学 (35) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (5) 企業 (21)・一般 (4)
富山県	富山大学工学部 (84) 富山県立大学 (6) 富山工業高等専門学校 (22) 富山商船高等専門学校 (4) 企業 (19)・一般 (3)
石川県	金沢大学工学部 (160) 金沢工業大学 (275) 石川工業高等専門学校 (12) 金沢工業高等専門学校 (15) 企業 (29)・一般 (1)

学校会員 18校 福井工業大学

❖北陸信越工学教育協会第 128 回理事会及び第 57 回評議員会・通常総会

開催日 平成 20 年 5 月 15 日 (木)

開催場所 KKR ホテル金沢

議長 石川憲一北工教会長 (石川県支部長・金沢工業大学学長)

報告事項

大川秀雄新潟支部長より、平成 19 年度事業等の報告

(1) 学校会員入会について

福井工業大学が入会の承認を得ている旨の報告があった。

(2) 平成 19 年度の収支決算について

- ・北陸信越工学教育協会の会費徴収及び会計事務等の業務を怠っており、会計処理(繰越金額等が不明)が完了していない。
- ・会費の未収(新潟県支部)がある。

- ・会計監査を受けていない。
- (3) 協会会報について
- ・会報（第 56 号）の原稿集めが完了していないため、会報は未発行である。

協議事項

大川支部長からの報告を受け、議長から、平成 19 年度の未収金（会計処理）を速やかに徴収し、会報（第 56 号）は早急に刊行し印刷費については平成 20 年度の予算に組み入れることを提案し、承認された。

- ・会計処理について

平成 19 年度北陸信越工学教育協会の会計監査を速やかに実施し、会計監査後、各理事に書面にて審議することとした。

（承認期日：平成 21 年 1 月 10 日）

- ・平成 20 年度事業計画（案）について

第 129 回理事会開催等の原案が承認された。

- ・平成 20 年度予算（案）について件

原案の説明後、繰越金及び前年度版会報の発行経費（未処理経費等）を追記することで承認決定。

その他

- ・日工教役員・各種委員（当該地区）の報告。
- ・第 129 回理事会は東京ガーデンパレス（10 月 23 日）において開催予定。
- ・平成 21 年第 130 回・第 131 回理事会及び第 58 回評議員会・通常総会（長野県支部）。
- ・日工教第 62 回年次大会（平成 25 年）は新潟県支部が会場となる。

❖H19 年度 H20.8.1(公社日工教第 56 回年次大会)

第 17 回日本工学教育協会賞

業績賞

富山工業高等専門学校 教授 本江 哲行

富山工業高等専門学校 技術職員 伊藤 通子

富山工業高等専門学校 教授 丁子 哲治

☆地域と連動して問題を発見・技術で解決するものづくり教育の実施（エンジニアリング・デザイン能力の育成）

❖北陸信越工学教育協会第 129 回理事会

期 日 平成 20 年 10 月 23 日（木）

開催場所 東京ガーデンパレス

議 長 石川憲一北工教会長（石川県支部長・金沢工業大学学長）

報告事項

議長から、本年7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」には

- ① 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について
- ② グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について
- ③ 人口減少期における我が国の大学の全体像について

などを中心に平成20年度から24年度までの5年間で「高等教育の転換と改革に向けた始動機関と位置づけ、中長期的な高等教育の在り方について検討し、結論を導くことが求められる」と提言されている。

このことを踏まえ、北陸信越工学教育協会では工学教育の在り方について、さまざまな活動を実施する必要性が予測されることから、工学教育に関する情報を数多く保有している日工教を利活用することは有益と考え、学校個人会員の日工教との一体化を提案することの説明があった。

また、各県支部長宛（平成20年8月16日付依頼、10月17日回答締切）には学校個人会員の一体化と地区工教会費改正の意向調査を依頼したことの説明があった。

- (1) 北陸信越工学教育協会と(社)日本工学教育協会の学校会員の一体化について
会員数 818名

(新潟県支部の回答数や賛否の数に不備がありカウントから除外)

- ・賛成 483名
- ・反対 72名
- ・棄権 254名
- ・どちらともいえない 2名

このような結果から、「北陸信越工学教育協会と(社)日本工学教育協会の一体化」には賛同を得られたと見なせるが、北陸信越工学教育協会の総意とはならない旨の説明の後、新潟県支部長には県支部機関の意向調査を一週間後の10月末までに報告するよう求め、平成21年度総会の案件として上程することが承認された。

また、会員の勧誘活動において一体化の説得材料（メリット）となるような「プロバガンダシート」を会長・副会長を中心に作成する申し合わせがあった。

- (2) 北陸信越工学教育協会会費（個人）の改正について

議長より、資料を基に

会員数 993名（回答数 630名）

- ・賛成 531名
- ・反対 80名
- ・棄権 291名
- ・どちらともいえない 5名

であり、北陸信越工学教育協会会費の改定については賛同を得られたことの説明の後協議し、平成21年度総会の案件として上程することが承認された。

(3) 日工教からの支援について

議長から、(社)日工教第2回理事会(10月29日)に於いて、北陸信越工教が設立と同時に会報を発刊し、現在もなお継続されていることに対して、今年度から支援金(3万円)の交付を得られることの通知があったことを報告した。

(4) その他

・事務局より平成20年度北陸信越工学教育協会・(社)日本工学教育協会の会員数の確認依頼を行ったが、新潟支部からの回答が無いため支部交付金を確定できないことに加え、前年度の繰越金の送金がない(未収)ことの説明を行った。

議長から、新潟県支部に速やかに会員数の報告と繰越金の送金を行うよう要請した。

(新潟県支部保管の本協会通帳が紛失しており、12月末に繰越金額の問い合わせがあった。)

【参考資料】 各地区工教の個人会費

地区工教名	地区工教会費(円)	日工教会費(円)	会費合計(円)
北海道	1,500	4,000	5,500
東北	1,500	4,000	5,500
北陸信越	700	4,000	4,700
関東	2,000	4,000	6,000
東海	1,000	4,000	5,000
中国・四国	2,000	4,000	6,000
九州	1,000	4,000	5,000

❖ 学校個人会員の一体化と地区工教会費の改正意向調査

北陸信越工学教育協会会長 石川憲一(金沢工業大学学長)は、工学教育の在り方について様々な活動を展開する必要性が予測されることから、工学教育に関する情報を数多く保有している日工教を利活用することは有益と考え、学校個人会員の一体化と地区工教会費の改正に関する意向調査を依頼した。

北陸信越工学教育協会
各県支部長 殿

参考資料 1

北陸信越工学教育協会
会長 石川 憲一

拝啓

立秋を過ぎ朝夕は多少涼しくなりましたが、連日の暑い日々の中にありましても、先生には益々ご健勝にてご活躍の御事と拝察申し上げます。

叔、過日は、(社)日本工学教育協会の機関誌「工学教育」の平成 21 年 9 月号に北陸信越工学教育協会に関する特集記事を掲載することになり、貴支部からは然るべき方々をご推薦戴き、誠に有難うございました。本学の土田義郎教授を委員長として編集委員会を構成し、準備に取り掛かりましたので、今後とも宜しくお力添え賜りますようお願い申し上げます。

次に、学校教育法の一部改正に加えて、工学教育の重要性の高まり並びに前述致しました特集号等に鑑み、予てからの懸案事項でもあります(社)日本工学教育協会(日工教)と北陸信越工学教育協会(北工教)との「会員の一体化」につきまして、お図り申し上げたく思います。ここで、提案致します会員の一体化とは、運営は従来通り行い、北工教の会員は関東工教、東海工教並びに関西工教が既に実施しているように、日工教の会員ともなり活動することを意味しています。

その結果、年会費は日工教：4,000 円と北工教：700 円を合わせて 4,700 円となります。尚、日工教メール会員（紙ベースの機関誌は不要）であれば、日工教：3,000 円と北工教：700 円を合わせて 3,700 円となります。ご参考までに、次ページに各地区教の年会費を添付致します。

また、長年の検討事項でもあります北工教の年会費を 700 円→1,000 円として、北工教の活動を更に活性化していきたいと思っておりますので、本件につきましても貴支部の賛否を併せてお纏め戴きますようお願い申し上げます。

そこで、貴支部会員の賛否の結果を、来る 10 月 23 日(木)に東京ガーデンパレスに於いて開催される北工教第 129 回理事会に諮りたく思いますので、宜しくご高配賜りますようお願い申し上げます。

尚、この場合の賛否は、貴支部会員全員にお諮り戴き、「賛成」「反対」の数値を前以て 10 月 17 日(金)までに当方宛ご報告戴きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、残暑厳しき折から、一層のご自愛を祈念申し上げます。

敬具

平成 20 年 8 月 16 日

◎意向調査集計

Q1 北陸信越工学教育協会と(社)日本工学教育協会(個人会員)の学校個人会員の一体化について

支 部 名	北信越工教 個人会員数	回答数	賛成	反対	どちらとも 言えない	その他	棄権	備考
長野 県支 部	信州大学工学部	61	37	32	5	0	0	24
	信州大学繊維学部	13	7	5	2	0	0	6
	長野工業高等専門学校	18	14	14	0	0	0	4
	企業・一般	5						
	小 計	97	58	51	7	0	0	34
富山 県支 部	富山大学工学部	84	39	23	16	0	0	45
	富山県立大学	6	6	6	0	0	0	0
	富山工業高等専門学校	22	5	5	0	0	0	17
	富山商船高等専門学校	4	4	4	0	0	0	0
	企業・一般	3						3
	小 計	119	54	38	16	0	0	65
福井 県支 部	福井大学工学部	107	71	53	16	2	0	36
	福井工業大学	9	6	5	1	0	0	3
	福井工業高等専門学校	23	12	11	1	0	0	11
	企業・一般	1						
	小 計	140	89	69	18	2	0	50
新潟 県支 部	新潟大学工学部	88	51	10	28	13		37
	長岡技術科学大学	35	27	17	7	0	3	8
	新潟工科大学	39	17	10	7	0	0	22
	新潟工業短期大学	4	4	4	0	0	0	0
	長岡工業高等専門学校	5	5	4	0	1	0	0
	上越教育大学	4	0	0	0	0	0	4
	企業・一般							
	小 計	175	104	45	42	14	3	71
石川 県支 部	金沢大学工学部	160	59	28	31	0	0	101
	金沢工業大学	275	271	271	0	0	0	4
	石川工業高等専門学校	12	12	12	0	0	0	0
	金沢工業高等専門学校	14	14	14	0	0	0	0
	企業・一般	1						
	小 計	462	356	325	31	0	0	105
合 計	993	661	528	114	16	3	325	
註1) 締切日：平成20年10月17日(金)								
註2) 新潟県支部最終回答日：平成20年12月26日(金)								
註3) 会員数：北陸信越工学教育協会に所属								

Q2 北陸信越工学教育協会（個人）会費、700円 ⇒ 1000円への改正について

表2 北陸信越工学教育協会年会費の改定案の集計								
H20.12.26現在								
支 部 名	北信越工教 個人会員数	回答数	賛成	反対	どちらとも 言えない	その他	棄権	備考
長野県支部	信州大学工学部	61	38	28	10	0	0	23
	信州大学繊維学部	13	8	7	1	0	0	5
	長野工業高等専門学校	18	14	14	0	0	0	4
	企業・一般	5						
	小 計	97	60	49	11	0	0	32
富山県支部	富山大学工学部	84	39	20	19	0	0	45
	富山県立大学	6	6	6	0	0	0	0
	富山工業高等専門学校	22	5	2	3	0	0	17
	富山商船高等専門学校	4	4	3	1	0	0	0
	企業・一般	3						3
	小 計	119	54	31	23	0	0	65
福井県支部	福井大学工学部	107	71	51	16	4	0	36
	福井工業大学	9	5	4	1	0	0	4
	福井工業高等専門学校	23	12	7	4	1	0	11
	企業・一般	1						
	小 計	140	88	62	21	5	0	51
新潟県支部	新潟大学工学部	88	51	40	2	9		37
	長岡技術科学大学	35	27	15	5	0	7	8
	新潟工科大学	39	39	15	2	22	0	0
	新潟工業短期大学	4	4	4	0	0	0	0
	長岡工業高等専門学校	5	5	4	0	1	0	0
	上越教育大学	4	0	0	0	0	0	4
	企業・一般							
	小 計	175	126	78	9	32	7	49
石川県支部	金沢大学工学部	160	59	34	25	0	0	101
	金沢工業大学	275	271	271	0	0	0	4
	石川工業高等専門学校	12	12	12	0	0	0	0
	金沢工業高等専門学校	14	14	14	0	0	0	0
	企業・一般	1						
	小 計	462	356	331	25	0	0	105
合 計		993	684	551	89	37	7	302
註1) 締切日：平成20年10月17日（金）								
註2) 新潟県支部最終回答日：平成20年12月26日（金）								
註3) 会員数：北陸信越工学教育協会に所属								

【プロパガンダ・シート】

平成 20 年 12 月 1 日

(社) 日本工学教育協会と北陸信越工学教育協会の個人会員の一体化
に関するメリット

北陸信越工学教育協会

会長 石川 憲一

(社) 日本工学教育協会(日工教)と北陸信越工学教育協会(北工教)の個人会員の一体化に関するメリットは、以下に示す通りです。

- (1) 工学・技術者教育に関する論説, 論文等審査付記事が掲載された「工学教育」誌が年 6 冊入手できます。近々アマゾンにてどなたでも簡便に購入できるようになりますが, 年 6 冊分の定価では 11,600 円(平成 20 年度見込み)となり, 日工教個人正会員会費 4,000 円と比べるとその差は歴然です。
- (2) 創刊から 56 年間にわたって, 工学・技術者教育に関する多数の有益な記事が掲載されている「工学教育」誌が, ここ 1~2 年以内に全文検索できる電子データによって公開されます。高等教育機関における教育研究にとって, 大変有益なデータベースとなります。会員外への公開は, 発刊後 1 年を経ってからとなりますので, 最新情報を容易に入手できます。
- (3) 日工教で開催する多くの行事や受審では, 会員価格として得な割引料金が設定されています。教育士の受審は「3,000 円得」, 認定料は「10,000 円得」, 大会参加は「2,000 円得」(H20 年度実績)。今後も参加費用の差別化は公益社団法人になっても続きます。
- (4) 日本工学教育協会賞は, 平成 4 年から工学教育分野において優れた業績を表彰しています。「功績賞」, 「業績賞」, 「論文・論説賞」, 「著者賞」, 「協会貢献賞」の 5 つの業績分類があり, 応募するためには, 正会員である必要があります。
- (5) インタレストグループを立ち上げ, 工学・技術者教育の重要なテーマごとに関心の高いメンバーに向け, 様々な情報を配信しています。現在の稼働グループは, 「技術者倫理」, 「コミュニケーションスキル」, 「エンジニアリングデザイン」, 「女性エンジニア育成」の 4 グループです。
- (6) 日工教の年次大会や研究講演会では, 異なる分野の教育実践に触れ, 議論することができると共に, 教員の「教育力」の向上が可能となります。また, SA(Student Assistant) や TA(Teaching Assistant)の発表の場としても活用いただけます。

- (7) 各種の GP(Good Practice)や科研費の成果発表の場として、日工教の講演会や「工学教育」誌が有効です。また、応募時にも実績として高い評価が期待できます。
- (8) 第三者による機関評価、認定審査や教育関連 GP の応募などにおいて、日工教の会員数や教育士の数、教育論文の発表数や審査付論文の掲載数などは有力なエビデンスとなります。
- (9) 日本学術会議研究団体に登録(1997年9月)されている日工教の機関誌「工学教育」に掲載された有審査論文は、設置審において教員の教育力を認定するための論文数にカウントされます。このため、当然、教育機関内(学内)の昇格審査等においてもカウントされることとなります。
- (10) 教育士(工学・技術)資格は、教員の「教育力」を担保するエビデンスの一つであり、他機関への自己経歴アピールの際に有利です。
- (11) 日工教で計画中の「学生教育士制度」は、学生の就職活動時に有利な資格となります。
- (12) 教育機関評価ランキングが多くのシンクタンクなどで査定され、広報される時代が近づいています。教育活動の一評価として、前述の第8項の各項目は有力な指数となります。
- (13) 日工教が公益社団法人格取得後は、多くの寄付金などを原資として、日工教からの助成金等の額が増加することが予想されます。

以上

2009 (H. 21)年度

会 長	岡本正行	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)
富山県支部長	廣瀬貞樹	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学
福井県支部長	城野政弘	福井工業大学
長野県支部長	山浦愛幸	長野県経営者協会

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (74) 長岡技術科学大学 (33) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (5) 企業 (18)・一般 (2)
富山県	富山大学工学部 (77) 富山県立大学 (5) 富山工業高等専門学校 (23) 富山商船高等専門学校 (4) 企業 (17)・一般 (4)
石川県	金沢大学工学部 (54) 金沢工業大学 (278) 石川工業高等専門学校 (11) 金沢工業高等専門学校 (19) 企業 (27)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (101) 福井工業高等専門学校 (21) 福井工業大学 (10) 企業 (15)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (58) 信州大学繊維学部 (10) 信州大学全学教育機構 (1) 長野工業高等専門学校 (17) 企業 (27)・一般 (4)

学校会員 18校

◆北陸信越工学教育協会第 130 回理事会及び第 58 回評議員会・通常総会

開催日 平成 21 年 5 月 14 日 (木)

開催場所 メルパルク長野

議長 岡本正行協会会長 (長野県支部長・信州大学工学部長)

議題

1) 定例的な議案、「経過報告、収支決算、役員を選出(案)、事業計画(案)」については例年通りであった。

2) 個人会員の一体化(北陸信越工学教育協会・(社)日本工学教育協会)及び北陸信越工学教育協会会費の改定について

議長から、日工教及び北工教の更なる活動の活性化を目的に、会員の一体化及び個人会費の改正(700円⇒1,000円)について審議する旨の説明が合った。

引き続き、昨年度会長の石川金沢工業大学学長から、本件については、各県支部にお

いて実施されたアンケート調査の結果を受け、昨年10月に「東京ガーデンパレス」で開催された第129回理事会では概ね賛同を得られている旨の補足説明の後、種々協議の結果挙手による賛否（過半数13名）を行い、会費の改正については賛成14名で可決されたが、会員の一体化については賛成4名で否決された。

10月の第131回理事会に向け、会員の一体化を含めた北工教の今後の活発な活動を目指すWGを立ち上げ、アクションプランを策定する案について、同様に挙手による賛否を行い賛成16名で可決された。アクションプランの取りまとめは会長が行うこととし、WG委員については各県支部より（会長に一任）選出することとした。

また、議長から、会費の改正が認められたことに伴い「北陸信越工学教育協会規程」の改正について諮られ、審議の結果原案のとおり承認した。

別紙

平成21年8月6日

北陸信越工学教育協会石川県支部長
(金沢工業大学学長)

石川 憲一 殿

北陸信越工学教育協会会長
(信州大学工学部長)
岡本 正行 (公印省略)

会員一体化（北陸信越工学教育協会・(社)日本工学教育協会）及び
北陸信越工学教育協会活性化WG（仮称）について

拝啓 暑い日が続いておりますが、先生にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成21年5月14日（木）に開催された「北陸信越工学教育協会第130回理事会及び第58回評議員会・通常総会」で提案のあった標記WGの設置について、先生には、是非WG委員としてご参加いただきたくここにお願いする次第です。

本WGは、日工教と北工教の会員の一体化を視野に入れ、北工教の今後の活発な活動を目指すべく設置するものであります。

つきましては、上記趣旨を鑑み、別紙の内容によりご意見をいただきたく、よろしくお願いいたします。

なお、ご意見につきましては、平成21年9月11日（金）までに、下記担当者宛に提出願います。

また、標題のWGの名称につきましては仮称とさせていただきますので、より適切な名称がございましたら、ご連絡をお願いいたします。

末筆ながら、暑さ厳しい折一層のご自愛を祈念申し上げます。

敬具

◎下記の事項につきまして、忌憚のないご意見をお願いいたします。

1. 会員の一体化（日工教及び北工教）について、どのようにお考えですか。
2. 平成21年10月1日に日工教が公益法人化されることに伴い、日工教と各地区工教との関わりについて、どのようにお考えですか。
3. 学校所属個人正会員を増やすには、どのような方策があるとお考えですか。
4. 現在、企業会員の減少が憂慮されているところですが、企業会員を増やすには、どのような方策があるとお考えですか。
5. 北工教の活動を活性化させるために、どのような活動があると考えられますか。
6. その他（どんな御意見でも結構ですので、ご自由にお書きください。）

○本件担当
北陸信越工学教育協会事務局（信州大学工学部）丸山 利夫
TEL：026-269-5002 FAX：026-269-5007
E-mail：Toshio_Maruyama@su-oasis.jm.shinshu-u.ac.jp

❖北陸信越工学教育協会第131回理事会

開催日 平成21年10月22日（木）

開催場所 ホテル東京ガーデンパレス

議長 岡本正行協会会長（長野県支部長・信州大学工学部長）

議題

1) 定例的な議案、「前回理事会、評議員会通常総会等の概要確認、及び次年度の役員事業等の審議は原案通り承認された。

2) 「個人会員一体化及び北陸信越工学教育協会活性化 WG」に対する意見について議長から、日工教会長から北陸信越工学教育協会が「会員一体化アクションプラン」作成に向けて行動していることが評価されていることの説明の後、各委員から事前に寄せられた意見を基に、「会員一体化」及び「北工教活性化」について協議を行った。

「会員の一体化」については、平成 22 年度においても、引き続き検討を行うことが確認された。

また、「会員一体化」の必要性について会員に周知するには、既に公開されている「プロパガンダ・シート」では会員に対しては充分とは言えなかったなどとの意見交換の後、「北工教の活性化」の活動を推進することが「会員一体化」につながる必要不可欠な方策であるとされた。

「会員一体化」並びに「北工教の活性化」に向けた諸活動の策定に向けては、年度内を目途に

- ・実施できること
- ・無理すれば実施できること
- ・実施は難しいこと

などの事案を検討することとした。なお、今後の意見交換については地域的な面を考慮し、電子メールで行うこととした。

また、教育の質を保証するための手段として、日工教が認定する「教育士」制度は非常に有効であるとの意見があった。

❖2010 (H.22) 年度 議論継続願い

1. 「個人会員の一体化（日工教及び北工教）」について

標記に関して各大学の意見を取りまとめたところ、賛否両論の意見が寄せられたことから、引き続き議論が必要と思われます。また、昨年 10 月の理事会においても、本件は「継続審議」となりました。

については、次年度当番校の富山大学様には大変お手数ですが、平成 22 年度総会において、再度の審議事項に上程いただきますようお願いいたします。

2. 「北陸信越工学教育協会の活性化」について

本協会の活性化に関しても、寄せられた提案に基づき、「北工教として積極的にアピールするもの又は方法は何か、他にできることは何かないか。」等の意見交換を行う必要があることから、本件についても、平成 22 年度総会での議論をお願いいたします。

なお、各県支部におかれましては、支部会員から積極的に意見を吸い上げ、県支部単位

でも会員獲得に向け更なる活動をお願いいたします。

また、金沢工業大学石川学長からの提言が有意義とされ、第 132 回理事会及び第 59 回評議員会・通常総会（H22.5）で議論されることとなった。

○ ～ ～ ～ ～ ～ ○

◆個人会員の一体化及び北工教活性化に向けての意見について（アンケート）

平成 22 年 3 月 23 日

北陸信越工学教育協会活性化 WG 委員 各位

北陸信越工学教育協会会長
（信州大学工学部長）

岡本 正行

個人会員の一体化及び北工教活性化に向けての意見について

(1) 「個人会員の一体化(日工教及び北工教)」について

本件に関しましては、取りまとめた意見をお読みいただければおわかりのとおり、各大学から賛否両論のご意見をいただきました。引き続きの議論が必要と思われます。また、昨年 10 月に開催されました理事会におきましても、本件は「継続審議」となっております。

つきましては、次年度当番校の富山大学様には大変お手数ですが、平成 22 年度総会において、議題としてお諮りいただき、再度、議論願いますようよろしくお願いいたします。

(2) 「北陸信越工学教育協会の活性化」について

本件に関しましても、各項目におきまして様々なご意見をお寄せいただいております。今回まとめた意見を基に、「北工教として積極的にアピールするもの又は方法は何か、他にもできることは何かないか。」等の意見交換が必要と思われます。

本件につきましても、平成 22 年度総会での議論をお願いできればと思います。

なお、各県支部におかれましては、支部会委員から積極的に意見を吸い上げ、県支部単位でも会員獲得に向け更なるご協力をお願いいたします。

また、金沢工業大学石川学長より、非常に有益な提言をいただいておりますので、参考にさせていただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上

「個人会員の一体化(日工教及び北工教)」について

1. 「個人会員の一体化」に対する意見および「個人会員の一体化」の必要性について会員への周知等を含めた具体的方策等について【自由記述】

①「個人会員一体化」に対する意見(本件につきましては、以前お伺いしておりますが、理事会での議論後の現在のご意見をお書き願います。)

○現在、北工教会員であるが日工教会員ではない方々は、特に日工教会員になる必要性を感じておられないのだと思います。強引に一体化を進めれば、北工教を退会される方が続出すると思います。

そもそも、これは日工教の問題であり、北工教の問題ではないと思います。北工教の会員が減ることが明らかなことを北工教の役員会で議論すること自体がナンセンスであると思っています。

【富山大学】

○これまでお話ししました通り、福井支部の現状からは次期尚早と思います。結果として会員数の激減が予想されます。

当然ながら、「会員一体化」が目的ではなく、一体化により現状をさらに良くすることが目的であると思います。そのためには二つの考え方があり、一体化しなければ活性化が出来ない現状にあるか、一体化を、活性化を促すドライビングフォースにするかであると思います。しかしながら、現状ではどちらにも、一体化の必要性を会員が共有できる状況にはないのではないのでしょうか。

別の観点があるとするれば、活性化を目的としたものではなく、組織の合理化のためということがあると思います。組織を現在のように二重構造にしておくよりも、運営上一体化した方が良いことがあり、この点において会員の理解を得ることは可能かと思えます。しかし、その場合は、日本工学教育協会の北陸支部であり、会費も一本化されるべきであると思います。【福井大学】

○会員数が減ることは、どう考えても北工教にとっては好ましいことではない。ただ、北工教の存在意義が薄れてきていることから、ここで区切りをつけて再出発と考える方向はあり得る。

なお、企業をどうするか、今後どう組織に組み込むかの検討が抜けていた。【新潟大学】

○教育方法やFDに関する多くの最先端的な情報が得られるが会費の高い日工教と、会費は安いが何も情報を提供してくれない、入っているメリットが感じられない北工教が一体化(支部になる)することのメリットはあると考えますが、もともと別々の親戚関係にある2つの協会の会員だけを一体化しても、特にメリットは見いだせないのではないかと考えます。【金沢大学】

○学校教育法第58条の改正と共に、大学における教員に対して有すべき能力が須く明確化

されたことから、工学分野においても教員の教育上の能力を向上させなければならない。そのためには、工学教育の最新の動向やニュースを的確に把握・取得する手段・方法が必要である。各専門学会に於いても教育の重要性から当該分野に立脚した検討などが行われてきているが、各分野を包括し組織的に並びに個人的に教育の向上を図ることのできる学協会は(社)日本工学教育協会を置いて他には存在しない。

一方、北陸信越工学教育協会をはじめ、全国には8地区工教が活動を行っているが、会誌の発行に関しても(社)日本工学教育協会が年6回であることに比べて、北陸信越工学教育協会は年1回に過ぎない。この例のように、工学教育に関する情報に関しても、その彼我の差は歴然としている。

また、北陸信越工学教育協会には(社)日本工学教育協会のように年次大会の開催は行われず、会員の教育成果を発表する機会は極めて少ないのみならず、専門分野を超越して工学教育に関する具体的な情報交換を行うこともほとんど不可能といっても過言ではない。

以上のことから、(社)日本工学教育協会と北陸信越工学教育協会との「個人会員の一体化」(経理や会計は別であり、独自の活動が可能)を行うことによって、北陸信越地区における「工学教育の底上げ」と「質の向上」等を図ることが可能となる。

尚、平成20年度会長として(社)日本工学教育協会事務局と協力して提案したプロパガンダ・シートに関して不十分であるとの意見があるが、平成21年度会長並びに各県支部長はその不十分な点を克服する対案を提出する必要がある。【金沢工業大学】

○下記(問)②の方法等により日工教への入会(個人会員の一体化)を勧誘するが、入会の意思は最終的に個人に委ねられる。

長野県支部においても、一体化を強行に押し進めた場合、必ずしも日工教への入会に賛成する会員ばかりではない(昨年のアンケートで反対もしくは未回答の大部分が北工教のみの会員)ため、北工教の会員が減少すると予想される。このことは、会員減少傾向にある現在、北工教にとっても得策ではない。【信州大学】

②「個人会員一体化」の必要性について会員への周知等を含めた具体的方策等

○上(問①)に述べましたように、これは日工教の問題であると思っています。したがって日工教が会員を増やすための魅力的な活動をされることが一番肝要だと考えています。日工教に魅力があれば、会員は増えるはずです。

北工教としてできることは、そのような活動、魅力を北工教会員にお知らせする、また日工教にも入会されないですかと勧誘するという程度のお手伝いしか出来ないと思います。

そのようにして、日工教の会員が増えていけば、自然と一体化されていくものと思います。

そのようなやり方が一番良いと思います。【富山大学】

○必要性を説明せよと言われても、私自身が上手く説明できない。石川理事の文書を読んでもらうことが一番と思う。【新潟大学】

○本学は既に、先行して会員の一体化に踏み切りましたので、特に具体的な方策を今後、必要としません。上記の疑問、問題点が解決すれば、周知の問題はおのずと解決するのではないかと予想します。【金沢大学】

○平成 20 年度北陸信越工学教育協会会長が行ったように、平成 21 年度会長から「個人会員の一体化」の必要性について各県支部長に連絡し、各県支部長から各県会員への周知等を行うことが至当である。【金沢工業大学】

○教員の新規採用やその他の場面(教員会議の席上等)で、教育の重要性・必要性を説明する。また、日工教の教育士制度による「教育者の質の保障」、その他日工教会員になることのメリットをアピールし、新規会員の入会を勧める。同様の方法により、現在、北工教のみの会員に対しても、日工教への入会を勧誘する。【信州大学】

○ ~ ~ ~ ~ ~ ○

❖「北陸信越工学教育協会の活性化」について ~アンケートから~

1. 工学教育・技術の普及・発展活動としての、北工教全体での講演会・講習会・研修会等の開催について

実施可能・・・【1大学】

無理すれば実施可能・・・【5大学】

実施は難しい・・・【0大学】

【理由及び方策等】

○実施は可能であると思いますが、実施しても、実際に集まるのは開催する支部の会員のみとなる可能性が高いと思います。結局、現在各支部で行っている講演会と変わらないものになってしまうのではないのでしょうか。【富山大学】

○それぞれの課題が明確である必要がある。【福井大学】

○開催場所、日時など問題は多い。また、旅費を使っても出席して頂けるか疑問。参加者はもともと熱心な方であるから、協会全体の活性化には効果は小さい。【新潟大学】

○まずは、日本工学教育協会と独自に何をすべきで、実施可能か、また何にはやるべきでなく、不可能かを議論するように考え、その内、ボーダーラインが何か見えてきたら、その結果について議論、可能性を探ると良いのではないかと思います。

実施できる最も基本的な活動の1つとして、北陸信越地区で講演会を実施する可能性を議論する。また、お互いに講習会や研修会の講師に関する情報交換や持ち回りで講習会・研修会の実施の可能性を検討する。【金沢大学】

○毎年、5月中旬には、北陸信越工学教育協会の総会が会長校の所在地において開催されている。しかし、出席者は各県支部長並びにその事務担当者等であり、その他の会員の参加は極めて少ない。そこで、総会時に工学教育に関する泰斗の方(例えば、(社)日本工学教育協会会長や副会長、専務理事等)に依頼し、「基調講演」を戴き、更に各県支部の内、1~2支部から当該県支部の活動やトピックス等を具体的に講演或いは報告戴き、マンネリ化している総会を活性化することこそ肝要である。【金沢工業大学】

○北工教全体での開催となると、会長のいる県での開催になると思われる。実施そのものは可能であると思うが、他県支部で開催される総会への出席者も甚だ少ない現在、参加者が限定される懸念がある。【信州大学】

2. 情報交換手段として、各県支部間における報告会等の開催(例えばA県支部長がB県支部総会でA県の活動等を紹介)について

実施可能・・・【2大学】

無理すれば実施可能・・・【1大学】

実施は難しい・・・【0大学】

【理由及び方策等】

○富山県支部の主な活動は、年2回(春、秋)の講演会です。他の支部で報告できるような活動を特に行っていないのが実情です。また、総会へ出席される会員も非常に限られており、折角、他の支部の支部長から他の支部の活動を伺っても、あまり効果が期待できないと思います。【富山大学】

○必要ならば、(問)1の中で実施可能。【福井大学】

○新潟県支部は、現在何もしていないため紹介できるものがない。【新潟大学】

○難しいのではなく、意味、価値のある報告会、情報交換とすることができるかどうか？との疑

間がある。【金沢大学】

○北陸信越工学教育協会には5つの県支部があり、各県支部はそれぞれ独自の活動を行っているが、支部相互間ではそれらの内容を全く理解していないと言っても過言ではない。そこで、各県支部の総会や講演会の開催時期を前以て通知しあい、A県支部長がB県支部の総会に出席し、A県支部の活動等を紹介することによって、B県支部の参考に供することによって、互いに切磋琢磨することが可能となる。そして、5県支部間をローテーションすることによって、全体的には北陸信越工学教育協会の活性化に繋がるものと考えられる。【金沢工業大学】

○現在、長野県支部では年2回の講演会を実施しているが、その他特に目立った活動は行っていない。県支部の総会に合わせ、熱心に活動されている県支部の支部長等においていただき、活動内容の報告等を行っていただくことにより、活性化に繋がるものとする。(但し、参加する人間は元々北工教の活動に理解ある人で、さほど多くはないと思われる。)【信州大学】

3. 各県支部で実施している講演会において「工学教育」に関する講演を行う について

- 実施可能・・・【3大学】
- 無理すれば実施可能・・・【3大学】
- 実施は難しい・・・【0大学】

【理由及び方策等】

○富山大学では毎年FDシンポジウムを開催しております。それとの兼ね合いを検討すれば、実施は可能と思います。【富山大学】

○福井支部ではすでに実施している。

H19年度 シンポジウム「創成教育を考える」小谷重雄グンゼ会長他

H20年度 シンポジウム「グローバル化時代の工学教育」

佐々木正峰国立科学博物館館長、椿原治日本工学教育協会専務理事

H21年度 (予定)シンポジウム「新しい工学教育」(仮題)

北大、東工大、京都工芸繊維大、高校等の教員 【福井大学】

○各大学等で行っている講演会に補助しているが、「工学教育」の後援を行うことは可能。

【新潟大学】

○単独では難しいが、工学系の学協会の北陸信越地区の講演会等とタイアップして、実施の可能性を探る。【金沢大学】

○(社)日本工学教育協会は、毎年 8 月に年次大会を開催し、工学教育に関する講演発表会を行っている。また、その他にも講演発表会が催されている。このような現状を鑑みると、上記(問)1. に記述したような範囲で実施することは可能であると考えられる。【金沢工業大学】

○長野県支部では、今年度の講演会で、社会人大学院・長期インターンシップに多大な協力をいただいている企業の方に「企業が期待する大学教育」と題し、講演をお願いした。今後も工学教育に関する講演会を行いたいと考えている。【信州大学】

4. 情報発信手段としての、北工教ホームページの立ち上げについて

実施可能・・・【2大学】

無理すれば実施可能・・・【2大学】

実施は難しい・・・【2大学】

【理由及び方策等】

○下の5. が実現し、会長に所属する組織で管理等を行うのであれば可能かと思いますが、会長が持ち回りである現状において、会長の所属する組織で管理等を行うのは無理だと思います。業者に委託すれば、お金の問題になります。【富山大学】

○効果の判断が出来ない。【福井大学】

○やれば出来ることではあるが、観てくれる人は少ないと予想される。また、何を発信すればいいのか、内容の薄いものになってしまう。【新潟大学】

○コンセプトについて合意が出来れば、業者に器(入れ物)を作らせ、会員校から公開したいデータを投げれば、比較的労力をかけずに実現可能と予測する。

問題は、北工教の会員諸氏が本当にアクセスしたくなるような情報を継続的に掲載できるかどうか。そんなコンテンツはあるのか？開発できるのか？について議論していただきたい。【金沢大学】

○情報化時代に相応しく、ホームページを立ち上げ、会長は任期年度の活動等を、前もって公表し、会員のモチベーションを高める必要がある。

また、他の地区工教に対しても北陸信越工学教育協会の活動をグッドプラクティスとして、アピ

ールすることが可能となる。【金沢工業大学】

○会長・事務局輪番制の現状から言って、当初の立ち上げ及び先々の運営管理等の面を考えると実施は難しい。また、立ち上げることとした場合、掲載内容の議論も必要である。

【信州大学】

5. 継続的な活動を目指した組織整備(会長職・事務局の固定化)について

実施可能・・・【1大学】

無理すれば実施可能・・・【1大学】

実施は難しい・・・【4大学】

【理由及び方策等】

○富山大学は無理ですが、どこかの組織、先生が引き受けてと言っておけば、賛成いたします。その方が良いのではと思っています。【富山大学】

○現状で、何故必要か理解できません。【福井大学】

○固定化には費用が必要。その余裕はないと思う。熱心な方が会長を務めてくださることが原則となるが、得難いと思う。輪番でよいと思う。【新潟大学】

○現在、最も熱心な金沢工業大学さんに会長職、事務局を当面お願いするのが良いと考えます。(真面目にそう考えています。)
【金沢大学】

○北陸信越工学教育協会は、5 県の支部を輪番制によって会長校を務めていることから、現状においては会長職・事務局の固定化は困難である。

若し会則を変更し、会長職・事務局の固定化が承認されれば、不可能とは言えない。

しかし、会長職・事務局を固定化した場合の弊害として、それが設置される地域では活性化に関して部分最適が生じ、北陸信越地域の活性化に関する全体最適とはならなくなる危険性がある。【金沢工業大学】

○固定化するとした場合、どこかの組織で受けていただくことが大前提となる。現状では固定化は難しい。【信州大学】

6. 専任の職員を配置した事務局組織の設置について

- 実施可能・・・【0大学】
- 無理すれば実施可能・・・【1大学】
- 実施は難しい・・・【5大学】

【理由及び方策等】

○予算的な問題で実施は難しいと思います。上の5. が実現するならば、その組織に多少の人件費をお渡しするというのが良いと思います。【富山大学】

○現状で、何故必要か理解できません。【福井大学】

○小さな組織であるため、その余裕はなく仕事も多くはないと思う。【新潟大学】

○問 5. への回答と同様。【金沢大学】

○北陸信越工学教育協会の運営は、従来から会長を中心に行われており、会長が勤務する高等教育機関の事務職員が同協会の事務を担当しているのが現状である。

若し専任職員を配置すれば、会長が輪番制であることから事務効率の低下が懸念される。

【金沢工業大学】

○問 5.と同様、現状では実施は難しい。また、専属の職員を配置するとなると、人件費の負担の問題もある。【信州大学】

7. その他(各県支部において、北工教活性化のための独自の活動等があれば記載してください。)【自由記述】

○特にありません。【富山大学】

○日工教で発表した内容を講演会で講演することは可能。ただし、ひとが集まるかははなはだ疑問。

多くの方が興味を持つテーマの講演会なり見学会をやればよいが、各大学でも同様の行事を開催するためかなりの苦勞をしている。共催にして貰うことがベストと思われる。【新潟大学】

○【提言】

①北陸信越工学教育協会の活動を活性化するためには、会長任期を1期2年とする輪番制が必要である。従래のように、会長任期が1年であれば、殆ど革新的な方針を打ち出し、そ

れらを達成することは不可能である。

- ②北陸信越工学教育協会の会長には、必ずしも各大学の工学部長等の役職者が就任するのではなく、各大学において(社)日本工学教育協会との関係や工学教育に精通している人材を選出する必要がある。
- ③石川県支部では、長年(10年以上)に亘って支部役員をお勤めいただいた方々には、支部長名によって感謝状を昨年度から差し上げてきているが、大変喜ばれている。このように、各支部においても感謝状を差し上げ、謝意を表することが北陸信越工学教育協会の活性化へ通ずるものと考えられる。【金沢工業大学】

○特になし。【信州大学】

○ ~ ~ ~ ~ ~ ○

2010 (H. 2 2)年度

会 長	廣瀬貞樹	富山大学
福井県支部長	城野政弘	福井工業大学
長野県支部長	岡本正行	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)
富山県支部長	田中正人	富山大学
石川県支部長	石川憲一	金沢工業大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (90) 福井工業高等専門学校 (18) 福井工業大学 (10) 企業 (14)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (52) 信州大学繊維学部 (11) 信州大学全学教育機構 (1) 長野工業高等専門学校 (16) 企業 (26)・一般 (3)
新潟県	新潟大学工学部 (73) 長岡技術科学大学 (29) 新潟工科大学 (40) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (5) 企業 (18)・一般 (2)
富山県	富山大学工学部 (77) 富山県立大学 (5) 富山高等専門学校 (28) 企業 (16)・一般 (3)
石川県	金沢大学工学部 (54) 金沢工業大学 (265) 石川工業高等専門学校 (11) 金沢工業高等専門学校 (18) 企業 (27)・一般 (0)

学校会員 17 校 富山高等専門学校に統合

❖北陸信越工学教育協会第 132 回理事会及び第 59 回評議員会・通常総会

開催日：平成 22 年 5 月 13 日（木）

場 所：ANA クラウンプラザホテル富山

1. 審議事項

「個人会員の一体化（社）日本工学教育協会と北陸信越工学教育協会）」及び「北陸信越工学教育協会の活性化」について、これまでの経緯を、昨年度会長の信州大学岡本工学部長からの報告後、議論の結果、

- ①個人会員の一体化については、今後 1～2 年において議題として提案しない。
- ②一体化を目指して、日本工学教育協会の会員を増やす方策を検討していく。
- ③活性化の第一歩として、各県支部で開催している講演会は、他県支部へ通知すること等が承認された。

2. 継続審議事項

石川憲一石川県支部長から、「北陸信越工学教育協会会長の任期（1 年から 2 年）延長」の提案があった。本案件は会長の選任方法等を含む検討が必要となることから、会長を中心に素案を作成し、今年秋季の理事会において議論することが承認された。

❖日工教の公益社団法人への移行についてのお知らせ

日工教総 22 第 103 号
(平成 22 年 9 月 22 日)

各地区工学教育協会会長殿

(社)日本工学教育協会
会長 服部 拓哉

日工教の公益社団法人への移行についてのお知らせ

・・・略・・・

日工教の公益社団法人への移行に伴い、地区工学教育協会は、法律上は相互に完全に独立した団体となり、従来理事や各種委員の選出については別の団体なので依頼しないこととなります。しかし、当協会単独で工学教育の振興という事業を全国展開していくには、皆様（地区工教）の協力なしに達成することは困難です。従って今後は日工教の理事・委員に適切な人を「ご紹介頂く」という形をとり、日工教から直接ご本人に委嘱するという事にせざるを得ません。なにとぞこの状況のご賢察を賜りたいと存じます。

・・・以上

❖北陸信越工学教育協会第 133 回理事会

開催日：平成 22 年 10 月 21 日（木）

場 所：ANA クラウンプラザホテル金沢

挨 拶 広瀬貞樹会長（富山県支部長・富山大学工学部長）

1. 協議事項

議長（広瀬会長）から、北陸信越工学教育協会の活性化に関して、個人会員の一体化（日工教及び北工教）継続審議等について説明があり「北工教として積極的にアピールするもの又は方法はないか、他にできることは何かないか。」等の意見交換の後、

- 1) 北陸信越工学教育協会会長の任期は1期1年から2年への変更が承認され、規程の改正と併せて、来年度春の評議員会・通常総会に提案する。
- 2) 北陸信越工学教育協会会長の選任については、これまでのローテーションで各県支部長が就任することで承認された。
- 3) 協会活性化の活動は工学教育に熱心に関り、工学教育に精通した教員を各県支部から1名を選出し、「活性化WG委員」としての活動をお願いすることが承認された。
- 4) 第134回理事会並びに第60回評議員会・通常総会の開催時期及び会場について審議の結果、会長並びに総会・理事会担当支部についてはこれまでどおり輪番制とし、来年度春の評議員会・通常総会において会長任期を2年とする規程の改正を行ったうえで、平成23年及び24年度の会長および活性化WGの長は福井県支部が担当することの承認を得た。

また、総会・理事会担当支部については会長の任期に合わせて、平成23年度担当支部が平成24年度も引き続き担当することの了承を得た。

なお、WGを平成23年度から発足するためWGメンバーの推薦依頼については、今年度中に実施することとなった。

5) 平成23年度(社)日本工学教育協会の役員を選出方法について

日本工学教育協会は（公益社団法人）としての取り組みを行っており、定款等の内容が精査されていないことから日工教の方針が確定した際に、本協会規程の改正を行い整備することが承認された。

6) 平成23年度(社)日本工学教育協会の各種委員の選出について

議長から、現在の日工教各種委員について説明があり、役員を選出と同様に本理事会では決めないことが承認された。

7) (社)日本工学教育協会年次大会の開催について

議長から、平成25年度は新潟大学が担当することが承認された。

8) その他

議長から、各県支部で開催される講演会について、今年度春の評議員会・通常総会で「活性化の第一歩として、各県支部で開催している講演会について、他の県支部へ通知する。」ことが了承された。

現時点では4件の講演会案内を各県支部に通知している旨の報告があった。

❖北陸信越工学教育協会の活性化について(アンケートの結果)

平成 22 年 10 月 18 日

福井大学大学院工学研究科長 殿
新潟大学工学部長 殿
長岡技術科学大学副学長 殿
金沢大学工学部長 殿
金沢工業大学長 殿
信州大学工学部長 殿
信州大学繊維学部長 殿

北陸信越工学教育協会 会長
(富山大学工学部長)
廣瀬 貞樹

北陸信越工学教育協会の活性化について(アンケートの結果)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

先に、「北陸信越工学教育協会の活性化について」のアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

この度、アンケート結果がまとまりましたので、別紙のとおりご報告いたします。

つきましては、北陸信越工学教育協会第 133 回理事会(10 月 21 日開催)におきまして、議題としてご提案させていただくこととしておりますので、よろしくお願いたします。

❖北陸信越工学教育協会の活性化について(アンケートの結果)

依頼数 8 大学 回答数 8 大学

1. 北陸信越工学教育協会会長の任期は現在 1 年ですが、1 期 2 年とすることについて

賛成 【 7 大学】 反対 【 1 大学】

○賛成の理由

【福井大学】 人材による

【長岡技術科学大学】 何もしないうちに終わってしまうのが 1 年で、何かをできるのが 2 年という期間だと思います。

【金沢大学】 2. の会長選出と合わせて、適任かつ熱意のある会員に活動をリードしていた

だけの可能性がある。

【金沢工業大学】北陸信越工学教育協会の活動を活発化するために、革新的な会長方針を打ち出し、会員各位の合意を得ながらそれらを達成するには、過去10年間に亘り3回の会長を拝命した経験からも、本協会の会長任期は1期2年が至当である。

【信州大学工学部】北陸信越工学教育協会の活動をより活発にするために、各種取り組みを検討・実施するには、1年より長い任期を持つことにより実効性があると思われま

【信州大学繊維学部】現在は工学部長等が会長になることを前提に任期が決まっていますので、人選方法を変えるなら任期も変更してもよいと思います。

【富山大学】2年としてよいと思います。ただ、現在の工学部長等の輪番制では、大学毎の任期がありますので、あまり意味をなさない場合もあり得ます。

○反対の理由

【新潟大学】現在の輪番制で担当するのであれば、役職に就いている期間が、各大学で異なりますので、任期1年とならざるを得ないと考えます。

2. 北陸信越工学教育協会の会長は、現在各大学の工学部長等が慣例により就任していますが、役職にこだわらない人選を行うことについて

賛成 【6大学】 反対 【2大学】

○賛成の理由

【福井大学】人材による

【金沢大学】より活動に熱心な会員が、全体をリードできる可能性がある。

【金沢工業大学】従来、慣例により各大学の工学部長等が北陸信越工学教育協会の会長を務めてきているが、本来本協会について精通しているべき工学部長がその職に就任してはじめて本協会の存在を認識したケースもあり、このようなことでは本協会の発展は困難であると言っても過言ではない。従って、同協会の会長は役職に拘ることなく、各大学に於いて工学教育・技術者教育に通暁した人材を選出する必要がある。

【信州大学工学部】工学教育協会の発展のためには、役職指定ではなく、会員の中で工学教育に熱心な高い意識を持った方が就任することが良いと思われま

【信州大学繊維学部】工学教育協会に熱心に関わっている先生方がどの大学にもいます。その方々を中心に運営するのが良いのではないのでしょうか。

【富山大学】工学部長等にこだわることなく、北陸信越工学教育協会の活動に熱心な方で良いと思います。この際、輪番制も廃止し、北陸信越工学教育協会をリードして頂ける方を、例えば選挙によって選出するのが良いと思います。

○反対の理由

【新潟大学】 工学部長等が理事となっていることから、会長を役職者にこだわらないことにするには無理があります。ただし、本協会を学会と同様な組織と考えるならば、会長も理事も役職にこだわることはないと考えます。そうであれば、会長の任期を2年とすることも可能となります。この場合は、各大学の事務から関係する(事務的な)仕事を抜くことも考えねばなりません。この点を考えると、やはり無理と結論せざるを得ません。

【長岡技術科学大学】 北工教の会長職の意義、仕事内容が教員間で浸透しているときは役職にこだわる必要はないと思いますが、現時点では、少なくとも本学に順番が回ってきたときには人選に苦勞するので、自動的に工学部長になると思います。

3.その他、北工教の活性化についてご提案、ご意見をご記入ください。

【福井大学】 北工教に限らず、北信越地区の大学間交流を多面的に行える基盤・システム(組織と仕組み、予算)を検討する方が良くはないか。

【新潟大学】 JABEE などがある、各大学では工学教育に以前とは比較にならないほど多くの努力をしています。協会の目的は教育の活性化であって、協会の活性化を目的にすることは少し違うと思います。

従って、各大学等での取組等の情報交換が行えれば、それで十分と考えます。

【金沢大学】 そもそも地区工教制を廃止し、日本工学教育協会の支部制に切り替えるべきである。

【金沢工業大学】

(1) 職務上、同協会の会長は輪番制によって工学部長等が勤め、そのサポート役として当該大学において工学教育・技術者教育に通暁した人材を副会長として選出する。

但し、この場合は会則の一部改正が必要となる。

(2) 公益法人日本工学教育協会の第61回年次大会は3年後の平成25年に開催され、北陸信越工学教育協会が当番地区工教として担当することが決定している。平成16年には北工教が担当し、従来の公演数が200件程度でものを、一躍360件に引きあげることが出来た。その後、継続して約400件の後援が行われて来ているが、再度エポックメイキングを達成するためには国際セッションも設けられていることから、【500件の講演数】を目標に現時点から準備に取り掛かる必要がある。このような準備態勢を整えることこそ、北工教の活性化に直結する。

(3) 平成19年度に於ける学校教育法第58条の一部改正によって、高等教育機関の教員は人材育成をその使命の第一義とする必要性が明確となった。従って、公益財団法人日本工学教育協会が認定する「教育士(工学・技術)」に関わる資格(特別、上級、中級、初

級)を取得し、教員の教育力について保護者や社会への説明責任を果たす必要がある。このことは北工教の活性化を齎す淵源でもあり、自らの教育力の向上のためにも上記教育士(5年間の継続ポイントの維持)をそれぞれ取得することが望まれる。

- (4) 平成20年度に本協会の会長(3回目)を拝命し、日工教と北工教との個人会員の一体化について日工教の事務局と意見交換し、北工教の活性化目指して「プロパガンダ・シート」を作成したが、各県支部長からは不満足のないようであるとの意見が大勢を占めた。従って、今期の会長(富山大学廣瀬工学部長)は前記プロパガンダ・シートを凌駕するような活性化案を作成する必要がある。

【富山大学】現在の富山県支部の主な活動は、年2回の講演会です。それも担当された先生の研究分野の学術講演がほとんどです。本来であれば、工学教育に関する講演会とするべきものと考えます。このままの北陸信越工学教育協会ならば、もはや不要と思います。

したがって、石川先生ご指摘のように、活性化が必要だと思います。

どのように活性化すればよいのか、具体的には判りません。

石川先生ご提案のように、会長の任期を2年とし、工学部長等にこだわることなく、北陸信越工学教育協会の活動に熱心な方の強いリーダーシップで活性化して頂くしかないので考えています。

また、日本工学教育協会との関係は見直す必要があると考えています。日本工学教育協会は法人化の申請の際に、地区工学教育協会とは別の組織と明言されました。そのことと、現在の実態、さらには、石川先生ご指摘の一体化は矛盾すると思います。北陸信越工学教育協会を一旦廃止し、日本工学教育協会の北陸信越支部として新しく組織するのが一番良いと考えます。

平成23年2月7日

北陸信越工学教育協会各県支部長 殿

北陸信越工学教育協会長
(富山大学工学部長)
広瀬 貞樹

北陸信越工学教育協会 WG メンバーの推薦について(依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このことについて、北陸信越工学教育協会第133回理事会(平成22年10月21日開催)におきまして、「北陸信越工学教育協会の活性化について」実質的な活動を議論していくために工学教育に熱心に関わっている精通された方で組織するWGを置くことが了承されました。

つきましては、WGを平成23年度から発足するにあたり、各県支部から1名の方をWGメンバーとしてご推薦いただきますようよろしくお願いいたします。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、平成23年3月18日(金)まで、下記事務担当宛、「所属機関名、会員氏名、学科等」をご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

事務担当

北陸信越工学教育協会事務局

富山大学工学系支援グループ 加藤 恵子

TEL: 076-445-6701, FAX: 076-445-6705

E-mail: keikato@adm.u-toyama.ac.jp

北陸信越工学教育協会役員並びに総会・理事会担当支部等一覧

年度	役員					事業企画委員会		総会	理事会		備考
	会長	副会長		監事		委員長	副委員長		春	秋	
		大学	業界	大学	業界					工学部長会議	
20	石川	長野	福井	長野	石川			石川	石川	信州大(繊維)	
21	長野	富山	新潟	富山	長野			長野	長野	長岡技科大	
22	富山	福井	石川	福井	富山			富山	富山	金沢大	
23	福井	新潟	長野	新潟	福井			福井	福井	信州大(工)	
24	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	福井大	
25	新潟	石川	富山	石川	新潟			新潟	新潟	富山大	新潟県(公社)日工教年次大会
26	〃	〃	〃	〃	〃			〃	〃	新潟大	
27	石川	長野	福井	長野	石川			石川	石川	信州大(繊維)	
28	〃	〃	〃	〃	〃	石川	長野	〃	〃	長岡技科大	
29	長野	富山	新潟	富山	長野	長野	富山	長野	長野	金沢大	
30	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	信州大(工)	
元	富山	福井	石川	福井	富山	富山	福井	富山	富山	福井大	
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	新潟大	
3	福井	新潟	長野	新潟	福井	福井	新潟	福井	福井	富山大	
4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	信州大(繊維)	長野県(公社)日工教年次大会
5	新潟	石川	富山	石川	新潟	新潟	石川	新潟	新潟	長岡技科大	
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	金沢大	
7	石川	長野	福井	長野	石川	石川	長野	石川	石川	信州大(工)	
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	福井大	

❖役員（会長、副会長、監事）の任期は2年。これに伴い総会及び春の理事会の担当も2年となる。但し、秋の理事会は1年任期としている。

2011 (H. 23)年度

会 長	小倉久和	福井大学
福井県支部長	城野政弘	福井工業大学
長野県支部長	岡本正行	信州大学 (工)
新潟県支部長	永井淳夫	日本精機(株)
富山県支部長	石原外美	富山大学
石川県支部長	山崎光悦	金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部 (83) 福井工業高等専門学校 (17) 福井工業大学 (10) 企業 (14)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (49) 信州大学繊維学部 (11) 信州大学全学教育機構 (1) 長野工業高等専門学校 (17) 企業 (22)・一般 (5)
新潟県	新潟大学工学部 (71) 長岡技術科学大学 (28) 新潟工科大学 (41) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (5) 企業 (16)・一般 (2)
富山県	富山大学工学部 (71) 富山県立大学 (4) 富山高等専門学校 (25) 企業 (16)・一般 (1)
石川県	金沢大学理工学域 (54) 金沢工業大学 (259) 石川工業高等専門学校 (13) 金沢工業高等専門学校 (23) 企業 (24)・一般 (0)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会第 134 回理事会及び第 60 回評議員会・通常総会

開催日：平成 23 年 5 月 12 日 (木)

場 所：ユアーズホテルフクイ

1. 審議事項

1) 北陸信越工学教育協会会報 第 60 号

平成 23 年度の事業として、協会 60 周年の記念号として発行してはどうかとの意見については、審議の結果、今年度設ける予定の北陸信越工学教育協会活性化 WG に検討を願うこととなった。

2) 北陸信越工学教育協会規程の一部改正

昨年 10 月日工教が公益社団法人となったことと北陸信越工学教育協会活性化に関連する規定の一部改正について審議され、原案通り承認された。

新	旧
第6章 <u>公益社団法人日本工学教育協会の役員等</u> 第22条 会長は、公益社団法人日本工学教育協会の依頼に応じて、理事及び各種委員を紹介するものとする。 第23条 削除	第6章 <u>社団法人日本工学教育協会の役員等</u> 第22条 会長は、会長を含め本会の支部長のうちから3人を社団法人日本工学教育協会の理事に推薦する。 第23条 会長は、本会の理事のうちから2人を社団法人日本工学教育協会の評議員に推薦する。

3) 北陸信越工学教育協会活性化 WG の設置

各県支部より推薦されたメンバーの説明の後、各委員から、高専グループおよび金沢工大からも WG 構成員に加えてはどうかとの意見があり、審議され、金沢工大から1名を加え、高専については高専同士のグループで検討を持つこととして承認された。

<WG の検討課題>

- ①教員の意識改革を図る方策
- ②教育論文の評価をどうするか
- ③会報の記念発行の件
- ④産学連携教育に関して

などが示された。

❖北陸信越工学教育協会活性化 WG メンバー (H.23.4～)

座長 橋本明弘

支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 准教授	田代 発造
福井県支部	福井大学大学院工学研究科 電気・電子工学専攻 教授	橋本 明弘
石川県支部	金沢大学理工研究域 物質科学系 教授	千木 昌人
石川県支部	金沢工業大学 バイオ・化学部 応用化学科 教授	大澤 敏
新潟県支部	新潟大学工学部 附属工学力教育センター 教授	岡 徹雄
長野県支部	信州大学工学部 情報工学科 教授	海尻 賢二

○H.23.5.12 開催の総会において、金沢工業大学選出の委員が追加された。

❖北陸信越工学教育協会 WG メンバー (23.5～)

県支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 准教授	田代 発造
○福井県支部	福井大学大学院工学研究科 電気・電子工学専攻 教授	橋本 明弘

石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学系 教授	猪熊 孝夫
石川県支部	金沢工業大学 バイオ・化学部 応用化学科 教授	大澤 敏
新潟県支部	新潟大学工学部 附属工学力教育センター 教授	岡 徹雄
長野県支部	信州大学工学部 情報工学科 教授	海尻 賢二

❖H19 年度 H 2 3 年 9 月 8 日（木）（公社日工教第 5 9 回大会）

第 2 0 回日本工学教育協会賞

業績賞

福井工業大学 教授 本江 哲行

☆古民家修復作業を通じた建築体験教育の実践（福井県勝山市小原集落の再生をめざして）

❖北陸信越工学教育協会第 135 回理事会

平成 23 年 10 月 27 日（木）（ホテルメトロポリタン長野）

活性化 WG の橋本座長から平成 23 年 7 月 29 日、30 日に第 1 回 WG の開催したとの中間答申報告が行われた。

- ・活性化の一環として、北陸信越地区での工学教育に関する情報の共有化を目指し、各県支部において各会員校の教育評価体制の紹介を行う地区研究集会の開催を企画する。
- ・各県で開催される「工学教育への取り組みと教育評価体制に関する研究集会」の成果を支部ごとに取り纏めていただき、「北陸信越の高等教育機関における工学教育への取り組みと教育評価体制に関するシンポジウム」を開催（H.25.3）し、その内容を北陸信越工学教育協会会誌第 6 1 号の特集とする。
- ・2012 年度「北陸信越地区の高等教育機関における工学教育への取り組みと教育評価体制に関するシンポジウム」で得られた成果を日工教年次大会で紹介し、北工教の活動をアピールするとともに各地区工教活動への問題提起を行いたい。
- ・継続的活性化案の起爆剤として平成 23 年度中に「北工教設立 60 周年記念事業」を開始する。
 - ①「60 周年記念シンポジウム」、②「60 周年記念シンポジウム」DVD 作成、③参加各校での「工学教育の進展と北陸信越工学教育協会の新たなる展開」連続講演会の開催
 - ④「北陸信越工学教育協会：6 0 周年記念号」の発行、⑤期限付き HP の開設から構成。
- ・各大学の教育担当の教員の集まりがあると何かと便利なことから、組織的活動の支援が北工教の役割なので実現に向けた計画を立てたい。
- ・以上のような活動を行うことにより、北工教独自の活動が出来ると考えられる。日工教の協力のもと何らかの形で教育 GP のような活動の公的な予算化を「広域連携支援事業」への応募という形で図りたい。
- ・会報への寄稿頁数は最低 4 ページから最大 16 ページに拡大する。

- ・ H25 年度は各県支部の「教育活動」と同様に研究集会を開催するとともに、年度末から総会にかけて取りまとめのシンポジウムを会長校で開催し、会報の特集とする。
- ・ H26 年度は共同研究や公開講座の開催などを含む「社会貢献」について各校の取り組みについての研究集会を各県支部で行い、年度末から総会にかけてシンポジウムを開催する。会報は「社会貢献」に関する特集とする。
- ・ H27 年度以降は「教育」、「研究」、「社会貢献」の各テーマで研究集会とシンポジウムを継続して開催し、その成果を特集として会報に掲載する。
- ・ 各校が自立的に「教育」、「研究」、「社会貢献」の業績報告書になるように編集などを工夫する。
- ・ 以上のような案に従って研究集会やシンポジウムを開催することにより、活性化に資することが出来るものと期待できる。

❖北陸信越工学教育協会 60 周年記念シンポジウム（第 1 回シンポジウム）

開催日：2012,平成 24 年 3 月 26 日（月）

開催場所：酒井メモリアルホール（金沢工業大学）

◎特別記念シンポジウム基調講演

演題：北陸信越工学教育協会 60 年の歩みと未来への展望と期待

講師：石川 憲一（金沢工業大学学長）

◎特別記念シンポジウム講演 I

演題：北陸信越工学教育協会への期待（大学からの期待）

～工学系学部の社会的責務を果たすために～

講師：山沢 清人（信州大学学長）

◎特別記念シンポジウム講演 II

演題：北陸信越工学教育協会への期待（高専の視座より）

講師：丁子 哲治（富山高等専門学校 副校長）

◎特別記念シンポジウム講演 III

演題：北陸信越工学教育協会への期待（産業界からの期待）

～産業競争力強化に向けた人材育成～

講師：上條 健（沖電気工業(株)研究開発センタ長）

◎記念シンポジウムパネル討議

パネル討議：工学教育協会への思い ～新たな 60 年への挑戦～

パネラー：小倉 久和（福井大学）加納 重義（金沢大学）石原 外美（富山大学）

岡本 正行（信州大学）坪川 紀夫（新潟大学）

司会：高田 雅介（長岡技科大理事・副学長）橋本 明弘（福井大学）

日工教・年次大会講演発表論文数並びに「工学教育」誌掲載論文数

高等教育機関名	講演発表論文数	掲載論文数 *
新潟大学工学部	60	7
長岡技術科学大学	10	7
富山大学工学部	15	6
金沢大学工学部	50	10
福井大学工学部	18	8
信州大学工学部（繊維学部含む）	65	11
富山県立大学	4	1
新潟工科大学	13	0
金沢工業大学	449	64
福井工業大学	0	0
新潟工業短期大学	0	0
長岡工業高等専門学校	0	1
富山高等専門学校 （富山工業高専・富山商船高専）	8	3
石川工業高等専門学校	8	2
福井工業高等専門学校	10	7
長野工業高等専門学校	35	8
金沢工業高等専門学校	34	6

【平成3年～23年(公社)日本工学教育協会事務局まとめ】

*掲載論文数は59巻4号(7月)まで

2012 (H.24)年度

会 長 岩井善郎 福井大学
 福井県支部長 城野政弘 福井工業大学
 長野県支部長 大石修治 信州大学（工）
 新潟県支部長 市橋利晃 日本精機(株)
 富山県支部長 石原外美 富山大学
 石川県支部長 加納重義 金沢大学

支部名	機 関 名 (会員数)
福井県	福井大学工学部（78） 福井工業高等専門学校（16） 福井工業大学（18） 企業（14）・一般（0）

長野県	信州大学工学部（４５） 信州大学繊維学部（１１） 信州大学全学教育機構（１） 長野工業高等専門学校（１７） 企業（２２）・一般（５）
新潟県	新潟大学工学部（７２） 長岡技術科学大学（２５） 新潟工科大学（４０） 新潟工業短期大学（４） 長岡工業高等専門学校（５） 企業（１６）・一般（１）
富山県	富山大学工学部（６７） 富山県立大学（５） 富山高等専門学校（２４） 企業（１６）・一般（２）
石川県	金沢大学理工学域（５２） 金沢工業大学（２５２） 石川工業高等専門学校（１３） 金沢工業高等専門学校（２４） 企業（２４）・一般（０）

学校会員 17 校

❖H23 年度 H24.8.22 (公社日工教第 60 回年次大会)

第 16 回工学教育賞

工学教育賞

金沢工業高等専門学校

☆5 年一貫の工学・英語協同学習と F D 活動 ～グローバル化に即した実践型技術者の育成～

第 21 回日本工学教育協会賞

論文・論説賞

金沢工業大学 准教授 畝田 道雄

金沢工業大学 教授 石川 憲一

☆学生相互添削方式を導入したアクティブラーニング法の提案とその有効性評価法
協会貢献賞

長野県坂城町 町長 山村 弘

☆マイスター・学生教育士制度によるものづくり人材育成教育

❖北陸信越工学教育協会第 137 回理事会

開催日 平成 24 年 10 月 18 日 (木)

開催場所 ユアーズホテル福井

報告事項

- ・北陸信越工学教育協会年次大会シンポジウムの開催

「北陸信越地区における特色ある工学教育への取り組みに関するシンポジウム」

平成 25 年 3 月 1 日 (金) 於：福井大学

◆北陸信越工学教育協会第2回シンポジウム

開催日：2013.3.1

開催場所：福井大学

北陸信越地区における特色ある工学教育への取り組みに関するシンポジウム

◎シンポジウム講演I

演題：福井工業大学におけるものづくり教育

講師：川島 洋一 福井工業大学工学部デザイン学科

◎シンポジウム講演II

演題：福井モデルの構築に向けて

講師：小野田 信春 福井大学大学院工学研究科

◎シンポジウム講演III

演題：総合力教育とアクティブラーニング

～金沢工業大学の技術者教育：CDIO教育との対比をまじえて～

講師：佐藤 恵一 金沢工業大学 教務部長

◎シンポジウム講演IV

演題：金沢大学の産学連携による博士人材のキャリア形成教育

講師：森本章治、前川幸次、細川晃、田中志信、水野元博 金沢大学大学院 自然科学研究科)、森茂、山崎光悦 (金沢大学 産学連携博士人材養成センター)

◎シンポジウム講演V

演題：信州大学(工学部、繊維学部)における人材養成の取り組み

講師：海尻賢二(信州大学工学部)

◎シンポジウム講演VI

演題：新潟大学工学部の工学力教育とその高度化の取り組み

講師：岡徹雄、鳴海敬倫、阿部和久、山際和明、山内健、坪川紀夫(新潟大学工学部)

◎シンポジウム講演VII

演題：第10回富山大学工学部FDシンポジウム

講師：平澤良男(富山大学工学部機械知能システム工学科)

◎シンポジウム講演VIII

演題：新潟工科大学におけるキャリア形成教育の取り組み

講師：村上肇、飯野秋成、花岡明正、長谷川次郎(新潟工科大学)

◎シンポジウム講演IX

演題：福井高専における早期ものづくり教育支援

～女子中学生に向けたものづくり情報発信～

講師：佐藤匡、池田大祐、田中嘉津彦(福井工業高等専門学校)

2013 (H.25)年度

会 長	金子双男	新潟大学
新潟県支部長	市橋利晃	日本精機(株)
富山県支部長	堀田裕弘	富山大学
石川県支部長	澁谷進	澁谷工業(株)
福井県支部長	小野田信春	福井工業大学
長野県支部長	大石修治	信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (70) 長岡技術科学大学 (24) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (5) 企業 (16)・一般 (1)
富山県	富山大学工学部 (61) 富山県立大学 (4) 富山高等専門学校 (24) 企業 (15)・一般 (3)
石川県	金沢大学理工学域 (174) 金沢工業大学 (278) 石川工業高等専門学校 (12) 金沢工業高等専門学校 (27) 企業 (24)・一般 (0)
福井県	福井大学工学部 (90) 福井工業高等専門学校 (14) 福井工業大学 (18) 企業 (13)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (44) 信州大学繊維学部 (9) 信州大学全学教育機構 (1) 長野工業高等専門学校 (18) 企業 (22)・一般 (4)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会第 138 回理事会及び第 62 回評議員会・通常総会

開催日 平成 25 年 5 月 9 日 (木)

開催場所 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

議長 金子双男協会会長 (新潟県支部長・新潟大学工学部長)

議事

- ・北陸信越工学教育協会規程の一部改正 (案) について

事務局から、日本工学教育協会のシニア会員の会費に関して関連規定を整備する旨の説明があり審議し、承認された。

新	旧
(略)	(略)
第 32 条の 2 公益社団法人日本工学教育協会に加入している会員の会費は、前条に規定する会費に次の年額を加算した金額とする。	第 32 条の 2 公益社団法人日本工学教育協会に加入している会員の会費は、前条に規定する会費に

<p>(1) 前条(1)に規定する個人会員 年額 4,000 円 (ただし、Web 割引制度適用者は 3,000 円、 <u>シニア割引制度適用者は 2,000 円</u>)</p>	<p>次の年額を加算した金額とする。 (1) 前条(1)に規定する個人会員 年額 4,000 円 (ただし、Web 割引制度適用者は 3,000 円)</p>
---	---

❖北陸信越工学教育協会活性化 WG メンバー (H.25.4～)

座長 橋本明弘

支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 教授	平澤 良男
福井県支部	福井大学大学院工学研究科 電気・電子工学専攻 教授	橋本 明弘
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学系 教授	猪熊 孝夫
石川県支部	金沢工業大学 バイオ・化学部 応用化学科 教授	大澤 敏
新潟県支部	新潟大学工学部 附属工学力教育センター 教授	岡 徹雄
長野県支部	信州大学工学部 情報工学科 教授	海尻 賢二

❖2012 年度 H25.8.29 (公社日工教第 61 回年次大会)

第 17 回工学教育賞

論文・論説部門

金沢工業大学基礎教育部 准教授 竹俣 一也

金沢工業高等専門学校電気電子工学科 教授 南出 章幸

金沢工業大学基礎教育部 教授 松石 正克

☆CDIO アプローチを活用した工学設計教育 工学教育, 60 巻 2 号 pp.15-21
(2012.3)

❖北陸信越工学教育協会各県支部研究集会講演

開催日：平成 25 年 12 月 18 日 (水)

開催場所：富山大学工学部

テーマ：「特色ある工学研究への取り組み」

・演題：第 11 回富山大学工学部 FD シンポジウム

講師：豊岡尚樹 (富山大学工学部生命工学科)

・演題：福井大学での特色ある研究への取り組み

～ミッション再定義を受けて～

講師：末 信一郎(福井大学大学院工学研究科)

・演題：福井工業大学における特色ある研究への取り組み

講師：砂川武義（福井工業大学工学部）

- ・演題：福井高専地域連携テクノセンターにおける産官学連携の取り組み
～コンテストを通じた教育、研究、地域貢献～

講師：吉田雅穂（福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター）

- ・講演：新潟大学工学部における特色ある工学研究への取り組み

講師：児玉竜也、山口芳雄、西村伸也、田邊裕治（新潟大学工学部）

- ・講演：金沢大学理工研究域サステイナブルエネルギー研究センター（RSET）の取り組み
講師：高橋光信（金沢大学理工研究域 RSET センター長）

❖日本工学教育協会 北陸信越工学教育協会講演 補遺版

- ・講演：技術者教育の進化に向けて

～戦略的技術者育成アドバンストコース～

講師：原田信弘（長岡技術科学大学工学研究科）

- ・講演：長岡高専における技術者教育の取り組み

講師：山崎誠、外山茂浩、矢野昌平、床井良徳（長岡工業高等専門学校）

2014 (H.26)年度

会 長	田邊裕治	新潟大学
新潟県支部長	市橋利晃	日本精機(株)
富山県支部長	堀田裕弘	富山大学
石川県支部長	澁谷進	澁谷工業(株)
福井県支部長	小野田信春	福井工業大学
長野県支部長	大石修治	信州大学 (工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (69) 長岡技術科学大学 (21) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (4) 企業 (16)・一般 (1)
富山県	富山大学工学部 (52) 富山県立大学 (5) 富山高等専門学校 (18) 企業 (15)・一般 (3)
石川県	金沢大学理工学域 (173) 金沢工業大学 (271) 石川工業高等専門学校 (14) 金沢工業高等専門学校 (26) 企業 (24)・一般 (0)
福井県	福井大学工学部 (88) 福井工業高等専門学校 (14) 福井工業大学 (10) 企業 (13)・一般 (0)

長野県	信州大学工学部（４１） 信州大学繊維学部（８） 信州大学全学教育機構（１） 長野工業高等専門学校（１４） 企業（２２）・一般（４）
-----	---

学校会員 17 校

◆北陸信越工学教育協会第 140 回理事会及び第 63 回評議員会・通常総会

開催日 平成 26 年 5 月 8 日（木）

開催場所 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟

議長 田邊裕治北工教会長（新潟県支部長・新潟大学工学部長）

議事

（１）北陸信越工学教育協会活性化 WG の活動について

活性化 WG 委員長橋本 明弘（福井大学大学院工学研究科教授）から北陸信越工学教育協会活性化 WG の活動内容について報告があった。

（２）北陸信越工学教育協会活性化 WG の創設について

北陸信越工学教育協会活性化 WG 委員長から、活性化 WG の後継としての、北陸信越工学教育協会活性化 WG の設立準備について説明があった。

意見①

会員から、現在の活性化 WG の総括もされていないこの時期に、設立を認める必要があるかどうかは疑問である。

意見②

活性化 WG が創設される以前の停滞した状態に陥る恐れがある。

意見③

必要であれば常設の委員会という形に格上げするべきではないか。

以上の意見を踏まえ、議長から、活性化 WG の活動期間があと約 1 年半あることから、活性化 WG において事業企画 WG 創設の準備を進めること及び、常設の委員会への格上げについては次回の理事会等で継続して審議することとしたい旨の提案があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

（３）福井大学との「グローバル人材育成推進事業国際シンポジウム」の共同開催の件

北陸信越工学教育協会活性化 WG 委員長から「グローバル人材育成推進事業国際シンポジウム」を本協会が福井大学等と共同で開催したい旨の説明があった。

会員からは一高等教育機関の事業を北工教と共同で主催するのは如何なものかとの意見があり、本協会を主催として実施し、全支部長が講演するなどの意見調整があった。議長からは、本協会を主催として開催することを前提とし、その内容については WG において一層精査・検討を願うこととしたい旨の提案があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

❖北陸信越工学教育協会第 141 回理事会

開催日 平成 26 年 10 月 17 日 (水)

開催場所 ホテルスポーリア湯沢

議長 田邊裕治協会会長 (新潟県支部長・新潟大学工学部長)

報告事項及び協議事項

(1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。

(2) 平成 26 年度グローバル人材シンポジウムについて

北陸信越工学教育協会橋本活性化 WG 委員長から、本年度の総会・評議員会において開催が承認されたグローバル人材シンポジウムについて、現在予定されている内容及び経費として講師謝金・旅費等併せて 100~120 万円が見込まれる旨の説明があった。

これに関して、今年度の総会・評議員会において、本協会が主催となることで承認されているが、福井大学と本協会の共同主催とし、費用については折半とすることとした旨の提案があった。

これに関して意見交換が行われ、財源に関して

意見①

昨年度開催の日本工学教育協会年次大会の余剰金が考えられる。

意見②

この余剰金の使途については決定していない。

意見③

使い方を決めずに使用するのには問題がある。

意見④

本協会の活性化に重点的に配分するべきである。

などの意見交換の後、議長から、主催は本協会及び福井大学とする。

予算は、今年度の予算として計上されている活性化WG活動経費を充て、不足分については余剰金から支出する。

昨年度の日工教年次大会の余剰金の使途、使用方法については別途検討することとしたい旨の提案があり、審議の結果これを承認した。

❖北陸信越工学教育協会シンポジウム

開催日：2014 (平成 26) 年 12 月 17 日 (水)

開催場所：福井大学 文京キャンパス 総合研究棟 I

「グローバル化時代の人材育成に関するシンポジウム」

～グローバル化時代の工学教育に向けて～

開会挨拶：岩井善郎 氏 (国立大学法人福井大学 副学長、研究・国際担当理事)

基調講演：イギリスから見た日本の大学

講師：刈谷剛彦 氏 (Oxford University 教授)
 招待講演：シリコンバレーにおける新たな大学設立の試み
 講師：梶本博之 氏 (B-Bridge Lnternational Inc.CEO&President)
 招待講演：企業が求めるグローバル人材と大学への期待
 講師：澁谷進 氏 (澁谷工業(株)取締役副会長)
 閉会挨拶：石川憲一 氏 (北陸信越工学教育協会次期会長 金沢工業大学学長)
 参加者：140名

2015 (H.27)年度

会 長 石川憲一 金沢工業大学
 石川県支部長 加納重義 金沢大学
 福井県支部長 小野田信春 福井工業大学
 長野県支部長 半田志郎 信州大学 (工)
 新潟県支部長 田邊裕治 新潟大学
 富山県支部長 堀田裕弘 富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学理工学域 (174) 金沢工業大学 (276) 石川工業高等専門学校 (15) 金沢工業高等専門学校 (26) 企業 (24)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (89) 福井工業高等専門学校 (13) 福井工業大学 (10) 企業 (13)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (40) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (1) 長野工業高等専門学校 (16) 企業 (21)・一般 (1)
新潟県	新潟大学工学部 (69) 長岡技術科学大学 (21) 新潟工科大学 (40) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (2) 企業 (16)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (48) 富山県立大学 (5) 富山高等専門学校 (17) 企業 (15)・一般 (2)

校会員 17校

❖北陸信越工学教育協会 第142回理事会及び第64回評議員会・通常総会
 開催日：平成27年5月7日(木)
 開催場所：金沢工業大大学21号館
 出席者：58名(委任状622名：会員総数880名)

開会挨拶 会長 石川憲一（金沢工業大学学長）

議事

- (1) 平成 26 年度事業報告、平成 26 年度決算
- (2) 平成 27 年度選出役員の審議、平成 27 年度事業計画の承認
- (3) 平成 27 年度予算案の審議、承認
- (4) 永年勤続者表彰案の承認
- (5) 北陸信越工学教育協会活性化 WG 活動について

報告者：北陸信越工学教育協会活性化 WG 委員長（橋本明弘福井大学教授）

- i) 平成 28 年度以降創設予定の北陸信越工学教育協会で運用するホームページの開設について

質問：ホームページ開設の趣旨及び情報発信の対象者は誰なのか、現在の会報による情報発信では不足なのか。

回答（WG 委員長）：ホームページの主たる利用者は会員で、一過性のメール配信による情報発信ではなく、必要に応じて情報を確認できる利便性ととも、会報とは異なるタイムリーな情報共有が図られることが期待できる。さらに、中高生や一般の方にも北陸信越工学教育協会を知って頂くことも期待できる。現在、各大学が発信する独自の情報があり、各県では大学コンソーシアムによる集約化が図られているが、北陸信越地域の工学教育という視点で北陸信越工学教育協会のホームページと加盟機関がリンクすることによって、本協会のホームページを参照すれば、北陸信越地域の工学教育についての情報が集約して提供されることになり、さらなる連携と改善を図ることが期待できる。

質問：ホームページを開設してもコンテンツが問題であり、どのような運用を構想しているのか。

回答（WG 委員長）：(株)CirKit にお願いしようとしているものは、各県支部にホームページのアクセス権を与え、各県支部で簡単にコンテンツをホームページにアップできる仕組みを提供して頂く予定である。ご指摘のとおりコンテンツはニュース性が重要となることから更新が停滞した場合には、更新を促すこともお願いする予定である。

質問：ホームページの開設について活性化WGの終了年度に提案し、その後の運用についてはどのようにするか、また、昨年度の活性化WGで予算を増額し、さらに事前協議もなく増額することについては如何なものか。

回答（WG 委員長）：ホームページの開設後の運用については、先の提案で来年度以降常設をお願いしている事業企画委員会が担当する予定としている。また、事前協議については、活性化WGの中間答申や過去3回の理事会でホームページ開設の説明をしてきており、技術や価格、運用面等で先送りとなっており、(株)CirKitにより、ようやく目途が立ったことから提案させて頂いていることを勘案して頂きたい。

質問 :北陸信越地区における女性エンジニア育成への提案についてもいえるが、具体的で実効性のある企画と資金も含めて実質的な支援を行わないと活性化に繋がらない。ホームページ開設についても同様であり、会員対象であれば、早期に陳腐化してしまふ。会員のみならず一般の女性を積極的に取り込むようなコンテンツが必要であり、特に教育は母親の影響が大きい。その点も含めホームページ開設について具体性のない議論のように思われる。

回答 (WG 委員長) :ご指摘の助成の取り込みについては、今後の大きな課題でありホームページの活用も含め、WG としての検討課題としたい。

ii) 平成 27 年度年次シンポジウムについて

意見 :報告の中で年次シンポジウムについての説明があったが、新潟県支部では今年度は国際シンポジウムを計画しており、可能であれば活性化 WG で検討頂き、北陸信越工学教育協会の支援を頂き共催としたい。支援が困難であれば講演を検討頂きたい。次回の理事会には具体的な提案をしたい。

回答 (WG 委員長) : 検討させて頂きたい。

議長から、今後も活性化 WG において一層精査・検討を願う提案の後、審議し承認された。

❖北陸信越工学教育協会活性化 WG メンバー (27.4～)

座長 橋本 明弘

支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 教授	平澤 良男
福井県支部	福井大学大学院工学研究科 電気・電子工学専攻 教授	◎橋本 明弘
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学系 教授	猪熊 孝男
石川県支部	金沢工業大学 バイオ・化学部 応用化学科 教授	大澤 敏
新潟県支部	新潟大学工学部 附属工学力教育センター 教授	岡 徹雄
長野県支部	信州大学工学部 環境機能工学科 教授	中村 正行

◎活性化 WG が検討した事業企画委員会 (常設) への引継ぎ事項

(1) 平成 28 年度 年次シンポジウム

「女性技術者の活躍を促す工学教育の取り組み」

企画案 : 2016 年 11 月～2016 年 12 月中旬ごろまでに開催を予定

北陸信越工学教育協会会報 第 65 号への特集掲載

(2) 平成 20 年度以降の北工教事業企画委員会 (常設) での検討課題

①事業企画支援

- a) シンポジウムなどの事業企画
- b) 日工教との連携による広域連携事業の補助金獲得
- c) 会員校への教育活動評価制度の調査・取り纏め
- d) シリコンバレー大学（仮称）との連携事業
- e) 産業界における人材育成のネットワークづくりの支援
- f) 中小企業向け人材育成セミナーの北工教によるコーディネート（実施は参加企業
にお願いする）
- g) 企業における人材教育支援（講師紹介など）
- h) 「教育士」制度の普及・管理
- ②(株)CirKit との連携による ICT を活用した事業支援
 - a) 北工教 HP の統括管理と利用拡大（各種イベント紹介など）
 - b) 会報作成及び会報情報の発信など
 - c) 国内・海外インターンシップや海外留学紹介など
 - d) 協会会員のバーチャルコミュニティの創設
など

(3) H28 年度以降の各県支部研究集会テーマ（案）

H28 年度「工学教育における女性エンジニア育成への特色ある取り組み」

H29 年度「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」

(4) 北陸信越地区工学分野の女性エンジニア育成への提案

- ① 会員各校の女性エンジニア育成強化状況の現状の把握と広域連携
- ② オープンキャンパス等における地元アイドルの活用など成功事例のHPなどによ
る発信：SNS やインターネットの活用
- ③ 北陸信越地区の女性エンジニア・ツイッター開設や支援
- ④ 活躍するエンジニア特集号やアニメの企画 など

❖2014 年度 H27.9.2 (公社日工教第 63 回大会)

第 19 回工学教育賞

業績部門

金沢工業高等専門学校先進教育推進室

☆工学教育を基盤とした新しい形の地域連携教育の推進

❖北陸信越工学教育協会第 143 回理事会

開催日 平成 27 年 10 月 16 日（金）

開催場所 戸倉上山田温泉 清風閣

議長 石川憲一協会会長（石川県支部長・金沢工業大学学長）

議事

- (1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。
- (2) 平成 27 年度北陸信越工学教育協会活性化 WG の活動報告について
活性化 WG 委員長橋本明弘（福井大学大学教授）から過去 5 年間の WG 活動内容の報告を行い、これまでの総括として平成 27 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウム開催の提案と年次大会の内容を本協会会報に特集記事としたい旨の提案があり、審議の結果、承認された。
- (3) 北陸信越工学教育協会ホームページ開設について
今年度の総会・評議員会において、承認された北陸信越工学教育協会ホームページ開設の進捗状況について、(株)CirKit 山岸芳夫社長（金沢工業大学准教授）から実際の Web 画面に基づき機能概要の報告があった。

❖平成 27 年度「北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム」

～北工教活性化ワーキング5年間の取組みの成果と課題～

日時 2016年3月4日（金）13:00～16:40

場所 金沢工業大学 酒井メモリアルホール

基調講演

潮田 資勝

うしおだ すけかつ

昭和 16 年 9 月 12 日生

ダートマス大学、ペンシルベニア大学で学び、1969 年ペンシルベニア大学院博士課程修了。同年カリフォルニア大学アーバイン校理学部物理学科助教授、74 年同准教授、78 年同教授。85 年東北大学電気通信研究所教授、2004 年北陸先端科学技術大学院大学長、08 年 物質・材料研究機構フェロー・NIMS ナノテクノロジー拠点長、09 年 7 月から 15 年 12 月まで物質・材料研究機構 理事長。専門分野は物理学、表面物性。

プログラム

- 13:00 開会挨拶 会長：金沢工業大学 石川 憲一
- 13:05 基調講演「21世紀の理工学教育について」
元国立研究開発法人 物質・材料研究機構 理事長 潮田 資勝 氏
- 14:00 招待講演「日本工学教育協会の現状と課題」
日本工学教育協会 専務理事 剣持 庸一 氏
- 14:45 休 憩
- 15:00 講演 1「活性化 WG の 5 年間を振り返って -現状と課題-」
福井大学 橋本 明弘 氏
- 15:45 講演 2「北工教の 5 年間を振り返って -企業会員の視点から-」
アルスコンサルタンツ株式会社代表取締役社長 大深 伸尚 氏
- 16:30 閉会挨拶 石川工業高等専門学校 村本健一郎
- 17:00 意見交換会 21号館2F イルソーレ 会費 3,000円

2016 (H.28)年度

会 長	大澤敏	金沢工業大学
石川県支部長	上杉喜彦	金沢大学
福井県支部長	小野田信春	福井大学
長野県支部長	半田志郎	信州大学 (工)
新潟県支部長	田邊裕治	新潟大学
富山県支部長	堀田裕弘	富山大学

支部名	機 関 名 (会員数)
石川県	金沢大学理工学域 (179) 金沢工業大学 (270) 石川工業高等専門学校 (17) 金沢工業高等専門学校 (25) 企業 (24)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (91) 福井工業高等専門学校 (13) 福井工業大学 (8) 企業 (12)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (41) 信州大学繊維学部 (9) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (14) 企業 (20)・一般 (3)
新潟県	新潟大学工学部 (67) 長岡技術科学大学 (20) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (3) 企業 (13)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (48) 富山県立大学 (5) 富山高等専門学校 (18) 企業 (15)・一般 (0)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会第 144 回理事会及び第 65 回評議員会・通常総会

開催日 平成 28 年 5 月 13 日 (金)

開催場所 金沢マンテンホテル駅前 2 階会議室

議長 大澤敏北工教会長 (石川県支部長・金沢工業大学学長)

議事

- (1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。
- (2) 北陸信越工学教育協会事業企画委員会発足について

議長から、平成 23 年度に北陸信越工学教育協会の活性化のために発足した活性化 WG 委員長橋本 明弘 (福井大学大学教授) から北陸信越工学教育協会活性化 WG の 5 年間の活動概要と後継の事業企画委員会への引継ぎ事項の説明があった。

また、事業企画委員会として独自の活動が出来るようにする「北陸信越工学教育協会事業企画委員会規程 (案)」の提示と既に内諾をいただいている事業企画委員会委員候補者の紹介があり、委員会設置に関連する事項について審議し、事業企画委員会の発足、運営規程、委員会委員について原案通り承認された。

(2-1) 年次シンポジウム(案)について

議長から、シンポジウムは「女性技術者の活躍」という提案もあるが、今回の出席者には事業企画委員会委員の候補者が2名出席されていることから、本年度の年次シンポジウム開催テーマおよび委員長、副委員長の互選については委員会に於いて議論されることを依頼した。

§ ～～ §

参考資料

北陸信越工学教育協会事業企画委員会規程(案)

(平成28年4月1日施行)

第1条 この規程は、北陸信越工学教育協会規程第12条に基づく事業企画委員会(以下「委員会」という。)について、必要な事項を定める。

第2条 委員会は、北陸信越工学教育協会規程第4条の目的と第5条の事業を推進するための企画及び情報発信とその管理を行う。

第3条 委員会は、地域の各県の支部から推薦された会員を委員として構成する。

第4条 委員会に、次の役員を置く。

(委員長) 1人

(副委員長) 1人

2 委員の任期は2年として、再任および移動による委員の交代を妨げない。

第5条 委員長は委員会を代表して会務を統理し、委員会の議長となる。

第6条 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはこれに代わる。

第7条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、その議長を務める。

2 委員長に支障があるときは、副委員長が議長の職務を代行する。

第8条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

第9条 議長は、委員会で審議された事項をとりまとめて議事録を作成し、理事会に報告する。

第10条 委員会で審議された内容及び報告事項については、機密を漏らしてはならない。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

§ ～～ §

❖北陸信越工学教育協会活性化 WG（H23 年度～H27 年度の実績）活動報告

報告者 活性化 WG 座長 橋本 明弘（福井大学教授）

(1) 北陸信越工学教育協会 60 周年記念シンポジウムの開催

開催 平成 24 年 3 月 26 日 於：金沢工業大学酒井メモリアルホール

(2) 北陸信越工学教育協会 60 周年記念シンポジウムの DVD 作成

(3) 各県支部研究集会及び年次シンポジウム講演会の開催（@各県支部）

H24 年度 「特色ある工学教育への取り組み」年次シンポジウム開催

「特色ある工学教育への取り組み」各県支部研究集会

H25 年度 「日工教年次大会における特別シンポジウム」（8/31）開催

「特色ある工学研究への取り組み」各県支部研究集会

H26 年度 「特色あるグローバル化への取り組み」各県支部研究集会

「グローバル化時代の人材育成に関するシンポジウム」（12/17）開催

H27 年度 「北工教活性化ワーキング 5 年間の取り組みの成果と課題」開催

各県支部研究集会

(4) 会報発行

北陸信越工学教育協会会報 第 60 号（60 周年記念号）129 頁 2012.4 発行

北陸信越工学教育協会会報 第 61 号 127 頁 2013.3 発行

北陸信越工学教育協会会報 第 62 号 119 頁 2014.3 発行

北陸信越工学教育協会会報 第 63 号 131 頁 2015.3 発行

北陸信越工学教育協会会報 第 64 号 137 頁 2016.3 発行

(5) 北陸信越工学教育協会 HP 開設（H28/3）、運用開始(H28/4)

❖平成 28 年度 北陸信越工学教育協会 事業企画委員会（第 1 回）

期日 平成 28 年 7 月 27 日（水）

場所 金沢マンテンホテル駅前

出席者 委員全員出席（6 名）

① 北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員（H.28.4～30.3）

委員長 鹿田正昭

副委員長中村正行

支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 准教授	増田 建一
福井県支部	福井大学学術研究院工学系部門 機械工学分野 教授	永井 二郎
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学系 教授	秋田 純一

石川県支部	金沢工業大学	教育支援担当副学長	教授	鹿田 正昭
新潟県支部	新潟大学工学部	附属工学力教育センター	教授	岡 徹雄
長野県支部	信州大学工学部	環境機能工学科	教授	中村 正行

* 委員長の選出は北工教の運営に準じ会長と密に意見交換をする必要があることから、幹事校からとした。

② 平成 28 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

委員長から、北陸信越工学教育協会活性化 WG で提案されていたテーマ「女性技術者の活躍を促す工学教育の取り組み」を採用することとし、会場は幹事校にて開催する。

開催日時 平成 28 年 12 月 2 日(金) 13:00～16:30

開催場所 金沢工業大学

プログラム(案)

開会挨拶 大澤 敏 金沢工業大学学長

基調講演 磯貝 恵美子氏 (株)デンソー技研センター技術研修部 室長

招待講演 塚田 竹美氏 (株)本田技術研究所 四輪 R&D センター 統合制御開発室

AD ブロック 研究員

講演 1 七尾 圭香氏 金沢工業大学大学院工学研究科博士前期課程 1 年

講演 2 見角 裕子氏 YKK 株式会社 工機技術本部 基盤技術開発部

閉会挨拶 須田 義昭 石川工業高等専門学校校長

③ 平成 28 年度県支部研修会について

議長から、本年度の年次シンポジウムのテーマが決定していることから、可能な限り今年度のテーマに沿った研究会を企画していただきたいとの要請があり、各委員はこれを了承した。

④ 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について

本年度から運用を開始した北工教のホームページについて各委員に活用を要請した。

各県支部の活動について、是非、事前案内やその成果についてホームページを通じて情報を発信して頂きたい旨、議長から要請があり、各委員はこれを了承した。

ホームページは常時情報の確認が可能であるが、自発的な参照が必要であることから、従来のプッシュ型のメール案内も併用して欲しいとの意見があった。

⑤ その他

議長から、平成 27 年度で終了した北陸信越工学教育協会活性化 WG で検討された多くの提案事項については、引き続き、事業企画として実施できるよう継続審議するとの提案について、承認された。

さらに、議長から、今後大学を取り巻く環境が、文部科学省が押し進める入試改革や高大接続等の更なる教育改革に関連し、現在、活性化 WG から提示されているテーマを含め、新たなテーマの事業企画が必要となることが想定されるので、各委員には、継続的に検討いただき、適時意見があれば、メールを持って意見交換を勧めたいとの提案があり、

各委員はこれを了承した。

平成 28 年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム プログラム

～女性技術者の活躍を促す工学教育の取り組み～

開催日時 平成 28 年 12 月 2 日 (金) 13:00～16:30

開催場所 金沢工業大学 酒井メモリアルホール

【公演プログラム】

- 13:00～13:10 開会挨拶 会長：金沢工業大学学長 大澤 敏
- 13:10～14:00 基調講演「企業で女性技術者の皆が活躍できるためには」
(株)デンソー技研センター技術研修部 室長 磯貝 恵美子 氏
- 14:00～14:45 招待講演「リケジョ～女性エンジニアの懸け橋として LAJ が出来ること」
(株)本田技術研究所 四輪 R&D センター 塚田 竹美 氏
- 15:00～15:30 講演 1 「金沢工業大学における女子学生の現状と課題」
金沢工業大学大学院工学研究科博士前期課程 1 年 七尾 圭香 氏
- 15:30～16:15 講演 2 「YKK における女性技術者への期待」
～できない理由ではなく、できる方法を考える～
YKK(株) 工機技術本部 基盤技術開発部 見角 裕子 氏
- 16:15～16:30 閉会挨拶
独立行政法人国立高等専門学校機構
石川工業高等専門学校長 須田 義昭 氏

§ ～ ～ ～ ～ §

❖北陸信越工学教育協会会報等経費等について
北工教会報印刷製本、発送を外注開始 (株)CirKit) 513,000 円

❖2015 年度 H28.9.5(公社日工教第 6 4 回大会)
第 2 0 回工学教育賞 著作部門
新潟大学 准教授 今村 孝 他 11 名

☆制御工学教育方法の検討と「制御工学～技術者のための、理論・設計から実践まで～」の著作

2017 (H. 2 9)年度

会 長	半田志郎	信州大学 (工)
長野県支部長	山浦愛幸	長野県経営者協会
新潟県支部長	小椋一夫	新潟大学
富山県支部長	石塚勝	富山県立大学
石川県支部長	上杉喜彦	金沢大学
福井県支部長	小野田信春	福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (3 9) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (9) 企業 (2 0)・一般 (3)
新潟県	新潟大学工学部 (6 6) 長岡技術科学大学 (1 9) 新潟工科大学 (3 7) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (2) 企業 (1 3)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (4 7) 富山県立大学 (4) 富山高等専門学校 (1 7) 企業 (1 5)・一般 (0)
石川県	金沢大学理工学域 (1 8 2) 金沢工業大学 (2 4 7) 石川工業高等専門学校 (1 9) 金沢工業高等専門学校 (2 7) 企業 (1 8)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (9 2) 福井工業高等専門学校 (1 4) 福井工業大学 (6) 企業 (1 3)・一般 (0)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会第 146 回理事会及び第 66 回評議員会・通常総会

開催日 平成 29 年 5 月 12 日 (金)

開催場所 ホテルメトロポリタン長野 2 階会議室

議長 半田志郎協会会長 (長野県支部長・信州大学工学部長)

議事

- (1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。
- (2) 平成 28 年度事業企画委員会報告及び平成 29 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムプログラム案について

中村正行事業企画委員会委員 (信州大学教授) から平成 28 年度事業企画委員会活

動について説明があり、引き続き、年次シンポジウムの原案の説明があった。

平成 29 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムプログラム（案）

「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」

開催日時 平成 29 年 11 月～平成 29 年 12 月 13：00～17：00

開催場所 信州大学 長野（工学）キャンパス

講演プログラム（案）

司会：事業企画委員長 信州大学工学部 中村正行

開会挨拶 信州大学学長 濱田州博

基調講演 文部科学省 高等教育担当課と打ち合わせる（未定）

招待講演 北陸信越県内の大学（テーマに関連した機関の方）

講演 1 信州大学工学部 佐藤副学部長

講演 2 企業の方

閉会挨拶 会長 信州大学工学部長 半田志郎

（3）その他

- ・（公社）日本工学教育協会各種委員について各担当県支部から推薦があり選出した旨の報告
- ・第 147 回理事会の担当支部（長野県支部）について
- ・北陸信越工学教育協会、（公社）日本工学教育協会会員数の報告

❖平成 29 年度北陸信越工学教育協会第 1 回事業企画委員会

開催日 平成 29 年 7 月 25 日（金）

開催場所 茶寮志もだ 長野市栗田北中 995-1 ホテルサンルート長野東口 1 階

① 平成 29 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

議長から、本シンポジウムについてはすでに第 145 回理事会において、北陸信越工学教育協会活性化 WG で提案されていたテーマ「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」ならびに開催会場、開催時期が決定しているとの報告があった。

委員からは講師選定に対して、女子学生やキャリアパスが見えるような後援者、企業からの博士課程の学生などの後援者を含めたらどうかとの提案があった。シンポジウムの案内についてはデザインを工夫することが提案された。

今後、候補者に講演を打診し、10 月 20 日（金）に開催される第 147 回理事会に最終

のシンポジウムプログラム案を提示し、その講演内容を第 66 回会報巻頭特集記事とすることが承認された。

② 平成 30 年度以降の年次シンポジウムのテーマについて

当委員会が継続的に検討する事項として年次シンポジウムのテーマの選定がある。文部科学省による入試改革や高大接続等の更なる教育改革進行するなか、当委員会の全組織である活性化 WG グループから提示されているテーマも含め、新たなテーマでの事業企画が必要となることが想定される。各委員には継続的に検討いただき、ご意見があれば、メールにより連絡いただき意見交換を進めるとした。

会議の席では、リカレント教育、社会人教育、生涯教育は地域や中小企業の人材育成とも密接に関わっており、今後テーマとして取り上げたい。また、オーバーエデュケーションも工学教育のコアカリキュラムに関連して取り上げたい。

③ 北陸信越工学教育協会会報特集記事について

特集として掲載する年次シンポジウムの報告については、前年度の作成方法を調査することにした。後日、金沢工業大学の山本知仁委員の調査によると、外部企業に委託しテープ起こしを行った後、事務局で文章データを校正し、そのデータを各講演者に渡して最終校正を願い原稿としたことの報告があり、今年度も前年度の手順を踏襲することにした。

④ 北陸信越工学教育協会ホームページについて

議長から、昨年度から運用を開始した本協会のホームページについて、各委員に活用を要請した。具体的な掲載内容としては、各県支部の活動状況、事業の開催案内やその成果をホームページに追記し、情報を発信して頂きたい旨の要請があり、了承された。

⑤ 北陸信越工学教育協会活性化 WG からの引継ぎ議案について

議長から、今後も活性化 WG で検討された提案事項を引き続き、事業企画として実施できるよう継続審議とする提案について承認された。

福井県では平成 29 年度は学生活動（ロボコン、コンテスト、課外、地域との関りと学生）に関するテーマでの研究集会を予定している。

❖北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員（H.29.4～）

県支部名	所 属	氏 名
長野県支部	信州大学工学部 機械システム工学科 (委員長) 教授	中村 正行
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 (副委員長) 教授	小熊 規泰
福井県支部	福井大学大学術研究院工学系部門 機械工学講座 教授	永井 二郎
新潟県支部	新潟大学工学部 附属工学力教育センター 教授	岡 徹雄
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学類 教授	秋田 純一
石川県支部	金沢工業大学 情報工学科 教授	山本 知仁

❖北陸信越工学教育協会会報等経費について

北工教会報印刷製本、発送を外注(株)CirKit) 508,464 円

❖2016 年度(H29.8.29)((公社)日本工学教育協会年次大会第 65 回大会)

第 21 回工学教育賞 著作部門

長岡工業高等専門学校 教授 鈴木 秋弘

富山高等専門学校 教授 川淵 浩之

長岡技術科学大学 教授 前川 博史 他 10 名

☆有機化学における実践的教育の展開と「Professional Engineer Library (PEL)有機 化学」
の著作

❖平成 29 年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」

開催日:平成29年12月1日(金) (信州大学ものづくり振興会第 3 回技術講演会)

開催場所:信州大学 国際科学イノベーションセンター【AICS】セミナースペース

講演プログラム(案)

司会:事業企画委員長 中村 正行(信州大学)

13:00~13:10 開会挨拶 信州大学長 濱田 州博

13:10~14:00 基調講演 大学における工学系教育の在り方について

文部省高等教育局専門教育課課長補佐

(併)技術者育成振興専門官 辻 直人 氏

14:00~14:50 招待講演 新潟大学工学部工学力教育センターが進める実践的工学教育

と産学連携への取り組み

新潟大学工学部工学力教育センター 岡 徹雄 氏

15:10~16:00 講演 信州大学工学部における社会人学び直し教育について

信州大学工学部副学部長 佐藤 敏郎

16:00~16:50 自動運転車と AI の進歩と課題

信州大学ものづくり振興会 元ホンダ技術研究所研究室長、現自動車技術会フェロー、

特別講演 フェローエンジニア 自動運転委員会委員 川合 誠 氏

16:30~16:40 閉会挨拶 信州大学副学長 半田 志郎

2018 (H.30)年度

会 長	天野良彦	信州大学 (工)
長野県支部長	山浦愛幸	長野県経営者協会
新潟県支部長	小椋一夫	新潟大学
富山県支部長	石塚勝	富山県立大学
石川県支部長	森本章治	金沢大学
福井県支部長	福井一俊	福井大学

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (40) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (7) 企業 (20)・一般 (3)
新潟県	新潟大学工学部 (63) 長岡技術科学大学 (19) 新潟工科大学 (38) 新潟工業短期大学 (4) 長岡工業高等専門学校 (2) 企業 (13)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (47) 富山県立大学 (2) 富山高等専門学校 (18) 企業 (15)・一般 (0)
石川県	金沢大学理工学域 (169) 金沢工業大学 (238) 石川工業高等専門学校 (21) 金沢工業高等専門学校 (27) 企業 (17)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (89) 福井工業高等専門学校 (14) 福井工業大学 (7) 企業 (13)・一般 (0)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員 (H.30.4～)

委員長 中村正行
副委員長増田健一

支部名	所 属	氏 名
長野県支部	信州大学工学部 機械システム工学科 教授	中村 正行
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 教授	小熊 規泰
福井県支部	福井大学大学院工学研究科 機械工学専攻 教授	永井 二郎
新潟県支部	新潟大学工学部 工学科 教授	永幡 幸生
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学類 教授	秋田 純一
石川県支部	金沢工業大学 情報工学科 教授	山本 知仁

❖北陸信越工学教育協会第 148 回理事会及び第 67 回評議員会・通常総会

開催日 平成 30 年 5 月 11 日（金）

開催場所 ホテルメトロポリタン長野 2 階会議室

議長 天野良彦協会会長（長野県支部長・信州大学工学部長）

議事

- （1）定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。
- （2）平成 29 年度事業企画委員会報告及び平成 30 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムプログラム案について
中村正行事業企画委員会委員（信州大学教授）から平成 29 年度事業企画委員会活動について説明があり、引き続き、年次シンポジウムの原案の説明があった。

❖平成 30 年度北陸信越工学教育協会第 1 回事業企画委員会

開催日 平成 30 年 7 月 20 日（金）

開催場所 茶寮志もだ 長野市栗田北中 995-1 ホテルサンルート長野東口 1 階

① 平成 29 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

議長から、本シンポジウムについてはすでに第 145 回理事会において、北陸信越工学教育協会活性化 WG で提案されていたテーマ「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」ならびに開催会場、開催時期が決定しているとの報告があった。

委員からは講師選定に対して、女子学生やキャリアパスが見えるような講演者、企業からの博士課程の学生などの講演者を含めたらどうかとの提案があった。シンポジウムの案内についてはデザインを工夫することが提案された。

今後、候補者に講演を打診し、10 月 20 日（金）に開催される第 147 回理事会に最終のシンポジウムプログラム案を提示し、その講演内容を第 66 回会報巻頭特集記事とすることが承認された。

② 平成 30 年度以降の年次シンポジウムのテーマについて

当委員会が継続的に検討する事項として年次シンポジウムのテーマの選定がある。文部科学省による入試改革や高大接続等の更なる教育改革進行するなか、当委員会の前組織である活性化 WG グループから提示されているテーマも含め、新たなテーマでの事業企画が必要となることが想定される。各委員には継続的に検討いただき、ご意見があれば、メールにより連絡いただき意見交換を進めるとした。

会議の席では、リカレント教育、社会人教育、生涯教育は地域や中小企業の人材育成とも密接に関わっており、今後テーマとして取り上げたい。また、オーバーエデュケーションも工学教育のコアカリキュラムに関連して取り上げたい。

③ 北陸信越工学教育協会会報特集記事について

特集として掲載する年次シンポジウムの報告については、前年度の作成方法を調査することにした。後日、金沢工業大学の山本委員の調査によると、外部企業に委託しテープ起こしを行った後、事務局で文章データを校正し、そのデータを各講演者に渡して最終校正を願い原稿としたことの報告があり、今年度も前年度の手順を踏襲することにした。

④ 北陸信越工学教育協会ホームページについて

議長から、昨年度から運用を開始した本協会のホームページについて、各委員に活用を要請した。具体的な掲載内容としては、各県支部の活動状況、事業の開催案内やその成果をホームページに追記し、情報を発信して頂きたい旨の要請があり、了承された。

⑤ 北陸信越工学教育協会活性化WGからの引継ぎ議案について

議長から、今後も活性化WGで検討された提案事項を引き続き、事業企画として実施できるよう継続審議とする提案について承認された。

❖北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員（H.30.4～）

県支部名	所 属	氏 名
長野県支部	信州大学工学部 機械システム工学科 (委員長) 教授	中村 正行
富山県支部	富山大学工学部 機械知能システム工学科 (副委員長) 教授	小熊 規泰
福井県支部	福井大学大学術研究院工学系部門 機械工学専攻 教授	永井 二郎
新潟県支部	新潟大学工学部 工学科 教授	永幡 幸生
石川県支部	金沢大学理工研究域 電子情報学類 教授	秋田 純一
石川県支部	金沢工業大学 情報工学科 教授	山本 知仁

❖2017年度(H30.8.29) ((公社)日本工学教育協会年次大会第66回大会)

第22回工学教育賞

文部科学大臣賞

石川工業高等専門学校建築学科

☆高専における地域を対象としたものづくり教育改革の継続的实践

❖北陸信越工学教育協会第149回理事会

開催日 平成30年10月12日(金)

開催場所 THE FUJIYA GOHONJIN

議長 天野良彦協会会長(長野県支部長・信州大学工学部長)

議事

(1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。

(2) 第23回(2018年度)工学教育賞の推薦依頼について

各県支部から積極的に推薦願いたい旨の依頼があった。

(3) 日本工学教育協会第7回 JSEE AWARD の募集について

各県支部から積極的に推薦願いたいことおよび北陸信越工学教育協会としての推薦を希望する場合は、長野県支部まで連絡願いたい旨の付言があった。

(4) 平成30年度事業企画委員会報告について

中村正行事業企画委員会委員（信州大学教授）の代理として、信州大学工学部事務部長（土屋）から、本年7月20日に開催した委員会の報告として、平成30年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムの開催について「産業界と連携を通じた大学院教育と人材育成」と題したプログラムの概要説明と今回の年次シンポジウムを本協会の会報第67号の巻頭特集記事としたい旨の提案があり審議の結果これらを承認した。

協議事項

- ・第150回理事会並びに第68回評議員会・通常総会の開催時期及び会場について
- ・平成31年度（公社）日本工学教育協会の各種委員会委員について
- ・平成30年度北陸信越工学教育協会・（公社）日本工学教育協会会員数及び支部交付金、支部負担金について
- ・平成30年度北陸信越工学教育協会会報の発行について

❖平成30年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム(案)

「産業界との連携を通じた大学院教育と人材育成」

開催日時:平成30年11月30日(金) 13:30～17:00

開催場所:信州大学繊維学部 総合研究棟7階ミーティングルーム

長野県上田市常田3-15-1

講演プログラム 司会:事業企画委員長 信州大学 中村正行

13:30～13:35 開会挨拶 信州大学長 濱田州博

13:35～14:20 基調講演 工学系教育改革等について

文部科学省高等教育局専門教育課 山路尚武 氏

14:20～14:50 事例紹介 繊維・ファイバー工学関連分野の大学院教育

1. 京の伝統工芸からの学び

京都工芸繊維大学 浦川宏 氏

15:00～15:30 講演 2. 大学間連携教育事業「繊維・ファイバー工学コース」

福井大学 末 信一朗 氏

15:30～16:00 講演 3. 博士課程教育リーディングプログラム

「ファイバールネサンスを先導するグローバルリーダーの養成」

信州大学繊維学部 下坂 誠 氏

16:30～16:50 招待講演 「企業から見た人材育成と大学院教育への要望」

東洋紡株式会社 坂本龍三 氏

16:50～17:00 閉会挨拶 会長:信州大学工学部長 天野良彦 氏

2019 (R.元)年度

会 長	會澤宣一	富山大学
長野県支部長	天野良彦	信州大学 (工)
新潟県支部長	小椋一夫	新潟大学
富山県支部長	賞雅寛而	富山高等専門学校
石川県支部長	森本章治	金沢大学
福井県支部長	田村隆弘	福井工業高等専門学校

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (47) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (7) 企業 (20)・一般 (2)
新潟県	新潟大学工学部 (63) 長岡技術科学大学 (16) 新潟工科大学 (39) 新潟工業短期大学 (5) 長岡工業高等専門学校 (3) 企業 (12)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (46) 富山県立大学 (0) 富山高等専門学校 (14) 企業 (15)・一般 (0)
石川県	金沢大学理工学域 (174) 金沢工業大学 (244) 石川工業高等専門学校 (23) 金沢工業高等専門学校 (27) 企業 (17)・一般 (1)
福井県	福井大学工学部 (88) 福井工業高等専門学校 (14) 福井工業大学 (6) 企業 (11)・一般 (0)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会第 150 回理事会及び第 68 回評議員会・通常総会

開催日 令和元年 5 月 17 日 (金)

開催場所 パレブラン高志会館 (富山市) 2 階嘉月の間

議長 會澤宣一協会会長 (長野県支部長・信州大学工学部長)

議事

- (1) 定例的な報告事項及び協議事項は原案通り承認された。
- (2) 平成 30 年度事業企画委員会報告及び令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポ

ジウムプログラム案について

小熊規泰事業企画委員会委員（富山大学教授）から平成 30 年度事業企画委員会活動について説明があり、引き続き、年次シンポジウムの原案の説明があり、原案のとおり承認された。

テーマ「産学連携による高度人材育成教育の取り組み」

開催期日 令和元年 11 月 15 日（金）

プログラム等（調整中）

❖令和元年度北陸信越工学教育協会第 1 回事業企画委員会

開催日 令和元年 7 月 25 日（木）

開催場所 日本料理 松や（CIC ビル 15 階）富山市新富町 1-2-3

① 令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

議長から、令和元年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムは、令和元年 11 月 15 日（金）13 時から 16 時 40 分の予定で富山大学工学部において開催する予定でテーマを「産学連携による高度人材育成教育の取り組み」としている説明があり、委員の承認を得た。今後、候補者に講演を打診したうえで、10 月 18 日（金）開催の第 151 回理事会にシンポジウムのプログラム案を提案する。その講演内容は会報第 68 号の特集として掲載する。このほか、北工教各県支部研究集会講演も組み入れたい。募集する原稿は 14 頁及び 15 頁としたい。

また年次シンポジウムの記事は、外部企業に託しテープ起こしを行った後、事務局で文章データの構成を行って最終原稿としたい。以上について承認を得る。

② 令和 2 年度以降の年次シンポジウムのテーマについて

当委員会が継続的に検討する事項として年次シンポジウムのテーマの選定がある。当委員会から新たなテーマの企画が必要となることから、各委員には継続的に検討いただき、ご意見があれば、メールにより連絡いただき意見交換を進めるとした。

③ 北陸信越工学教育協会ホームページ活用について

議長から、昨年度から運用を開始した本協会のホームページについて、各委員に活用を要請した。具体的な掲載内容としては、各県支部の活動状況、事業の開催案内やその成果をホームページに追記し、情報を発信して頂きたい旨の要請があり、了承された。

⑤ 北陸信越工学教育協会活性化 WG からの引継ぎ議案について

議長から、各県支部の活動情報の公開、その成果などをホームページにて発信して頂きたい。契約金額は、税別 サーバー運営 24 万円、ドメイン管理 3 万円の予定

❖北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員 (R.1.4～)

県支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学工学部 (委員長) 教授	小熊 規泰
福井県支部	福井大学工学部 (副委員長)	藤垣 元治
長野県支部	信州大学工学部 教授	山本 博章
新潟県支部	新潟大学工学部 教授	小椋一夫 (代理)
石川県支部	金沢大学理工学域 教授	秋田 純一
石川県支部	金沢工業大学工学部 教授	山本 知仁

❖北陸信越工学教育協会会報等経費について

北工教会報印刷製本、発送を外注 (株)CirKit) 492,085 円

❖2018 年度 R.1.9.4 ((公社)日本工学教育協会年次大会第 67 回大会)

第 23 回工学教育賞

業績部門

新潟大学 助教 松井 大輔

新潟大学 教授 岡崎 篤行

☆地域課題と柔軟に連動した実践型まちづくり教育の継続的展開

業績部門

福井大学 准教授 鈴木 啓悟 他 5 名

☆アジアブリッジコンペティションによる国際交流およびエンジニアリングデザインへの 取り組み

論文・論説部門

石川工業高等専門学校 教授 加藤 亨

石川工業高等専門学校 准教授 藤岡 潤

石川工業高等専門学校 技術職員 松岡 武史

石川工業高等専門学校 技術職員 泉野 浩嗣 他 1 名

☆高専における小人数影響を利用したヒヤリハット活動教育とその評価 (工学教育 66 巻 4 号, pp.45-51, 2018)

功績部門

金沢工業大学 名誉学長・顧問・教授 石川 憲一

☆工学教育の新たな発展に関する多大なる貢献

❖令和元年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「産学連携による高度人材育成教育の取り組み」

開催日:令和元年11月15日(金)

開催場所:富山大学工学部総合教育研究棟多目的ホール

講演プログラム 司会 小熊規泰 事業企画委員長 富山大学学術研究部工学系 教授

13:00～13:10 開会挨拶 富山大学理事・福学長 磯部裕子 氏

13:40～14:30 基調講演「大変革期における期待される人材」

アイシン軽金属株式会社 元副社長 村上 哲 氏

14:30～15:00 事例講演 1「産学官の協力による福井大学フォーミュラーカー製作プロジェクト活動」

福井大学学術研究院工学系部門 新谷真功 氏

15:20～15:50 事例講演 2「人材育成のための次世代教育システムの構築」

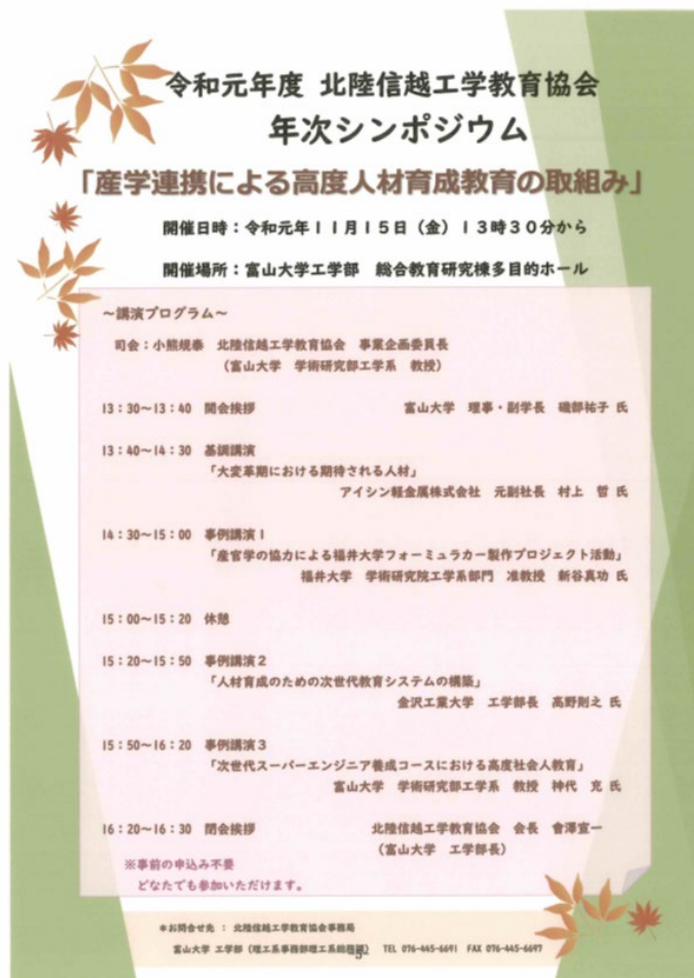
金沢工業大学工学部長 高野則之 氏

15:50～16:20 事例講演 3「次世代スーパーエンジニア養成コースにおける高度社会人教育」

富山大学学術研究部工学系 神代 充 氏

16:20～16:30 閉会挨拶 會澤宣一 北陸信越工学教育協会会長 富山大学工学部長

【参加者】 企業, 大学教職員, 学部生, 大学院生 計67名



2020 (R.2)年度

会 長	會澤宣一	富山大学
長野県支部長	天野良彦	信州大学 (工)
新潟県支部長	小椋一夫	新潟大学
富山県支部長	賞雅寛而	富山高等専門学校
石川県支部長	森本章治	金沢大学
福井県支部長	田村隆弘	福井工業高等専門学校

支部名	機 関 名 (会員数)
長野県	信州大学工学部 (47) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (0)
	長野工業高等専門学校 (7)
	企業 (20)・一般 (2)

新潟県	新潟大学工学部（58） 長岡技術科学大学（14） 新潟工科大学（38） 新潟工業短期大学（4） 長岡工業高等専門学校（3） 企業（12）・一般（0）
富山県	富山大学工学部（44） 富山県立大学（0） 富山高等専門学校（14） 企業（15）・一般（0）
石川県	金沢大学理工学域（172） 金沢工業大学（242） 石川工業高等専門学校（24） 金沢工業高等専門学校（27） 企業（16）・一般（0）
福井県	福井大学工学部（85） 福井工業高等専門学校（12） 福井工業大学（7） 企業（10）・一般（0）

学校会員 17校

❖令和2年度 北陸信越工学教育協会 第1回事業企画委員会議事録

【開催日時・場所・出席者】

日時 令和2年7月31日(金)15:00～17:00

場所 ZOOM によるオンライン会議

出席者

長野県 富山大学工学部 教授 小熊 規泰

富山県 福井大学工学部 教授 藤垣 元治

福井県 信州大学工学部 教授 山本 博章

新潟県 新潟大学工学部 教授 永幡 幸生

石川県 金沢大学理工学域 教授 下川 智嗣

石川県 金沢工業大学工学部 教授 山本 知仁

【議事】

(1)令和2年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

(2)北陸信越工学教育協会会報 69号の発行について

(3)北陸信越工学教育協会ホームページの活用について

(4)その他

【配布資料】

資料1 令和元年度北陸信越工学教育協会役員名簿

資料2 北陸信越工学教育協会役員並びに総会・理事会担当支部等一覧

資料3 北陸信越工学教育協会事業企画委員会規程

資料4 北陸信越工学教育協会規程

資料5 令和2年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム プログラム(案)

資料6 平成27年度～令和元年度シンポジウムテーマ

資料7 北陸信越工学教育協会会報第 69 号発行関係資料

資料8 北陸信越工学教育協会ホームページ関係資料

参考資料 平成30年度北陸信越工学教育協会事業企画委員会報告

【議事概要】

(1) 令和2年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

資料5および資料6に基づき、委員長より、令和2年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて、開催日は令和 2 年 11 月 20 日(金)に富山大学工学部にて開催する予定で段取りを進めていること、テーマは昨年度の委員会での決議を踏襲して、人工知能(AI)、ビックデータ(BD)、ディープラーニング(DL)、デジタルトランスフォーメーション(DX)に関するものとしたいことが諮られた。

委員から、タイムリーなトピックとして遠隔授業(オンライン教育)に関するテーマも良いのではないかと提案があったが、どの教員も対応に追われて話題提供できるほどの考察やまとめができていないのではないかと懸念があるとの意見があった。そのため、来年度のテーマの候補にすることとした。

種々議論の結果、シンポジウムテーマは「データサイエンス時代の工学教育」とし、提案日で開催することを決定した。基調講演は(株)インテック様をお願いする方向で検討し、事例講演 3 件は昨年度担当した大学以外で講師の選出をお願いしたが、信州大学と新潟大学はテーマと講師のマッチングが図れないことから、代わりに福井大学と富山大学から選出することとした(後日、金沢大学も選出が適わないことから金沢工業大学からの選出となった)。なお、例年通り、シンポジウム実施後に、その講演内容は会報第 69 号(ホームページ)に掲載することが承認された。

(2) 北陸信越工学教育協会会報 69 号の発行について

資料7に基づき、令和 3 年 3 月上旬に発行予定の会報第 69 号の掲載項目と原稿募集について審議された。掲載項目については前号と同様の構成とすることを確認した。また、原稿の募集についても資料7に記載のスケジュールで行うことを確認した。なお、特集として掲載する年次シンポジウムの報告については、昨年度の作成方法を踏襲することとした。すなわち、テープ起こしを外部企業に委託して行った後、事務局にて文章データの校正を行って最終の原稿とすることとした。

(3) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について

資料8に基づき、カテゴリー別アーカイブへの掲載が少ない現状を鑑み、積極的な活用を各委員に要請した。

(4) その他

委員長より、会員の増強案について諮られ、種々議論を行った。教員への PR 不足であり、会員となるメリットを打ち出していく方策を検討する必要があるとの意見があった。

◆2019年度(R.2.9.9) ((公社)日本工学教育協会年次大会第68回大会)

第24回工学教育賞

業績部門

長岡技術科学大学 SDGs推進室エデュケーション・アドミニストレーター
勝身 麻美

長岡技術科学大学 特任教授 三上 喜貴

長岡技術科学大学 特任教授 佐藤 一則

長岡技術科学大学 特任教 日下部 治

☆SDGs教育と実践的工学教育を柱とする教育プログラムの世界展開

◆令和2年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「データサイエンス時代の工学教育」(Zoom参加可)

開催日:令和2年11月20日(金)

開催場所:富山大学工学部総合教育研究棟多目的ホール

講演プログラム

司会 小熊規泰 事業企画委員長 富山大学学術研究部工学系 教授

13:00～13:10 開会挨拶 會澤宣一 北陸信越工学教育協会会長 富山大学工学部長

13:10～14:00 基調講演「AI技術の事業利用と技術者の育成」

株式会社インテック先端技術研究所 シニアスペシャリスト 青木 巧介 氏

14:00～14:45 事例講演1「人工知能の教育分野への応用可能性」

富山大学学術研究部工学系 准教授 参沢 匡将 氏

14:50～15:35 事例講演2「認知情報処理のデータサイエンス」

福井大学学術研究院工学部門 教授 高田 宗樹 氏

15:35～16:20 事例講演3「金沢工業大学におけるリカレント教育

～Society5.0をリードする人材の育成～」

金沢工業大学工学部 教授 山本知仁 氏

16:20～ 閉会挨拶 磯部正治 富山大学工学部副学部長

2021 (R3)年度

会 長	福井一俊	福井大学
新潟県支部長	原田伸弘	新潟大学
富山県支部長	會澤宣一	富山大学
石川県支部長	高野則之	金沢工業大学
福井県支部長	田村隆弘	福井工業高等専門学校
長野県支部長	天野良彦	信州大学(工)

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (61) 長岡技術科学大学 (14) 新潟工科大学 (36) 新潟工業短期大学 (5) 長岡工業高等専門学校 (3) 企業 (11)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (41) 富山県立大学 (0) 富山高等専門学校 (14) 企業 (14)・一般 (0)
石川県	金沢大学理工学域 (172) 金沢工業大学 (232) 石川工業高等専門学校 (21) 金沢工業高等専門学校 (27) 企業 (16)・一般 (0)
福井県	福井大学工学部 (83) 福井工業高等専門学校 (12) 福井工業大学 (7) 企業 (10)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (46) 信州大学繊維学部 (8) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (7) 企業 (20)・一般 (2)

学校会員 17 校

❖北陸信越工学教育協会事業企画委員会委員 (R.3.4～)

委員長 藤垣 元治

副委員長永幡 幸生

支部名	所 属	氏 名
富山県支部	富山大学学術研究部工学系 教授	小熊 規泰
福井県支部	福井大学工学部 教授	藤垣 元治
石川県支部	金沢大学理工研究域 教授	下川 智嗣
石川県支部	金沢工業大学工学部 教授	山本 知仁
新潟県支部	新潟大学工学部 教授	永幡 幸生
長野県支部	信州大学工学部 教授	和崎 克己

❖令和 3 年度 第1回事業企画委員会

【開催日時・場所・出席者】

日時:令和3年8月5日(金) 10:00～12:00

場所:ZOOM によるオンライン会議

出席者:富山県 富山大学 教授 小熊 規泰

福井県 福井大学 教授 藤垣 元治

長野県 信州大学 教授 和崎 克己

新潟県 新潟大学 教授 永幡 幸生

石川県 金沢大学 教授 下川 智嗣

金沢工業大学 教授 山本 知仁

【議事】

- (1) 令和 3 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて
- (2) 北陸信越工学教育協会会報 70 号の発行について
- (3) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について
- (4) その他

【配付資料】

- 資料1 令和 3 年度北陸信越工学教育協会役員名簿
- 資料2 北陸信越工学教育協会役員並びに総会・理事会担当支部等一覧
- 資料3 北陸信越工学教育協会事業企画委員会規程
- 資料4 北陸信越工学教育協会規程
- 資料5 令和元年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム プログラム(案)
- 資料6 平成 27 年度～令和 2 年度シンポジウムテーマと令和 3 年度以降の案
- 資料7 北陸信越工学教育協会会報の発行について(案)
- 資料8 北陸信越工学教育協会ホームページ関係資料
- 参考資料 令和 2 年度北陸信越工学教育協会事業企画委員会報告

【議事概要】

- (1) 令和 3 年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて
資料5および資料6に基づき、委員長より、昨年度の企画委員会の議事録により令和3年度の案は「遠隔授業(オンライン教育)に関するテーマ」としていること及び令和3年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて、11 月ごろの開催を考えていることの説明があった。検討した結果、次のように行うことになった。
 - ・今年度のシンポジウムのテーマは、「DX 時代の工学教育」とする。
 - ・日程は、11 月から 12 月とする。
 - ・9 月中に日程及び内容を確定する。来年度のテーマ案として「SDGs 関係の内容」とすることになった。
- (2) 北陸信越工学教育協会会報 70 号の発行について
資料7に基づき、令和 4年3月上旬に発行予定の会報第 70 号の掲載項目と原稿募集について審議された。掲載項目については前号と同様の構成とすることを確認した。また、原稿の募集についても資料7に記載のスケジュールで行うことを確認した。
- (3) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について
委員長より、イベントの案内などを掲載して活用することの依頼があった。
アップロードの方法など不明点を委員長が確認して委員に周知することになった。
- (4) その他
委員長より、会員の増強案について諮られ、種々議論を行った。企業会員を増やす方策に

ついて意見が交わされた。シンポジウム等に学生を多く参加してもらえるようにして、企業と学生の出会いの場になるような企画をしてもよいという意見が出された。

❖令和3年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「DX時代の工学教育」

開催日：令和3年12月14日（火）

開催場所：福井大学文京キャンパス（工学部）

講演プログラム

司会 藤垣 元治 事業企画委員長 福井大学

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～13:50 基調講演「大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ（スキーム D）について」

文部科学省高等教育局専門教育課 課長補佐 奥井雅博 氏

14:00～14:40 講 1「福井大学における数理・データサイエンス・AI 教育への取り組みについて」

福井大学工学系部門電気・電子工学講座 広瀬勝一 氏

14:40～15:20 講演2「教育の DX を見据えた教育基盤システムの構築

:教育機会の提供から学習行動履歴の収集まで」

信州大学工学部電子情報システム工学科 新村正明 氏

15:30～16:10 講演3「これまでの ICT 活用教育へのセンターの貢献と、

その発展としての今後の教育 DX 計画と ICT 活用の発展形」

金沢大学学術メディア創成センター 森 祥寛 氏

16:10～16:50 講演4「工学教育を用いた DX 時代の地域貢献」

新潟大学自然科学系情報電子工学系列 今井 孝 氏

16:50～17:00 閉会挨拶

福井大学工学部長 福井 一俊 氏

2022（R4）年度

会 長 福井一俊 福井大学
 新潟県支部長 小林幸夫 新潟大学
 富山県支部長 會澤宣一 富山大学
 石川県支部長 高野則之 金沢工業大学
 福井県支部長 田村隆弘 福井工業高等専門学校
 長野県支部長 天野良彦 信州大学（工）

支部名	機 関 名（会員数）
新潟県	新潟大学工学部（58） 長岡技術科学大学（12） 新潟工科大学（37）
	新潟工業短期大学（5） 長岡工業高等専門学校（3）

	企業（11）・一般（0）
富山県	富山大学工学部（50） 富山県立大学（0） 富山高等専門学校（11） 企業（12）・一般（0）
石川県	金沢大学理工学域（162） 金沢工業大学（234） 石川工業高等専門学校（21） 国際高等専門学校（17） 企業（16）・一般（1）
福井県	福井大学工学部（81） 福井工業高等専門学校（10） 福井工業大学（7） 企業（10）・一般（0）
長野県	信州大学工学部（44） 信州大学繊維学部（8） 信州大学全学教育機構（0） 長野工業高等専門学校（8） 企業（20）・一般（1）

学校会員 17 校

◆北陸信越工学教育協会第 158 回理事会、第 71 回評議員会・通常総会議

審議期間：令和 4 年 5 月 2 4 日（火）～令和 4 年 6 月 3 日（金）

審議方法：書面会議 会員数 839 中、回答が 839 に達していることから、北陸信越工学教育協会規程第 28 条の規定により、総会は成立した。

議事（1）から（6）までの事項については、会員の過半数の承認を得たことから承認された こととする。

- （1）令和 3 年度事業報告について
承認 839, 不承認 0 / 会員 839
- （2）令和 3 年度決算（案）について
承認 839, 不承認 0 / 会員 839
- （3）令和 4 年度役員（案）について
承認 839, 不承認 0 / 会員 839
- （4）令和 4 年度事業計画（案）について
承認 839, 不承認 0 / 会員 839
- （5）令和 4 年度予算（案）について
承認 839, 不承認 0 / 会員 839
- （6）令和 3 年度事業企画委員会報告及び令和 4 年度年次シンポジウムについて
承認 839, 不承認 0 / 会員 839

§ ～ ～ §

❖2021 年度 (R.4.9.7) ((公社)日本工学教育協会年次大会第 70 回大会)

第 26 回工学教育賞

論文・論説部門

金沢工業大学 教授 武市 祥司

金沢工業大学産学連携局研究支援推進部 副主幹 金子真由美

☆正課外活動の教育効果の体系的な検証の試み：金沢工業大学の準正課活動の実証研究 (工学教育 69 巻 1 号, pp. 19-27, 2021)

❖令和 4 年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム プログラム (案)

テーマ【SDGs に関する内容で検討中】

参考 R 元年度「産学連携による高度人材育成教育の取組み」

R 2 年度「データサイエンス時代の工学教育」

R 3 年度「DX時代の工学教育」

開催日時 令和 4 年 11 月頃を予定

開催場所 福井大学 文京キャンパス (工学部)

※開催方法については、新型コロナウイルスの感染状況により判断いたします。

講演プログラム (案)

司会：事業企画委員会委員長：福井大学 藤垣元治

13：00～13：10 開会挨拶 (検討中)

13：10～14：00 基調講演「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(○○○○○○○○○○ ○○○○ ○○ 氏)

14：00～14：45 招待講演「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(○○○○○○○○○○ ○○○○ ○○ 氏)

14：45～15：00 休憩

15：00～15：45 講演 1「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(○○○○○○○○○○ ○○○○ ○○ 氏)

15：45～16：30 講演 2「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(○○○○○○○○○○ ○○○○ ○○ 氏)

16：30～16：40 閉会挨拶 (会長：福井大学工学部長 福井一俊)

§ ～～・・・・・・・・・・・・・・・・～～…………… §

❖令和4年度第 1 回事業企画委員会議事録

【開催日時・場所・出席者】

日時:令和4年8月5日(金) 9:00～10:30

場所:ZOOM によるオンライン会議

出席者： 富山県 富山大学工学部 教授 小熊 規泰
福井県 福井大学工学部 教授 藤垣 元治
長野県 信州大学工学部 教授 和崎 克己
新潟県 新潟大学工学部 教授 山内 健
石川県 金沢大学理工学域 教授 下川 智嗣
金沢工業大学工学部 教授 山本 知仁

【議事概要】

(1) 令和4年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウムについて

資料5および資料6に基づき、委員長より、昨年度の企画委員会の議事録により R4年度の案は「(仮)工学教育における SDGs の取組み」であったことの説明があった。

検討した結果、次のように行うことになった。

- ・今年度のシンポジウムのテーマは、予定通り「工学教育における SDGs の取組み」とする。
- ・日程は、11 月から 12 月で事務局の予定も聞いて候補日を挙げる。
- ・ハイブリッド方式で行う。
- ・8 月下旬に日程を確定させる。
- ・各大学から講演の候補者を選出する。
- ・基調講演として国連の人や産業界の人に依頼する。

来年度以降のテーマ案として、令和 5 年度は「GX 関連テーマ」、令和 6 年度は「(仮)自然災害関連テーマ」とすることになった。

令和4年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

工学教育における **SDGs** の取組み

開催日時：**令和4年11月22日（火）13:00～17:00**
 開催場所：オンライン, 福井大学 文京キャンパス（工学部）
 ※開催方法については、新型コロナウイルスの感染状況により判断いたします。

<講演プログラム>

司会：事業企画委員会委員長 福井大学 藤垣 元治

13:00～13:10 開会挨拶（福井大学理事・副学長・SDGs推進室長 松木 健一）

13:10～13:45 講演① **SDGs推進人材=アントレプレナーの育成：
smartDESIGN-i(佐渡、長岡等の地域課題解決)**
新潟大学 地域創生推進機構 高島 徹 氏

13:45～14:20 講演② **「能登」で挑む持続可能なオーガニック養殖**
金沢大学 理工研究域 生命理工学系 能登海洋水産センター 松原 創 氏

14:20～14:55 講演③ **人口減少時代における低未利用地の活用による都市や
住環境の成熟化**
福井大学 工学部 建築・都市環境工学科 原田 陽子 氏

14:55～15:05 休憩

15:05～15:40 講演④ **SDGsに対応した建築物の研究開発と教育効果**
信州大学 工学部 建築学科 高村 秀紀 氏

15:40～16:15 講演⑤ **富山大学におけるPBL型授業の取組み**
富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 矢口 忠憲 氏

16:15～16:50 講演⑥ **金沢工業大学におけるSDGsイノベーション教育の推進**
金沢工業大学 SDGs推進センター所長 平本 督太郎 氏

16:50～17:00 閉会挨拶（北陸信越工学教育協会会長・福井大学工学部長 福井 一俊）

(2) 北陸信越工学教育協会会報 71 号の発行について

資料7に基づき、令和5年3月上旬に発行予定の会報第71号の掲載項目と原稿募集について審議された。掲載項目については前号と同様の構成とすることを確認した。また、原稿の募集についても資料7に記載のスケジュールで行うことを確認した。

(3) 北陸信越工学教育協会ホームページの活用について

資料8に基づき、委員長より、イベントの案内などを掲載して活用することの依頼があった。

(4) 北陸信越工学教育協会ホームページのサーバー移行について

資料9に基づき、委員長より、ホームページのサーバー移行の提案について説明があった。見積書と予算書も見て検討した結果、提案通り、令和4年度にサーバー移行を含めた委託をすることを可とすることにした。

2023 (R5)年度

会 長	飯山宏一	金沢大学
富山県支部長	小熊規泰	富山大学
石川県支部長	鹿田正昭	国際高等専門学校
福井県支部長	明石行生	福井大学
長野県支部長	天野良彦	信州大学 (工)
新潟県支部長	小林幸雄	新潟大学

支部名	機 関 名 (会員数)
新潟県	新潟大学工学部 (57) 長岡技術科学大学 (11) 新潟工科大学 (34) 新潟工業短期大学 (7) 長岡工業高等専門学校 (3) 企業 (12)・一般 (0)
富山県	富山大学工学部 (51) 富山県立大学 (0) 富山高等専門学校 (11) 企業 (12)・一般 (1)
石川県	金沢大学理工学域 (156) 金沢工業大学 (234) 石川工業高等専門学校 (19) 金沢工業高等専門学校 (12) 企業 (16)・一般 (3)
福井県	福井大学工学部 (78) 福井工業高等専門学校 (10) 福井工業大学 (6) 企業 (10)・一般 (0)
長野県	信州大学工学部 (41) 信州大学繊維学部 (7) 信州大学全学教育機構 (0) 長野工業高等専門学校 (8) 企業 (20)・一般 (1)

学校会員 17 校

◆2022 年度 (R.5.9.6) ((公社)日本工学教育協会年次大会第 71 回大会)

第 27 回工学教育賞

経済産業省産業技術環境局長賞

北陸先端科学技術大学院大学 教授 平石 邦彦 他 15 名

☆スマートエスイー：スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベティブ人材 育成

北陸信越工学教育協会 60周年記念シンポジウム

開催日:2012.平成24年3月26日

場所:金沢工業大学 酒井メモリアルホール

司会:高田 雅介(長岡技科大理事・副学長)

橋本 明弘(福井大学)

特別記念シンポジウム基調講演

演題:北陸信越工学教育協会60年の歩みと未来への展望と期待

講師:石川 憲一(金沢工業大学学長)

特別記念シンポジウム講演 I

演題:北陸信越工学教育協会への期待(大学からの期待)

～工学系学部の社会的責務を果たすために～

講師:山沢 清人(信州大学学長)

特別記念シンポジウム講演 II

演題:北陸信越工学教育協会への期待(高専の視点より)

講師:丁子 哲治(富山高専専門学校 副校長)

特別記念シンポジウム講演 III

演題:北陸信越工学教育協会への期待(産業界からの期待)

～産業競争力強化に向けた人材育成～

講師:上條 健(沖電気工業(株)研究開発センター長)

記念シンポジウムパネル討議

パネル討議:工学教育協会への想い ～新たな60年への挑戦～

パネラー:小倉 久和(福井大学)加納 重義(金沢大学)石原 外美(富山大学)

岡本 正行(信州大学)坪川 紀夫(新潟大学)

Engineering Education

平成27年度「北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム」

～北工教活性化ワーキング5年間の取組みの成果と課題～

日時 2016年3月4日(金) 13:00～16:40

場所 金沢工業大学 酒井メモリアルホール

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

プログラム

- 13:00 開会挨拶 (会長:金沢工業大学 石川 憲一)
- 13:05 基調講演「21世紀の理工学教育について」
(元国立研究開発法人 物質・材料研究機構 理事長 潮田 資勝 氏)
(福井大学 橋本 明弘 氏)
- 14:00 招待講演「日本工学教育協会の現状と課題」
(日本工学教育協会 専務理事 齋藤 康一 氏)
- 14:45 休憩
- 15:00 講演 1「活性化Wの5年を振り返ってー現状と課題ー」
(富山大学 橋本 明弘 氏)
- 15:45 講演 2「北工教の5年を振り返ってー企業会員の視点からー」
(アルスコンサルティング株式会社代表取締役社長 大隈 伸尚 氏)
- 16:30 閉会挨拶 (石川工業高等専門学校校長 村本健一郎)
- 17:00 意見交換会 (21号館2F イルゾーレ 会費 3,000円)

基調講演者

潮田 資勝
うしほ かつたか
昭和16年9月12日生まれ
早稲田大学、マシナリー工科大学で学び、1969年マシナリー工科大学工学博士を授けられた。同年よりマシナリー工科大学工学部教授、1974年同大学工学部教授、85年北陸先端科学技術大学院大学に、88年 物質・材料研究機構フェロー、NIMS ナノテクノロジー拠点長、09年7月から15年12月まで物質・材料研究機構 専務理事、専門分野は材料学、表面科学。



お申込み方法

参加申込の方は、メール、FAXにて以下をご連絡ください。

◆氏名:平成27年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウム

◆記載事項:参加者名、ご所属・所属、ご連絡先(E-mail、電話)

※複数でお申込みの方は、全員のお名前とご所属、意見交換会の参加の有・無をお書きください。

お申込み・お問い合わせ先
金沢工業大学事務局庶務課庶務課課員
TEL:076-294-6857
FAX:076-294-6701
E-mail:eyomu@mlist.kanazawa-it.ac.jp

主催 北陸信越工学教育協会

アクセス



●JR金沢駅から北鉄バスで約30分で金沢工業大学前

-4-

Engineering Education

平成28年度「北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム」

～女性技術者の活躍を促す工学教育の取り組み～

日時 2016年12月2日(金) 13:00～16:30

場所 金沢工業大学 酒井メモリアルホール

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

プログラム

- 13:00 開会挨拶 (会長:金沢工業大学学長 大澤 敏)
- 13:10 基調講演「企業で女性技術者の皆が活躍できるためには」
(朝日エンジニアリングセンター 室長 磯貝 恵美子 氏)
- 14:00 招待講演「リテラシー～女性技術者の懸け橋としてL.A.J.ができること」
(朝日エンジニアリングセンター 総合企画開発室 ADブロック 研究員 塚田 竹美 氏)
- 14:45 休憩
- 15:00 講演 1「金沢工業大学における女子学生の現状と課題」
(金沢工業大学大学院工学研究科博士前期課程1年 七尾 圭香 氏)
- 15:30 講演 2「YKKにおける女性技術者への期待」
(YKK 縫工業機本部 高級技術開発部 見角 裕子 氏)
- 16:15 閉会挨拶 (石川工業高等専門学校校長 須田 義昭)

基調講演者

磯貝 恵美子
いそがみ けいみこ
朝日エンジニアリングセンター
技術研修部 室長
1991年 朝日エンジニアリングセンターに入社、技術系職員の人事育成、研修企画に従事。主に、コミュニティセンター、入居者生活向上の研修企画および講師を務めている。2011年 朝日エンジニアリングセンター 総合企画開発部 研究科博士後期課程に社会人学生として入学、2014年3月に学位取得。



お申込み方法

参加申込の方は、メール、FAXにて以下をご連絡ください。

◆氏名:平成28年度北陸信越工学教育協会年次シンポジウム

◆記載事項:参加者名、ご所属・所属、ご連絡先(E-mail)

※複数でお申込みの方は、全員のお名前とご所属をお書きください。

お申込み・お問い合わせ先
金沢工業大学事務局庶務課
TEL:076-294-6857
FAX:076-294-6701
E-mail:eyomu@mlist.kanazawa-it.ac.jp

主催 北陸信越工学教育協会

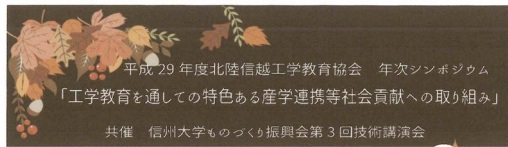
アクセス



●JR金沢駅から北鉄バスで約30分で金沢工業大学前

-5-

特集1 平成29年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム



平成29年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」

共催 信州大学ものづくり振興会第3回技術講演会

12/1(金) 13:00～17:00
信州大学 長野(工学)キャンパス (長野市道里4-17-1)
国際科学イノベーションセンター(AICS)E2棟 2階セミナースペース

【講演プログラム】

- 13:00～13:10 開会挨拶 信州大学長 濱田州博
- 13:10～14:00 基調講演 「大学における工学系教育の在り方について」
文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐 (併) 技術者養成振興専門官 辻 由人 氏
- 14:00～14:50 招待講演 「新潟大学工学部工学力教育センターが進める実践的工学教育と産学連携への取組」
新潟大学工学部工学力教育センター 岡 朝雄 氏
- 15:10～16:00 講演 「信州大学工学部における社会人学生が直し教育について」
信州大学工学部副学部長 佐藤敏郎
- 16:00～16:50 特別講演 「自動運転とAIの進歩と課題」
信州大学ものづくり振興会 元ユニテック研究所研究室長、自動車技術会フェロー、フェローシニア 自動車技術委員会 川谷 誠 氏
- 16:50～17:00 閉会挨拶 会長:信州大学学副学長 半田志郎

【問合せ先】

北陸信越工学教育協会事務局
信州大学工学部 事務部長 中山聡美
TEL 026-269-5002

【参加申込】

下記URLへアクセスの上、申し込み下さい
<https://goo.gl/forms/ZDlQ9vesHl2kZuRv1>



-5-

平成30年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

～産業界との連携を通じた
大学院教育と人材育成～

2018年
11/30 (金)
13:30～17:00

会場
信州大学繊維学部
総合研究棟
7階 ミーティングルーム1
長野県上田市常田3-15-1

～講演プログラム～
司会：中村 正行 事業企画委員長
(信州大学工学部教授)

13:30～13:35 開会挨拶 信州大学長 須田 州博
13:35～14:20 基調講演 「工学系教育改革等について」
文部科学省 高等教育局専門教育課 山路 尚武氏
14:20～16:00 事例講演1 「繊維・ファイバー工学関連分野の大学教育」
14:20～14:50 1.京の伝統工芸から学び
京都工芸繊維大学 浦川 宏氏
14:50～15:00 休憩
15:00～15:30 2.大学院連携教育事業「繊維・ファイバー工学コース」
福井大学 末 信一朗氏
15:30～16:00 3.博士課程教育リーディングプログラム
「ファイバーナレッジを先導するグローバルリーダーの養成」
信州大学繊維学部 下坂 誠
16:00～16:50 招待講演 「企業から見た人材育成と大学院教育への要望」
東洋紡株式会社 坂元 龍三氏
16:50～17:00 閉会挨拶 会長：信州大学工学部長 天野 良彦

会場へのアクセス
http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/guide/ctmap.html

参加申込方法
①インターネットでのお申込
https://goo.gl/forms/ERePHtBelCURy1
上記URLまたはQRコードより
アクセスしご入力をお願いします。
②ファックスでのお申込
「氏名」「ご連絡先」「連絡先」をご記入の上
ご連絡をお願いします。

お問合せ先
北陸信越工学教育協会事務局
信州大学 工学部
中山 智美
TEL 0265-269-5002
FAX 0265-269-5007

会場お問合せ先
信州大学 繊維学部
藤山 清
TEL 0265-21-5305
FAX 0265-21-5318

令和元年度 北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

「産学連携による高度人材育成教育の取組み」

開催日時：令和元年11月15日(金) 13時30分から
開催場所：富山大学工学部 総合教育研究棟多目的ホール

～講演プログラム～
司会：小熊規泰 北陸信越工学教育協会 事業企画委員長
(富山大学 学術研究部工学系 教授)

13:30～13:40 開会挨拶 富山大学 理事・副学長 磯部祐子 氏
13:40～14:30 基調講演
「大変革期における期待される人材」
アイシン精機株式会社 元副社長 村上 哲 氏
14:30～15:00 事例講演1
「産官学の協力による福井大学フォーミュラカー製作プロジェクト活動」
福井大学 学術研究部工学系部門 准教授 新谷真功 氏
15:00～15:20 休憩
15:20～15:50 事例講演2
「人材育成のための次世代教育システムの構築」
金沢工業大学 工学部長 高野剛之 氏
15:50～16:20 事例講演3
「次世代スーパーエンジニア養成コースにおける高度社会人教育」
富山大学 学術研究部工学系 教授 神代 克 氏
16:20～16:30 閉会挨拶 北陸信越工学教育協会 会長 會澤宣一
(富山大学 工学部長)

※事前の申込み不要
どなたでも参加いただけます。

お問合せ先：北陸信越工学教育協会事務局
富山大学 工学部 (理工系事務総務理工系総務課) TEL 076-445-6691 FAX 076-445-6697

令和2年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

開催 2021年2月19日(金)
13時30分～17時00分

開催方法 Zoomによるオンラインシンポジウム
下記よりお申込みください

データサイエンス時代の工学教育

プログラム 司会：小熊規泰 北陸信越工学教育協会 事業企画委員長
(富山大学学術研究部工学系 教授)

13:30～ 開会挨拶 北陸信越工学教育協会 会長 會澤 宣一
(富山大学工学部長)

13:40～ 基調講演 「AI技術の事業利用と技術者の育成」
株式会社インテック先端技術研究所 シニアスペシャリスト 青木 功介 氏

14:30～ 事例講演1 「人工知能の教育分野への応用可能性」
富山大学 学術研究部工学系 准教授 参沢 匡将 氏

15:15～ 休憩

15:20～ 事例講演2 「認知情報処理のデータサイエンス」
福井大学 学術研究部工学系部門 教授 高田 宗樹 氏

16:05～ 事例講演3 「金沢工業大学におけるリカレント教育
-Society5.0をリードする人材の育成-」
金沢工業大学 工学部 教授 山本 知仁 氏

16:50～ 閉会挨拶 富山大学 工学部 副学部長 磯部 正治

Zoom
参加申込先
メールアドレス：cirk@cirkit.jp
件名：「年次シンポジウム参加」

お問合せ先：北陸信越工学教育協会事務局
富山大学 工学部 (理工系事務総務理工系総務課)
TEL 076-445-6691 FAX 076-445-6697

令和3年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム

テーマ DX時代の工学教育

開催日時 令和3年12月14日(火) 13:00～17:00
開催場所 福井大学 文京キャンパス(工学部), オンライン
※開催方法については、新型コロナウイルスの感染状況により判断いたします。

講演プログラム

司会：事業企画委員会委員長：福井大学 津垣 元治

13:00～13:10 開会挨拶(福井大学理事・副学長 末 信一朗)

13:10～13:50 基調講演
大学教育のデジタルイノベーション・
イニシアティブ(スキームD)について
(文部科学省高等教育局専門教育課 課長補佐 奥井 雅博 氏)

13:50～14:00 休憩

14:00～14:40 講演1 福井大学における数理・データサイエンス・
AI教育への取り組みについて
(福井大学学長補佐・工学系部門電気・電子工学講座 廣瀬 勝一 氏)

14:40～15:20 講演2 教育のDXを見据えた教育基盤システムの構築：
教育機会の提供から学修行動履歴の収集まで
(信州大学工学部電子情報システム工学科 新村 正明 氏)

15:20～15:30 休憩

15:30～16:10 講演3 これまでのICT活用教育へのセンターの貢献と、
その発展としての今後の教育DX計画とICT活用の発展形
(金沢大学学術メディア創成センター 森 祥寛 氏)

16:10～16:50 講演4 工学教育を用いたDX時代の地域貢献
(新潟大学自然科学系情報電子工学系 今村 孝 氏)

16:50～17:00 閉会挨拶(福井大学工学部長 福井 一俊)

平成 29 年度北陸信越工学教育協会 年次シンポジウム
「工学教育を通しての特色ある産学連携等社会貢献への取り組み」

信州大学ものづくり振興会第 3 回技術講演会

開催日時 平成 29 年 12 月 1 日 (金) 13:00 ~ 17:00
会場 国際科学イノベーションセンター【AICS】 セミナースペース (2F)

【プログラム】 司会：事業企画委員長 信州大学工学部 中村正行

13:00 ~ 13:10	開会挨拶 信州大学長 濱田 州博
13:10 ~ 14:00 基調講演	「大学における工学系教育の在り方について」 文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐 (併) 技術者育成振興専門官 辻 直人 氏
14:00 ~ 14:50 招待講演	「新潟大学工学部工学力教育センターが進める 実践的工学教育と産学連携への取組」 新潟大学工学部工学力教育センター 岡 徹雄 氏
----- 14:50 ~ 15:10 休憩 (20 分間) -----	
15:10 ~ 16:00 講 演	「信州大学工学部における社会人学び直し教育について」 信州大学工学部副学部長 佐藤 敏郎
16:00 ~ 16:50 信州大学ものづくり振興会 特別講演	「自動運転車と AI の進歩と課題」 元ホンダ技術研究所研究室長、現自動車技術会フェロー、 フェローエンジニア 自動運転委員会委員 川合 誠 氏
16:50 ~ 17:00	閉会挨拶 信州大学副学長 半田 志郎

